

人文コミュニケーション学科カリキュラム・チェック・リスト

人文学部では、学部・学科のディプロマ・ポリシーを実現するため、カリキュラム・チェック・リストを作成し、公開することにしました。カリキュラム・チェック・リストとは、授業ごとの到達目標（学生が何をできるようになるかを箇条書きで示したもの）がディプロマ・ポリシーのどの項目と関連するかを一覧表の形で示したものです。このカリキュラム・チェック・リストによって、ディプロマ・ポリシーの各項目が、具体的にどの科目によって実現されるのかがわかります。

カリキュラム・チェック・リストは、教養科目、学科各コースの開講科目（人間科学コースの専門科目、歴史・文化遺産コースの専門科目、文芸・思想コースの専門科目、言語コミュニケーションコースの専門科目、異文化コミュニケーションコースの専門科目、メディア文化コースの専門科目）、学部共通科目の順番で示されています。

| 人文コミュニケーション学科ディプロマ・ポリシー | | | | | | | | | | |
|-------------------------|------------------------|---|------|---|--|--|-----------------|------------------|-----------------|--|
| I【知識・理解】 | | ・ 人間、社会、自然に関する幅広い教養を身につけている。 ・ 人文諸科学・コミュニケーション学の学問内容・方法を理解している。 | | | | | | | | |
| II【思考・判断】 | | ・ 人文諸科学・コミュニケーション学の専門性を踏まえて、人間や社会の問題について論理的かつ総合的に考察することができる。 | | | | | | | | |
| III【態度・行動】 | | ・ 学びを通じて自らを高め続ける力を身につけている。 ・ 多様な価値観を認め合いながら、人間の直面する諸課題に対して、自立的かつ主体的にかかわることができる。 ・ 市民としての社会的責任と役割について自覚し、他者と協力して目標に向かって努力することができる。 | | | | | | | | |
| IV【汎用的技能】 | | ・ 他者とコミュニケーションをとりながら、自らの思考・判断について文章・口頭で的確に説明することができる。 ・ 課題解決に必要な情報を広く収集し、分析・活用する能力を身につけている。 ・ 国際的な視野や外国語の基本的運用力を身につけている。 | | | | | | | | |
| 科目区分 | 授業科目名 | 単位 | 配当年次 | 授業の主題 | 授業の到達目標 | ディプロマポリシーの番号 | | | | |
| | | | | | | I 知識・ 理解 | II 思考・ 判断 | III 態度・ 行動 | IV 汎用的 技能 | |
| | | | | | | ◎ DP達成のためとくに重要 ○ DP達成のため重要 | | | | |
| 教養科目 | フレッシュマンゼミナール(主題別ゼミナール) | 2 | 1 | 人文学およびその周辺分野における資料や情報の収集方法を学んだ上で、各受講者が関心のあるテーマについて実際に調査・考察し、口頭発表を行った上でレポートを執筆する。 | (1)人文学およびその周辺分野を研究する際に必要な資料や情報の収集方法を学び、その能力を身につける。 (2)収集した資料や情報を理解し、そこから得られた事柄に基づいて論理的に思考する能力を身につける。 (3)自己の考えを口頭や文章で的確に表現する技術を身につける。 | | | | ◎ | |
| | フレッシュマンゼミナール(情報関連科目) | 2 | 1 | 大学での生活・勉学・研究を進める上で必要なコンピュータスキルを、講義と演習により習得することを目的とする。特に、レポート作成、卒業論文執筆、就職活動等の場面で、安全かつ適切なコンピュータ活用ができるように、実践的コンピュータスキルに焦点をあてる。 | (1)勉学・研究活動にコンピュータを積極的・安全に活用できる。 (2)コンピュータ・ネットワークを活用し必要な情報を収集できる。 (3)コンピュータを活用し基礎的な情報表現・編集ができる | | | | ◎ | |
| | 分野別教養科目(人文の分野) | 2 | 1 | 人文学の分野の題材を元に人文学の理念を知ると共に人間に対する理解を深める。 | (1)人文学の特定分野の基礎的理念・視点を身につける。 (2)人間に対する関心・問題意識を深めることができる。 | ◎ | ◎ | | | |
| | 分野別教養科目(社会の分野) | 2 | 1 | 社会科学の分野の題材を元に社会科学の理念を知ると共に社会に対する理解を深める。 | (1)社会科学の特定分野の基礎的理念・視点を身につける。 (2)人間社会に対する問題意識を深めることができる。 | ◎ | ◎ | | | |
| | 分野別教養科目(自然の分野) | 2 | 1 | 自然科学の分野の題材を元に自然科学の理念を知ると共に自然に対する理解を深める。 | (1)身近に見られる自然現象を自然科学的なもの見方で捉え考察することができる。 (2)自然に対する興味を深めることができる。 | ◎ | ◎ | | | |
| | 総合科目 | 2 | 1~2 | 複数の分野にわたるテーマや特定地域のテーマ・時事的テーマを扱い、総合的・全体的に物事を捉える姿勢を養成し、生涯学習の能力を高める。 | (1)物事を総合的・全体的に捉えることができるようになる。 (2)物事を主体的に判断することができるようになる。 (3)物事を主体的に判断することができるようになる。 | ◎ | ◎ | | | |
| | 外国語科目 | 2 | 1 | 外国語の総合的運用能力を身につける。 | (1)国際化・情報化社会に対応できる基礎的な言語運用能力を身につける。 (2)多様な文化と価値観を理解し、幅広い視野を見につける。 | | | | ◎ | |
| | 健康・スポーツ科目 | | 1 | 1~2 | 身体による体験学習を通して心身の調和を図り健康・体力増進をはかる。 | (1)生涯にわたり、健康的でより豊かな生活を設計するために必要な技術や知識を習得する。 (2)スポーツを通じて人間や自然とのコミュニケーションを深め、その意義を理解できるようになる。 | ○ | | | |
| | | | | | | | | | ○ | |

| 科目区分 | 授業科目名 | 単位 | 配当年次 | 授業の主題 | 授業の到達目標 | ディプロマポリシーの番号 | | | |
|-------------------------|-------------------------|----|------------------------------------|---|---|-------------------------------|-----------------|------------------|-----------------|
| | | | | | | I 知識・ 理解 | II 思考・ 判断 | III 態度・ 行動 | IV 汎用的 技能 |
| | | | | | | ◎ DP達成のためとくに重要 ○ DP達成のため重要 | | | |
| 教養科目 | 分野別基礎(入門心理学) | 2 | 1 | 現代の心理学における幅広い領域の中からいくつかのテーマを選んで、基本的な考え方を伝える入門的な講義を複数の教員で行う。 | (1)心理学という学問の基本的な考え方やその研究方法、どのような実践領域があるのかを理解できる。 | ◎ | | | |
| | 分野別基礎(歴史学への招待) | 2 | 1 | 歴史学・考古学の各分野を網羅的に概観することによって、学問の全体像を把握し、専門への橋渡しとする。 | (1)学問としての歴史学・考古学の方法・概要を理解している。 (2)歴史学或いは考古学の特定の分野について基礎的な考察を行い、その結果を論理的な文章によって表現することができる。 | ◎ | ○ | | ○ |
| | 分野別基礎科目(日本文化と中国文化) | 2 | 1 | 日本および中国の文化や文学の諸相について、各教員の専門分野に基づいて紹介し、それらの学問領域に対する受講生の興味関心を広げつつ、深く掘り下げる。 | (1)日本および中国の文化や文学について、その全体像と研究方法を理解する。 (2)各種参考書で予習・復習することにより、両国文化の諸相についての歴史や背景等を総合的に捉えられるようになる。 (3)授業を通じて得られた知識や情報について、実証的かつ主體的に考察し、自分の文章に美しくまとめ上げることができる基礎的能力を身につける。 | ◎ | ◎ | | ◎ |
| | 分野別基礎科目(哲学入門) | 2 | 1 | 西洋哲学と日本思想史の入門授業。「哲学的」問題から学問としての哲学への橋渡しをする。また日本人の思想・信仰の歴史と、それに強い影響を与えた仏教や中国の思想について学ぶことを通じ、日本文化についてより深く考えることができるようにする。 | (1)哲学・思想研究のやり方を理解する。 (2)西洋哲学の基本的な発想を説明でき、単純な「哲学的な悩み」から、学問的な探究に近づく。 (3)日本における宗教と思想の歴史の変遷について理解する。 (4)日本人が大陸の思想・宗教をどのように採り入れ、自らの血肉にしてきたかについて、説明できる。 | ○ | ○ | | |
| | 分野別基礎科目(アメリカ文化とヨーロッパ文化) | 2 | 1 | アメリカ合衆国とヨーロッパ(ドイツ、フランス、イギリス)のことは、社会、文化を理解しながら、それぞれの地域の文学テクストを解説し、ヨーロッパの文学とアメリカ文学の類似点と相違点を意識化することによって、ヨーロッパ文学とアメリカ文学それぞれの特殊性を深く鑑賞する。 | (1)アメリカおよびヨーロッパの文芸・思想について考える際に基礎となる、代表的な作品・著作の内容を理解し、説明することができる。 (2)アメリカおよびヨーロッパの文化について理解を深め、鑑賞力を高めるためには、どのようなことがらを意識する必要があるか説明することができる。 | ○ | ○ | | |
| | 分野別基礎科目(人間とことば) | 2 | 1 | 人間にとってもあまりにも身近で普段は意識することのない言語の示す、実に豊かで変化に富み、複雑ながらも整然として美しい体系性を体感することを通して、人間の本質に迫るためのツールとしての言語学の基本に触れる。 | (1)言語を通し、普段、当たり前だと考えていることに潜む不思議に気付く。 (2)言語を脳/こころの働きの一部として捉え、科学的な研究の対象とする考え方を理解できる。 (3)言語の普遍性と多様性に触れ、言語の本質を通して「人間」を捉え直すための契機とする。 (4)授業や日常生活の中で感じる疑問や不思議をそのままにせず、オフィス・アワーズ等を通じて学問的に昇華できるようにする。 | | ◎ | | ◎ |
| | 分野別基礎科目(異文化とはなんだろう) | 2 | 1 | 日本人が他者の文化・社会・経済システムを理解することは可能か、各地域の実例を通して考える。また地域社会の中で外国籍住民との共生は可能性について実例を通して考える。 | (1)異文化へに対する基本的な知識を身につけることによって異文化への偏見をなくす。 (2)異文化に対する適応力とは何かを知る。 (3)地球上での異文化に対する考え方の多様性を知る。 (4)日本の中での異文化の理解を深める。 | ◎ | | | |
| 分野別基礎科目(メディアとコミュニケーション) | 2 | 1 | メディア文化研究の基本的な考え方について、具体的な事例を通して学ぶ。 | (1)メディア文化研究の問題領域を知る。 (2)メディア文化を学ぶとはどういうことかを理解できる。 | ◎ | ○ | | | |
| 基礎演習 | 基礎演習(人間科学) | 2 | 2 | 心理学、社会学、文化人類学などに関するテーマについて演習をおこなう。文献の講読、議論、発表などを通して、人間科学を学ぶための姿勢と技法を身につける。 | (1)演習形式の授業に主体的に参加する姿勢を身につける。 (2)人間科学に関する文献・資料を批判的に読み、それを踏まえて議論し、意見を文章や口頭で発表することができる。 | | | ◎ | ◎ |
| | 基礎演習(考古・日本史) | 2 | 2 | 日本列島の歴史を現代に守り伝えてきた資料＝「文化遺産」を題材に、学生報告と議論を中心とする演習形式の授業により、歴史学の基礎(歴史とはなにか)を学ぶ。 | (1)歴史と文化遺産の重要性に気づくことができる。 (2)多様な歴史資料と研究方法の存在を知ることができる。 (3)歴史的なものの方、考え方の基礎を身につけることができる。 | ◎ | | | ○ |

| 科目区分 | 授業科目名 | 単位 | 配当年次 | 授業の主題 | 授業の到達目標 | ディプロマポリシーの番号 | | | |
|---------------------------------|-------------|----|--|--|---|-------------------------------|-----------------|------------------|-----------------|
| | | | | | | I 知識・ 理解 | II 思考・ 判断 | III 態度・ 行動 | IV 汎用的 技能 |
| | | | | | | ◎ DP達成のためとくに重要 ○ DP達成のため重要 | | | |
| 基礎 演習 | 基礎演習(世界史) | 2 | 2 | 世界史に関するテーマに即して、歴史的なもの、学術的なものの考え方は何か、歴史研究の方法とはどのようなものか、学生報告と議論を中心とする演習形式の授業で学習する。 | (1)世界史に対する積極的な問題意識を持つ。 | ◎ | ○ | | |
| | | | | | (2)世界史研究上の理論・方法論、歴史的なものの見方、考え方の基礎を身につけている。 | ◎ | ○ | | |
| | | | | | (3)基礎的な文献を利用して歴史学的な考察を行い、それを論理的な文章で表現することができるようになる。 | ◎ | ◎ | | ◎ |
| | 基礎演習(文芸・思想) | 2 | 2 | 文芸、思想における名著、名作(図像、映像等を含む)を読み込んで、感性をみがき、世間を見る目を養い、考えるとは何か、生きるとは何か、報告と議論を重ねながらみずから問いかける。 | (1)文芸、思想に関する著作・作品(図像、映像等を含む)を読み、必要な資料を収集、消化して、自分なりの見解をまとめることができる。 | ◎ | | ◎ | ◎ |
| | | | | | (2)報告や議論をつうじて自分の考えを見直し、あらたな展開につなげることができる。 | ◎ | ○ | ◎ | ◎ |
| | | | | | (3)文芸、思想に関する作品・著作のなかに、人文諸科学、コミュニケーション学諸分野に広くつうじる論点を見出すことができる。 | ○ | ○ | ○ | ◎ |
| 基礎演習(言語コミュニケーション) | 2 | 2 | 何気なく使っている言葉の不思議について、問題意識を掘り起こし、言語現象を観察し、分析し、仮説を立てて論証する能力を養う。 | (1)言語データを観察し、ある観点から分析し、その結果を正確に記述することができる。 | | ◎ | | ○ | |
| | | | | (2)特定の言語現象の一般化を行い、それを実証する方法を考えることができる。 | | ◎ | | | |
| | | | | (3)特定の言語現象に関する文献を検索し、読み、要点をまとめることができる。 | ◎ | | | ○ | |
| 基礎演習(異文化コミュニケーション) | 2 | 2 | グローバル化の進展する現代社会を生きる上で欠かせない異文化についての基礎的な考え方やものの見方、あるいはそれらについての調査分析方法を学ぶ。 | (1)異文化コミュニケーションの基礎的な知識と考え方を身につける。 | ◎ | | | | |
| | | | | (2)異文化接触、外国語学習、国際協力活動等の直接的・間接的経験を通して、異文化コミュニケーション能力を高める。 | | ○ | ◎ | ◎ | |
| | | | | (3)発表と議論や調査をとおして、自分自身の考察や調査結果をレポートにまとめることができる。 | | ○ | | ◎ | |
| 基礎演習(メディア文化1) | 2 | 2 | メディアに関する複数のテーマや時事的テーマを扱い、総合的・全体的に物事を捉える姿勢、メディアに対する素養を養成し、学習能力を高める。 | (1)具体的なテーマに取り組むことでメディア研究の基礎的な問題意識と方法意識を身につける。 | ○ | ◎ | | ◎ | |
| | | | | (2)メディア全般に関するリテラシーを身につける。 | | | ○ | ◎ | |
| | | | | (3)コンテンツを企画し、構想する力を身に付け、今後の実践を役立てることができる。 | | ◎ | ◎ | ○ | |
| 基礎演習(メディア文化2) | 2 | 2 | 現代文化に関する諸問題について、個人もしくはグループ単位で調査発表し討議を行う。 | (1)具体的なテーマに取り組むことで文化研究の基礎的な問題意識と方法意識を身につける。 | ○ | ◎ | | ◎ | |
| | | | | (2)メディアの量的調査・質的調査の基本を身につける。 | ◎ | ○ | | | |
| | | | | (3)調べたことをまとめて発表し、それをもとに討議するための方法論と技術を身につける。 | | ○ | ◎ | ◎ | |
| 人間 科学 コー ス専 門科 目 | 人間科学概論 | 2 | 2 | 心理学・社会学・文化人類学それぞれのアプローチによって蓄積されてきた研究成果を学習する中で、人間・社会・文化を科学的に探求することについて理解する。 | (1)心理学・社会学・文化人類学の学問内容、研究方法、視点や考え方を理解する。 | ◎ | ○ | | |
| | | | | | (2)関連の基礎的な学術用語について説明できる。 | ◎ | | | ○ |
| | 心理学基礎論 | 2 | 2 | 心理学全般の基礎的な内容を講義する。 | (1)心理学全般の基礎的な知識と理論を身につける。 | ◎ | ○ | | |
| | | | | | (2)心理学全体のおおまかなイメージが持てるようになる。 | ◎ | | | |
| | フィールド人間学基礎論 | 2 | 2 | 社会学・心理学・文化人類学の方法論を用いて、フィールドワークを行うにあたっての理論的を身につける。 | (1)フィールドワークの学問的な位置づけを理解する。 | ◎ | ◎ | ◎ | ○ |
| (2)フィールドワークの基礎的な方法論を理解する。 | | | | | ○ | ○ | ○ | ◎ | |
| 人間科学研究法 I | 2 | 2 | 社会学・心理学・文化人類学の方法論を用いて、フィールドワークを実際に応用するための知識を身につける。 | (1)フィールドワークの方法論を専門的に理解する。 | ◎ | ◎ | | ◎ | |
| | | | | (2)みずからフィールドワークの課題を設定することができる。 | ○ | ○ | | ◎ | |
| 人間科学演習 I | 2 | 2 | 社会学・心理学・文化人類学の方法論を用いて、フィールドワークを実践する。 | (1)みずから設定した課題に適した方法論を選択できる。 | ○ | | ◎ | ◎ | |
| | | | | (2)専門的な背景をふまえてフィールドワークを実践できる。 | ○ | | ◎ | ◎ | |

| 科目区分 | 授業科目名 | 単位 | 配当年次 | 授業の主題 | 授業の到達目標 | ディプロマポリシーの番号 | | | |
|---------------------|------------------|----|---|---|---|-------------------------------|-----------------|------------------|-----------------|
| | | | | | | I 知識・ 理解 | II 思考・ 判断 | III 態度・ 行動 | IV 汎用的 技能 |
| | | | | | | ◎ DP達成のためとくに重要 ○ DP達成のため重要 | | | |
| 人間科学 コース 専門科目 | 人間科学研究法Ⅱ・人間科学演習Ⅱ | 2 | 2 | 心理学で用いる研究法(観察、面接、検査、実験、質問紙調査、フィールドワーク)の理論と技法を身に付ける。 | (1)心理学の研究法に関する基礎的理論を理解できる。 | ◎ | | | |
| | | | | | (2)心理学の研究法に関する基礎的スキルを身につける。 | ◎ | | | |
| | | | | | (3)データを分析して、結果を適切な形式でまとめることができる。 | | ○ | | ◎ |
| | 人間科学研究法Ⅲ・人間科学演習Ⅲ | 2 | 3 | 心理学で用いる研究法(観察、面接、検査、実験、質問紙調査、フィールドワーク)の理論と技法を身に付ける。 | (1)心理学の研究法に関する基礎的理論を理解できる。 | ◎ | | | |
| | | | | | (2)心理学の研究法に関する基礎的スキルを身につける。 | ◎ | | | |
| | | | | | (3)データを分析して、結果を適切な形式でまとめることができる。 | | ○ | | ◎ |
| | 比較文明論Ⅰ | 2 | 2 | 非西洋型文明であるメソアメリカ文明を、比較文明論・文化人類学の視点から理解する | (1)過去から現在までのメソアメリカの先住民文化に関する基礎的な概念を身につける。 | ◎ | ◎ | ○ | ○ |
| | | | | | (2)人間の文化や社会の多様性と共通性について理解できる。 | ◎ | ○ | ○ | ○ |
| | 比較文明論Ⅱ | 2 | 2 | 非西洋型文明であるマヤ文明を、比較文明論・文化人類学の視点から理解する | (1)過去から現在までのマヤ系先住民文化に関する基礎的な概念を身につける。 | ◎ | ○ | ○ | ○ |
| | | | | | (2)マヤ文明を学ぶ今日的意義について考察できる。 | ◎ | ○ | ○ | ○ |
| 行動文化論Ⅰ | 2 | 2 | 諸個人と社会が相互に規定しあっているさまを考察する社会心理学の基礎を学び、その発想を理解する。 | (1)社会心理学の基本的な発想を学ぶ。 | ◎ | | | | |
| | | | | (2)社会心理学の諸知見を関連させながら理解する。 | ◎ | | | | |
| | | | | (3)社会心理学の発想や知見をもとにして現代社会に生きる人びとの行動と心理について考察できる。 | | ○ | | ○ | |
| 行動文化論Ⅱ | 2 | 2 | 研究の実例から社会心理学の知識と発想を学ぶ。また、社会心理学的フィールドワークの特質についても理解する。 | (1)授業テーマにかかわる社会心理学の知見や発想を理解する。 | ◎ | | | | |
| | | | | (2)社会心理学におけるフィールドワークの実際を学びながら、その認識スタイルや研究法を理解する。 | ○ | | | | |
| | | | | (3)社会心理学の発想や知見をもとにして現代社会に生きる人びとの行動と心理について考察できる。 | | ○ | | ○ | |
| 社会行動論Ⅰ | 2 | 2 | 近代のなかでベトナムの人々がどのように生きてきたのかに触れ、ベトナム社会を深く捉えることを通して、社会心理学の立場から「ベトナム文化」という異文化を識ることを試みる。 | (1)社会心理学の立場から「異文化を識る」ことの意味について理解する。 | ○ | | ◎ | | |
| | | | | (2)「異文化を識る」ための方法について理解し実践する。 | ○ | | | ○ | |
| | | | | (3)「ベトナム文化」に興味を抱き、一定の理解に達する。 | ○ | ○ | ○ | | |
| 社会行動論Ⅱ | 2 | 2 | 現代社会における社会心理学的問題を把握し、その分析・考察ができるようにする。 | (1)現代社会における社会心理学問題を把握する。 | ○ | | ◎ | | |
| | | | | (2)社会心理学的なもの見方や分析方法を知る。 | ○ | | | ◎ | |
| | | | | (3)社会心理学の立場から問題を考察できるようにする。 | | ○ | ○ | | |
| 民俗学 | 2 | 2 | 民俗学の基本的なもの見方を理解し、民俗学の視点から自らの日常を理解する方法を身につける。 | (1)民俗学の基礎的な概念を身につける。 | ◎ | ○ | | | |
| | | | | (2)民俗学の研究史を理解する。 | ◎ | ○ | | | |
| | | | | (3)伝統文化の現代的状況について理解する。 | ○ | ◎ | | | |
| | | | | (4)民俗学の視点を用いて自らの日常生活を再帰的にとらえることができるようになる。 | | | ◎ | ○ | |
| 比較文化論演習 | 2 | 2 | 文化人類学や民俗学における近年の研究動向を理解し、学術論文の論証過程を批判的に考察できるようにする。 | (1)文化人類学の研究動向を把握する。 | ◎ | ○ | | | |
| | | | | (2)民俗学の研究動向を把握する。 | ◎ | ○ | | | |
| | | | | (3)授業で扱われるテーマの研究動向を把握する。 | | ◎ | ○ | | |
| | | | | (4)学術論文の論証過程を批判的に考察できるようにする。 | ○ | | ◎ | ○ | |

| 科目区分 | 授業科目名 | 単位 | 配当年次 | 授業の主題 | 授業の到達目標 | ディプロマポリシーの番号 | | | |
|---------------------|--------|----|--|---|---|-------------------------------|-----------------|------------------|-----------------|
| | | | | | | I 知識・ 理解 | II 思考・ 判断 | III 態度・ 行動 | IV 汎用的 技能 |
| | | | | | | ◎ DP達成のためとくに重要 ○ DP達成のため重要 | | | |
| 人間科学 コース 専門科目 | 心理臨床論Ⅰ | 2 | 2 | 心理臨床を学ぶ上で必要となる基本的な知識を身につけ、心理臨床の理論と実際について学習する。 | (1)精神保健に関する基本的な知識を身につける。 | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | | | | | (2)代表的な心理療法の理論について基礎的な知識を身につける。 | ○ | | | |
| | | | | | (3)現代における心理的な問題について、新聞等マスコミに取り上げられている記事の内容がより詳細に理解できるようになる。 | ◎ | ◎ | ○ | |
| | 心理臨床論Ⅱ | 2 | 3 | 福祉領域も含めた対人援助活動としての心理臨床実践について理解を深める。また、現代の子どもを取り巻く主として心理的な諸問題について検討する。 | (1)心理臨床の活動の実際について理解を深めることができる。 | | | ○ | |
| | | | | | (2)心理臨床の関連領域である、精神保健福祉及び児童福祉について、法律や制度に関する基本的な知識を身につけることができる。 | ◎ | ◎ | | ○ |
| | | | | | (3)現代を生きる子どもの抱える諸問題について心理的な視点から検討する力を身につける。 | ◎ | ◎ | | |
| | 生涯発達論Ⅰ | 2 | 2 | 生涯発達心理学の代表的な理論の紹介と各理論の価値と問題点を明らかにすることを通して、生涯発達心理学の全体像を理解する。 | (1)発達に関する理論の特徴を理解する。 | ◎ | ◎ | | ◎ |
| | | | | | (2)理論を通して、生涯発達心理学の理解が深まる。 | ○ | ◎ | | ◎ |
| | 生涯発達論Ⅱ | 2 | 3 | 人の発達過程について理解を深めることと併せて、発達がうまく展開しない障がいを抱える子ども／人たちについても理解を深める。 | (1)生涯全般の発達過程における心について理解が深まる。 | ◎ | ○ | | ◎ |
| | | | | | (2)障がいを抱える子ども／人たちの心の成り立ちについて理解が深まる。 | ◎ | ◎ | | ◎ |
| | 感情心理学Ⅰ | 2 | 2 | 感情心理学の基礎的な内容を講義する。 | (1)感情心理学の基本的な知識と理論を身に付ける。 | ◎ | | | |
| | | | | | (2)上記の知識と理論を踏まえて、現代社会における感情やストレスの諸問題について説明することができる。 | | ◎ | | |
| 感情心理学Ⅱ | 2 | 3 | 健康増進、事故防止、疾病予防に関する感情心理学の発展的内容を、講義と議論を通して学ぶ。 | (1)感情心理学の発展的な知識と理論を身に付ける。 | ◎ | | | | |
| | | | | (2)上記の知識と理論を踏まえて、健康増進、事故防止、疾病予防の諸問題について説明することができる。 | | ◎ | | ○ | |
| 認知心理学Ⅰ | 2 | 2 | 認知心理学の基本的な用語や研究法、および、さまざまな心理体験の発生機序を理解する。 | (1)認知心理学の基本的な用語を習得する。 | ◎ | | | | |
| | | | | (2)授業で取り上げる実験や調査で用いられている研究手法を理解する。 | ◎ | ○ | | | |
| | | | | (3)授業で取り上げた認知メカニズムを理解し、日常的に体験される現象の発生機序を説明できるようになる。 | | ◎ | | ○ | |
| 認知心理学Ⅱ | 2 | 3 | 文献講読、実験実施、データ分析などをとおして、認知心理学のより発展的な内容を理解する。 | (1)認知心理学の発展的な知識と理論を身に付ける。 | ◎ | | | | |
| | | | | (2)心理学実験の実施、データ分析をとおして、認知心理学の研究手法等を身に付ける。 | | ◎ | | ○ | |
| 心理統計Ⅰ・Ⅱ | 2 | 2 | 心理統計法の基礎を、講義と実習を通して学ぶ。 | (1)定量的調査の結果を読み解くために必要な統計学の基礎知識を身に付ける。 | ◎ | | | | |
| | | | | (2)実験結果を読み解くために必要な統計学の基礎知識を身に付ける。 | ◎ | | | | |
| | | | | (3)PCを用いて、基本的な統計学的分析が独力でできる。 | | | | ◎ | |
| 比較文明論演習Ⅰ | 2 | 2 | マヤ文明に関する資料を講読し、批判的に理解する。 | (1)マヤ文明の諸概念を幅広く身につける。 | ◎ | ○ | ◎ | ○ | |
| | | | | (2)マヤ文明を、文化人類学の視点から分析し批判的に認識することができる。 | ◎ | ○ | ○ | ◎ | |
| 比較文明論演習Ⅱ | 2 | 2 | 先スペイン期のメソアメリカに興亡した、モンゴロイド先住民の諸文明に関する資料を講読し、批判的に理解する。 | (1)比較文明論の諸概念を幅広く身につける。 | ◎ | ○ | ○ | ○ | |
| | | | | (2)非西洋型文明を、文化人類学の視点から分析し批判的に認識することができる。 | ◎ | ○ | ○ | ○ | |

| 科目区分 | 授業科目名 | 単位 | 配当年次 | 授業の主題 | 授業の到達目標 | ディプロマポリシーの番号 | | | |
|---------------------|----------|----|------|---|--|-------------------------------|-----------------|------------------|-----------------|
| | | | | | | I 知識・ 理解 | II 思考・ 判断 | III 態度・ 行動 | IV 汎用的 技能 |
| | | | | | | ◎ DP達成のためとくに重要 ○ DP達成のため重要 | | | |
| 人間科学 コース 専門科目 | 行動文化論演習Ⅰ | 2 | 3 | 社会心理学分野の基礎文献の講読をとおして、設定された現代的課題についての認識を深める。 | (1)社会心理学の研究成果を吟味することのできる知識と読解力を身につける。 (2)社会心理学の発想や知見をもとにして現代社会に生きる人びとの関係性や結びつき方について考察できる。 (3)関連するテーマについて自分の意見を持ち、議論に積極的に参加する姿勢を育む。 | ○ | | | |
| | 行動文化論演習Ⅱ | 2 | 3 | 社会心理学およびその関連分野の文献講読をとおして、設定された現代的課題についての認識を深める。 | (1)社会心理学とその関連領域の研究成果を吟味することのできる知識と読解力を身につける。 (2)社会心理学の発想や知見をもとにして現代社会に生きる人びとの関係性や結びつき方について深く考察できる。 (3)相互に関連するテーマについての議論に積極的に参加し、自らの認識を深めることができる。 | ○ | ◎ | | ○ |
| | 社会行動論演習Ⅰ | 2 | 3 | 心理学研究における「客観的観察」とは何かを考えつつ、複数の映画も手がかりに、主に質的データを収集・検討する方法論を学ぶ。 | (1)心理学研究における「客観性」についての理解を深める。 (2)心理学における質的データを分析する方法論を身につける。 (3)観察とインタビューを中心としたエスノグラフィーを書く。 | ○ | ◎ | | ○ |
| | 社会行動論演習Ⅱ | 2 | 3 | 現代社会における社会心理学的問題を自分で発見し、対話的な質的研究をすすめる方法論を学ぶ。 | (1)現代社会における社会心理学な問題を発見する。 (2)対話的な質的研究の方法論を身につける。 (3)観察とインタビューを中心とした発展的にエスノグラフィーを書く。 | ○ | ◎ | | ◎ |
| | 現代社会論演習Ⅰ | 2 | 3 | 現代社会の諸問題を社会学的概念を用いて分析する(ジェンダーをテーマとする)。 | (1)社会学の概念について専門的な知識を深める。 (2)テーマに即した概念を用いて事象を分析できる。 (3)授業のテーマとなっている社会問題について専門的知識を用いて分析ができる。 | ◎ | ◎ | | ◎ |
| | 現代社会論演習Ⅱ | 2 | 3 | 現代社会の諸問題を社会学的概念を用いて分析する(エスニシティをテーマとする)。 | (1)社会学の概念について専門的な知識を深める。 (2)テーマに即した概念を用いて事象を分析できる。 (3)授業のテーマとなっている社会問題について専門的知識を用いて分析ができる。 | ◎ | ◎ | | ◎ |
| | 心理臨床論演習Ⅰ | 2 | 3 | パーソナリティ理論の基礎的な知識について学び、質問紙法と投射法及び表現を用いた心理アセスメントの実習を行う。 | (1)パーソナリティの種類論と特性論について基本的な理解ができる。 (2)面接による心理アセスメントの実際について理解ができるようになる。 (3)代表的な投射法による心理テストの施行の方法(概略)を身につけることができる。 (4)代表的な芸術・表現療法の施行の方法(概略)を身につけることができる。 | ○ | ○ | | ◎ |
| | 心理臨床論演習Ⅱ | 2 | 3 | 来談者中心のカウンセリングの理論と実際について講義と演習によって学ぶ。また、主として投射法による心理アセスメントの実習を行う。 | (1)来談者中心のカウンセリングに関する基本的な知識と展開について理解することができる。 (2)演習を通して、個人及び集団を対象としたカウンセリングの実際について理解することができる。 (3)箱庭療法等、投射法を中心とした心理アセスメント及び心理療法に関する知識と基本的な技法を身につけることができる。 | ○ | ○ | | ◎ |
| | 生涯発達論演習Ⅰ | 2 | 3 | 生涯発達に関連する図書の輪読と、毎回図書にまつわる課題をこなすことで、生涯発達の理論と実践を修得する。 | (1)生涯発達に関する文献を理解することが出来る。 (2)生涯発達の理論を実践に結びつけることが出来る。 (3)他の受講者との意見の交換により理解を深めることが出来る。 | ◎ | ◎ | | ◎ |

| 科目区分 | 授業科目名 | 単位 | 配当年次 | 授業の主題 | 授業の到達目標 | ディプロマポリシーの番号 | | | |
|---|----------------|-----|--|---|---|-------------------------------|-----------------|------------------|-----------------|
| | | | | | | I 知識・ 理解 | II 思考・ 判断 | III 態度・ 行動 | IV 汎用的 技能 |
| | | | | | | ◎ DP達成のためとくに重要 ○ DP達成のため重要 | | | |
| 人間科学 コース 専門科目 | 生涯発達論演習Ⅱ | 2 | 3 | 演習Ⅰに比べ難易度の高い生涯発達に関する図書の輪読と、毎回図書にまつわる課題をこなすことで、生涯発達の理論と実践を修得する。 | (1)生涯発達に関する文献を理解することが出来る。 | ◎ | ◎ | | ◎ |
| | | | | | (2)生涯発達の理論を実践に結びつけることが出来る。 | ○ | ○ | | ○ |
| | | | | | (3)他の受講者との意見の交換により理解を深めることが出来る。 | ◎ | ◎ | | ◎ |
| | 認知心理学 | 2 | 2 | 認知心理学の基本的な用語や研究法、および、さまざまな心理体験の発生機序を理解する。 | (1)認知心理学の基本的な用語を習得する。 | ◎ | | | |
| | | | | | (2)授業で取り上げる実験や調査で用いられている研究手法を理解する。 | ◎ | ○ | | |
| | | | | | (3)授業で取り上げた認知メカニズムを理解し、日常的に体験される現象の発生機序を説明できるようになる。 | | ◎ | | ○ |
| | 専門演習Ⅰ～Ⅳ(比較文明論) | 各2 | 3～4 | 人間の文化や社会の多様性と共通性について、フィールドワークを通して実証的に研究し、批判的に議論する。 | (1)自ら設定した研究テーマについて資料を収集・分析し、考察することができる。 | ◎ | ○ | ○ | ○ |
| | | | | | (2)考察した結果を的確に表現し、他者と議論しながら自らの研究を高めることができる。 | ◎ | ○ | ○ | ◎ |
| | 専門演習Ⅰ(文化人類学) | 2 | 3 | 文化人類学・民俗学の基本的な視点を理解し、フィールドワークのデータにもとづいた研究論文を批判的に読解することができる。 | (1)文化人類学・民俗学の基本的な視点を理解する。 | ◎ | ◎ | | |
| | | | | | (2)フィールドワークのデータにもとづいた研究論文を批判的に読解する。 | ○ | ◎ | ◎ | ○ |
| | 専門演習Ⅱ(文化人類学) | 2 | 3 | 文化人類学・民俗学の基本的な視点を理解し、自らの研究テーマに関連する文献を批判的に読解することができる。 | (1)文化人類学・民俗学の基本的な視点を理解する。 | ◎ | ◎ | | |
| | | | | | (2)自らの研究テーマに関連する文献を選び、正確に理解する。 | ◎ | ○ | ◎ | |
| | | | | | (3)先行研究を批判的に検討し、問題点を指摘することができる。 | ○ | ○ | ◎ | ◎ |
| | 専門演習Ⅲ(文化人類学) | 2 | 4 | 文化人類学・民俗学の視点を応用し、フィールドワークを通して得たデータを分析する。 | (1)文化人類学・民俗学の基本的な視点を理解する。 | ◎ | ◎ | | |
| (2)自ら設定したテーマについてフィールドワークを実施する。 | | | | | ○ | ○ | ◎ | ◎ | |
| (3)フィールドワークで得たデータについて、他者と議論しながら分析・考察することができる。 | | | | | ○ | ○ | ◎ | ◎ | |
| 専門演習Ⅳ(文化人類学) | 2 | 4 | 文化人類学・民俗学の視点を応用し、フィールドワークを通して得たデータを分析する。 | (1)文化人類学・民俗学の基本的な視点を理解する。 | ◎ | ◎ | | | |
| | | | | (2)自ら設定したテーマについてフィールドワークを実施する。 | ○ | ○ | ◎ | ◎ | |
| | | | | (3)フィールドワークで得たデータについて、他者と議論しながら分析・考察することができる。 | ○ | ○ | ◎ | ◎ | |
| 専門演習Ⅰ～Ⅳ(行動文化論) | 各2 | 3～4 | 受講生各自が社会心理学関連の研究テーマを設定し、先行研究をふまえながらフィールドワークをおこない、卒業研究へとまとめる。 | (1)フィールドを定め、フィールドに即した研究テーマを定めることができる。 | | ◎ | | | |
| | | | | (2)自ら設定したテーマについて、資料を収集・吟味し、考察することができる。 | ◎ | ○ | | ○ | |
| | | | | (3)考察した結果を的確に表現・発表し、他の受講生と議論しながら互いの認識を深めることができる。 | | | ◎ | ○ | |
| 専門演習Ⅰ～Ⅳ(社会行動論) | 各2 | 3～4 | 社会心理学の立場からテーマとフィールドを設定し自分の研究を進展させていくために、ゼミ生同士の対話を重視して検討を重ねる。 | (1)社会心理学の立場ということを理解する。 | | | ◎ | ○ | |
| | | | | (2)基本的な文献の批判的読解をする。 | ◎ | ○ | | | |
| | | | | (3)自らのレポート・論文を書き上げる。 | | | ◎ | ◎ | |
| 専門演習Ⅰ～Ⅳ(心理臨床論) | 各2 | 3～4 | 現代における心理的諸問題と心理臨床活動について理解を深め、文献の精読とともに量的及び質的方法を用いて卒業研究を進め、卒業論文を執筆する。 | (1)現代における心理的諸問題と心理臨床活動について理解を深める:文献の精読とレポート、心理査定の実習を行う。 | ○ | ○ | | ○ | |
| | | | | (2)臨床心理研究法の演習:統計法、グラウンデッドセオリー・アプローチ、KJ法、PAC分析など卒業論文の執筆のために必要となる研究の手法について学ぶ。 | ○ | | ○ | ◎ | |

| 科目区分 | 授業科目名 | 単位 | 配当年次 | 授業の主題 | 授業の到達目標 | ディプロマポリシーの番号 | | | |
|--------------------------------|----------------|-----|---|--|--|-------------------------------|-----------------|------------------|-----------------|
| | | | | | | I 知識・ 理解 | II 思考・ 判断 | III 態度・ 行動 | IV 汎用的 技能 |
| | | | | | | ◎ DP達成のためとくに重要 ○ DP達成のため重要 | | | |
| 人間科学 コース 専門科目 | 専門演習Ⅰ～Ⅳ(生涯発達論) | 各2 | 3～4 | 卒業論文作成を行うための指導と支援を目的とする。面白い論文を作成するために、その過程で何をどのようにすべきかについてゼミナールを通して指導と支援を行う。 | (1)これまで抱えてきた自分にとって<大切>な心理学的問いを、周りにとって<面白い>問いへと磨きをかける。 | ◎ | ◎ | | ◎ |
| | | | | | (2)他のゼミ生や教員の意見に学び、自分の問いの肥やしにできる。 | ○ | ○ | | ○ |
| | | | | | (3)他のゼミ生の研究実践に対して支援ができる。 | ◎ | ◎ | | ◎ |
| | | | | | (4)自ら設定した問いに応えるために、文献を収集・講読し、研究実践に結びつける。 | ◎ | ◎ | | ◎ |
| | 専門演習Ⅰ(感情心理論) | 2 | 2～3 | 感情心理学と健康心理学をテーマとして、演習形式により、卒業研究を行うために必要な知識、研究方法、思考方法、行動力、表現力を身につける。 | (1)研究をおこなうために必要な論文・書籍を自ら収集することができる。 | | | ◎ | ○ |
| | | | | | (2)先行研究の成果と課題を読み解き、その内容を他者に向けて発表できる。 | ◎ | | | ○ |
| | | | | (3)他者との議論を通して、研究の問いを深めることができる。 | | ◎ | | ○ | |
| 専門演習Ⅱ(感情心理論) | 2 | 2～3 | 感情心理学と健康心理学をテーマとして、演習形式により、卒業研究を行うために必要な知識、研究方法、思考方法、行動力、表現力を身につける。 | (1)他者との議論を通して、研究の問いを深めることができる。 | | ◎ | | ○ | |
| | | | | (2)自ら選定した問題について、探索的研究を行うことができる。 | | | ◎ | ○ | |
| | | | | (3)研究結果を分析し、成果を文章で論理的に説明できる。 | | ○ | | ◎ | |
| 専門演習Ⅲ(感情心理論) | 2 | 3～4 | 感情心理学と健康心理学をテーマとして、演習形式により、卒業研究を行うために必要な知識、研究方法、思考方法、行動力、表現力を身につける。 | (1)探索的研究の結果を踏まえて、研究の問いを深め、研究方法を改善することができる。 | | ◎ | | ○ | |
| | | | | (2)研究テーマについて、先行研究の成果と課題を文章で論理的に説明できる。 | ○ | | | ◎ | |
| | | | | (3)研究計画に従い、自律的に調査・実験を行うことができる。 | | | ◎ | ○ | |
| 専門演習Ⅳ(感情心理論) | 2 | 3～4 | 感情心理学と健康心理学をテーマとして、演習形式により、卒業研究を行うために必要な知識、研究方法、思考方法、行動力、表現力を身につける。 | (1)自ら定めた研究課題に、最後まで粘り強く取り組むことができる。 | | | ◎ | ○ | |
| | | | | (2)研究結果を批判的かつ建設的に考察することができる。 | | ◎ | | ○ | |
| | | | | (3)論文執筆に必要な論理的文章の書き方を身につける。 | | ○ | | ◎ | |
| 専門演習Ⅰ～Ⅳ(認知心理論) | 各2 | 3～4 | 認知心理学をテーマとした卒業論文作成のための指導と支援を目的とする。 | (1)自身の関心と学問的な意義を考慮した卒業研究のテーマを設定することができる。 | ○ | | ◎ | | |
| | | | | (2)教員や他のゼミ生との議論を通して、自分の問題意識を深めることができる。また、他のゼミ生の研究に対して、意見を述べるすることができる。 | | ◎ | ○ | ◎ | |
| | | | | (3)必要な論文を検索し、読解することができる。 | ○ | | | ◎ | |
| | | | | (4)自主的・主体的に自身の研究を遂行することができる。 | | ○ | ◎ | ○ | |
| 歴史・ 文化 遺産 コース 専門科目 | 日本史概論 | 1 | 2 | 日本史の枠組みを理解する。 | (1)茨城の歴史を通じて、日本の歴史の流れをつかむことができる。 | ◎ | | | |
| | | | | | (2)時代を象徴する人や事件、遺跡についての認識を深めることができる。 | ○ | ○ | | |
| | 世界史概論 | 1 | 2 | 現行「世界史」の成立背景、その問題点を確認したうえで、ユーラシア大陸を中心に展開した前近代史、続いて近現代世界史を概観する。 | (1)現状の世界史成立の背景、問題点を理解できるようになる。 | ◎ | ◎ | | |
| | | | | | (2)世界史の大きな流れを、ユーラシア中心の前近代、その後の近現代史というように体系づけて理解できるようになる。 | ◎ | ◎ | | |
| | 文化遺産実習Ⅰ | 1 | 2 | 資料の取扱い訓練(博物館実習Ⅰに相当)① | (1)博物館資料等の文化遺産について、取り扱いに際しての心構えを身につける。 | | ○ | ◎ | |
| | | | | (2)博物館資料及び地域に存する文化遺産の見学及び実地調査を通じて体験的に学ぶことができる。 | | | ○ | ◎ | |
| 文化遺産実習Ⅱ | 1 | 2 | 資料の取扱い訓練(博物館実習Ⅰに相当)② | (1)博物館資料等の文化遺産について、取り扱いに際しての心構えを身につける。 | | ○ | ◎ | | |
| | | | | (2)博物館資料及び地域に存する文化遺産の見学及び実地調査を通じて体験的に学ぶことができる。 | | | ○ | ◎ | |

| 科目区分 | 授業科目名 | 単位 | 配当年次 | 授業の主題 | 授業の到達目標 | ディプロマポリシーの番号 | | | |
|---------------------------------|----------|----|--|---|--|-------------------------------|-------------|--------------|-------------|
| | | | | | | I 知識・理解 | II 思考・判断 | III 態度・行動 | IV 汎用的技能 |
| | | | | | | ◎ DP達成のためとくに重要 ○ DP達成のため重要 | | | |
| 歴史・文化遺産コース専門科目 | 日本考古学Ⅰ | 2 | 2 | 日本考古学の概論 | (1)考古学研究法の基礎的な考え方を理解している。 | ◎ | ○ | | |
| | | | | | (2)日本考古学の基礎知識を身につけるとともに、自ら学ぶ準備ができています。 | ◎ | ○ | | |
| | | | | | (3)歴史や文化遺産に対する倫理観について、具体的な事例に即して深く考えることができる。 | | ○ | ◎ | |
| | 中国考古学Ⅰ | 2 | 2 | (1)中国考古学を学ぶ前提能力を身に付ける。(2)レポート作成の基礎能力を身に付ける。 | (1)中国考古学研究の大前提として、最低限踏まえておくべき「知識」と「考え方」について理解すること。 | ○ | | | |
| | | | | | (2)講義内容の中から任意のテーマを選び、自ら調べ、考えて、論理的な文章にまとめることができること。 | | ○ | | ○ |
| | 日本古代中世史Ⅰ | 2 | 2 | 史料を検討しながら、日本古代中世史の研究方法を具体的に示す。 | (1)自分たちの住む地域社会の固有の歴史をよく知ることができる。 | ◎ | | | |
| | | | | | (2)高校時代までの日本史学習を地域社会の視点から改めて捉え直し理解することができる。 | ○ | ○ | | |
| | | | | | (3)地域認識に基づいた歴史思考を身につけることができる。 | | ◎ | | ○ |
| | 日本近世史Ⅰ | 2 | 2 | 日本近世史の基礎知識と概念用語を学ぶ。 | (1)日本の災害史と人類史についての基礎知識を身につけることができる。 | ◎ | | | |
| | | | | | (2)近世史研究の基礎史料について解説つきで理解できる。 | ○ | ◎ | | |
| (3)近世史研究の文献を用いて歴史像を論じる基礎的方法を学ぶ。 | | | | | | ○ | | ○ | |
| 日本近現代史Ⅰ | 2 | 2 | 日本近現代史の歴史を世界史的な視野から捉え直すとともに、中央と地域の歴史についても理解する。 | (1)近代日本社会の基本的特徴について理解する。 | ◎ | ◎ | | ○ | |
| | | | | (2)近代日本社会の歴史について、構造と主体という側面から考察する力を身につける。 | ○ | ◎ | | | |
| | | | | (3)現在の社会の様々な事柄を、歴史的観点から考察する力を身につける。 | | ◎ | | | |
| アジア史AⅠ | 2 | 2 | 基礎的知識・概念を整理しながら、ユーラシア世界の歴史の中で中国の歴史を捉え直す。 | (1)ユーラシア世界という広い視野に立って中国の歴史を理解できるようになる。 | ◎ | | | | |
| | | | | (2)中国の歴史を学ぶことによって歴史学の方法、研究視角の基礎を身につける。 | ○ | ◎ | | | |
| | | | | (3)基礎的な研究論文を利用して歴史学的な考察を行い、それを論理的な文章で表現することができる。 | | ◎ | | ○ | |
| アジア史BⅠ | 2 | 2 | 近現代のアジア史を概観しながら基礎的知識を身につけ、方法論や問題意識を整理する。 | (1)高校程度のアジアの近現代史を、特に南アジアを中心に学び直す。 | ◎ | | | | |
| | | | | (2)現代アジアを理解する上で共通に必要とされている視点や問題意識を学び、理解する。 | ○ | ◎ | | | |
| | | | | (3)世界史の中での南アジアの位置づけについて各自が独自の理解を持ち、それを自分の言葉で説明できるようになる。 | | ◎ | | ○ | |
| ヨーロッパ近現代史Ⅰ | 2 | 2 | ヨーロッパ近現代史の基礎的事項について学び、世界の中のヨーロッパ史について捉え直す。 | (1)世界の近現代史という広い視野に立って、ヨーロッパの近現代史を理解できるようになる。 | ◎ | | | | |
| | | | | (2)ヨーロッパ近現代史を学ぶことによって、歴史学の方法、研究視角の基礎を身につける。 | ○ | ○ | | | |
| | | | | (3)ヨーロッパ近現代史の最近の研究動向について理解できるようになる。 | ○ | ○ | | | |
| | | | | (4)基礎的な研究文献を利用して歴史学的な考察をおこない、それを論理的な文章で表現することができる。 | | ○ | | ○ | |
| ヨーロッパ史概論 | 2 | 2 | 基礎的知識・概念を整理しながら、ヨーロッパ近現代史を概観的に学ぶ。 | (1)ヨーロッパ近現代の歴史を理解できるようになる。 | ◎ | | | | |
| | | | | (2)ヨーロッパ近現代史を学ぶことによって歴史学の方法、研究視角の基礎を身につける。 | ○ | ◎ | | | |
| | | | | (3)基礎的な文献を利用して歴史学的な考察を行い、それを論理的な文章で表現することができる。 | | ◎ | | ○ | |

| 科目区分 | 授業科目名 | 単位 | 配当年次 | 授業の主題 | 授業の到達目標 | ディプロマポリシーの番号 | | | |
|--------------------------------------|--------------|----|---|---|--|-------------------------------|-----------------|------------------|-----------------|
| | | | | | | I 知識・ 理解 | II 思考・ 判断 | III 態度・ 行動 | IV 汎用的 技能 |
| | | | | | | ◎ DP達成のためとくに重要 ○ DP達成のため重要 | | | |
| 歴史・文化遺産コース専門科目 | 博物館学Ⅰ(教育と理念) | 2 | 2 | 博物館教育論(博物館に関する科目) | (1)社会教育施設としての博物館の使命と理念を理解する。 | | ◎ | ○ | |
| | | | | | (2)博物館の利用実態及び学芸員の業務実態を理解する。 | ◎ | | ○ | |
| | | | | | (3)博物館の普及手法とその技術面における基礎知識を理解する。 | ◎ | | | ○ |
| | 博物館学Ⅱ(経営論) | 2 | 2 | 博物館経営論(博物館に関する科目) | (1)博物館経営の意義や理念を理解する。 | ○ | ◎ | | |
| | | | | | (2)博物館経営の課題や問題点について説明できる。 | | ◎ | | ○ |
| | 博物館学Ⅲ(資料論) | 2 | 2 | 博物館資料論(博物館に関する科目) | (1)学芸員資格取得のため、博物館の資料の扱い方と考え方について自ら学ぶことができる。 | ○ | | ◎ | |
| | | | | | (2)博物館資料の保存条件が理解できる。 | | ◎ | | |
| | | | | | (3)博物館資料の取り扱いについて具体的に理解できる。 | | ◎ | | ○ |
| | 博物館学Ⅳ(展示論) | 2 | 2 | 博物館展示論(博物館に関する科目) | (1)学芸員資格取得のため、博物館の資料の展示とその考え方について自ら学ぶことができる。 | | | ◎ | |
| | | | | | (2)展示に求められる条件が理解できる。 | | ◎ | | ○ |
| | | | | | (3)展示に関する一連の流れを具体的に理解できる。 | | | ◎ | ○ |
| | 文化遺産実習Ⅲ | 1 | 3 | 考古学の実践訓練① | (1)報告書作成までの文化財調査の段取りを理解している。 | | ○ | | ◎ |
| (2)発掘及び実測(測量)に必要な技術を理解し、高めることができる。 | | | | | | ○ | ◎ | | |
| (3)文化財を扱うことを自覚し、最後まで責任を持って携わることができる。 | | | | | | | ◎ | ○ | |
| 文化遺産実習Ⅳ | 1 | 3 | 考古学の実践訓練② | (1)文化財調査の経験を積む。 | | ○ | | ◎ | |
| | | | | (2)考古学的調査法に関する技術を自主的に高めたくて文化財調査を行う。 | | ○ | ◎ | | |
| | | | | (3)実地調査から報告書作成までの文化財調査の段取りを理解し、最後まで責任を持って携わることができる。 | | | ◎ | ○ | |
| 日本考古学Ⅱ | 2 | 3 | 考古学の理論に関する特殊講義 | (1)日本考古学の理論書を読解できる。 | ○ | ◎ | | | |
| | | | | (2)型式学等の成果を理解し、その有用性と問題点を考えることができる。 | ◎ | ○ | | | |
| | | | | (3)型式学的成果をもとにして実際の資料(報告書を含む)を批判的に観察し、分析できる。 | | | ◎ | ○ | |
| 日本考古学Ⅲ | 2 | 3 | 考古学の実践と成果に関する特殊講義 | (1)日本考古学の論文を正確に読解できる。 | ○ | ◎ | | | |
| | | | | (2)日本考古学の学史・論争史を正確に把握できる。 | ◎ | ○ | | | |
| | | | | (3)論争史の理解をもとにして実際の資料(報告書を含む)を批判的に観察し、分析できる。 | | | ◎ | ○ | |
| 中国考古学Ⅱ | 2 | 3 | (1)中国考古学研究の初歩を身に付ける (2)初歩的な研究レポートを作成する能力を身に付ける | (1)殷後期を中心とした中国古代史についての知見を深めること。 | ◎ | | | | |
| | | | | (2)殷後期研究をケーススタディとして、歴史研究の基本姿勢を知ること。 | ○ | ◎ | | | |
| | | | | (3)講義内容の中から任意のテーマを選び、自ら調べ、考えて、論理的な文章にまとめることができること。 | | | ○ | ○ | |
| 日本古代中世史Ⅱ | 2 | 3 | 多様な史料を検討しながら、日本古代中世史の研究方法を具体的に示す。 | (1)史料の広がりという認識の上で、日本の古代中世史を理解できるようになる。 | | ○ | | | |
| | | | | (2)日本古代中世史研究から、歴史学の方法、研究視角の基礎を身につける。 | ◎ | ◎ | | | |
| | | | | (3)多様な史料を利用して歴史学的な考察を行うことができるようになる。 | | ◎ | | ◎ | |

| 科目区分 | 授業科目名 | 単位 | 配当年次 | 授業の主題 | 授業の到達目標 | ディプロマポリシーの番号 | | | |
|---|---------|----|---|--|--|-------------------------------|-----------------|------------------|-----------------|
| | | | | | | I 知識・ 理解 | II 思考・ 判断 | III 態度・ 行動 | IV 汎用的 技能 |
| | | | | | | ◎ DP達成のためとくに重要 ○ DP達成のため重要 | | | |
| 歴史・文化遺産コース専門科目 | 日本近世史Ⅱ | 2 | 3 | 日本近世史の基礎知識と概念用語を学ぶ。 | (1)近世東アジア海域における交流史の概要を理解する。 | ◎ | | | |
| | | | | | (2)地域史料の基本的な活用方法を身につける。 | ○ | ◎ | | ○ |
| | | | | | (3)人間の他者接触のあり方について、多面的・客観的に理解できる能力を身につける。 | | ◎ | | ◎ |
| | 日本近現代史Ⅱ | 2 | 3 | 日本近現代史を学ぶ上で理解しておくべき基本的な理論を、学会の新しい研究動向と絡めて確認する。 | (1)アジア・太平洋戦争の基本的特徴について理解する。 | ◎ | | | |
| | | | | | (2)アジア・太平洋戦争について多角的視点で考察する力を身につける。 | | ◎ | | ○ |
| | | | | | (3)日本近現代史研究の多様な方法について理解を深める。 | | | ◎ | ◎ |
| | アジア史AⅡ | 2 | 3 | 最近の清朝史に関する研究動向を踏まえ、実際に学術論文を取り上げながら、専門研究レベルの視点で帝国の多様性を考察する。 | (1)清朝(大清帝国)をめぐる近年の研究動向を踏まえ、清朝の多様な側面について理解できるようになる。 | ◎ | | | |
| | | | | | (2)専門的な学術論文の内容を検討することで、歴史的視点及び歴史学の方法を身につける。 | ○ | ◎ | | |
| | | | | | (3)専門的な学術論文を複数利用して歴史学的な考察を行い、それを論理的な文章で表現することができる。 | | ◎ | | ◎ |
| | アジア史BⅡ | 2 | 3 | 南アジア史の近現代史を事例にした学術文献を取り上げ、最近の研究動向を抑えながら問題意識を深める。 | (1)アジア近現代史研究で問題となっている主要なテーマや方法論のいくつかを学び、理解する。 | ◎ | | | |
| (2)授業で学んだ個別の研究テーマや方法論に関し、地域横断的な目配りや比較が具体的に自分の言葉でできるようになる。 | | | | | | ○ | ○ | ○ | |
| (3)授業で学んだ個別の研究テーマや方法論を基礎に新たな課題を独自に発見し、それに取り組むことができるようになる。 | | | | | | | ○ | ○ | |
| ヨーロッパ近現代史Ⅱ | 2 | 3 | ヨーロッパ近現代史のいくつかの問題を取り上げる。研究状況や研究視点についても学ぶ。 | (1)ヨーロッパ近現代史のいくつかの問題を理解できるようになる。 | ◎ | | | | |
| | | | | (2)いくつかの研究テーマについての研究動向、研究視角を理解できようになる。 | ◎ | ○ | | | |
| | | | | (3)基本的な研究文献を利用して歴史学的な考察をおこない、それを論理的な文章で表現することができる。 | | ◎ | | ○ | |
| | | | | (4)資料の扱い方も含めて歴史学的な考察や研究をおこなえるようになる。 | | ◎ | | ○ | |
| ヨーロッパ社会史A | 2 | 3 | ドイツ近代史を学びながら、第二次世界大戦後の社会における歴史認識の日独比較を行う。 | (1)ドイツ近代の歴史を理解できるようになる。 | ◎ | | | | |
| | | | | (2)ドイツ近現代史を学ぶことによって歴史学の方法、研究視角の基礎を身につける。 | ○ | ◎ | | | |
| | | | | (3)基礎的な文献を利用して歴史学的な考察を行い、それを論理的な文章で表現することができる。 | | ◎ | | ○ | |
| ヨーロッパ社会史B | 2 | 3 | ヨーロッパ世界という視野の中で第二次世界大戦後のドイツ史を学ぶ。 | (1)ドイツの第二次世界大戦後の歴史を理解できるようになる。 | ◎ | | | | |
| | | | | (2)ドイツ戦後史を学ぶことによって歴史学の方法、研究視角の基礎を身につける。 | ○ | ◎ | | | |
| | | | | (3)基礎的な文献を利用して歴史学的な考察を行い、それを論理的な文章で表現することができる。 | | ◎ | | ○ | |
| 日本古代中世史料講読演習Ⅰ | 2 | 3 | 日本古代中世史を研究する場合に必須となる古文書に関する基礎知識を身につけ、史料を使った歴史研究の方法について学ぶ。 | (1)古代から中世にかけての古文書の様式や機能について学び、古文書学の概要をつかむことができる。 | ◎ | | | ○ | |
| | | | | (2)史料に関する基礎知識を身につけ、和製漢文に返り点を打ちながら読解し、その内容を理解することができるようになる。 | ◎ | ○ | | | |
| | | | | (3)史料の調査・整理の基本を身につけることができる。 | | | ◎ | | |
| 日本古代中世史料講読演習Ⅱ | 2 | 3 | 日本古代中世史を研究する場合に必須となる和製漢文読解能力を身につけ、史料を使った歴史研究の方法について学ぶ。 | (1)日本古代中世の史料、特に古代の古典籍を読解する能力を養成することができる。 | ◎ | | | ○ | |
| | | | | (2)史料に関する基礎知識を身につけ、和製漢文に返り点を打ちながら読解し、その内容を理解することができるようになる。 | ◎ | ○ | | | |
| | | | | (3)史料の調査・整理の基本を身につけることができる。 | | | ◎ | | |

| 科目区分 | 授業科目名 | 単位 | 配当年次 | 授業の主題 | 授業の到達目標 | ディプロマポリシーの番号 | | | |
|-----------------|-----------------|----|--|--|--|-------------------------------|-----------------|------------------|-----------------|
| | | | | | | I 知識・ 理解 | II 思考・ 判断 | III 態度・ 行動 | IV 汎用的 技能 |
| | | | | | | ◎ DP達成のためとくに重要 ○ DP達成のため重要 | | | |
| 歴史・文化遺産コース専門科目 | 日本古代中世史料講読演習Ⅲ | 2 | 3 | 日本中世史を研究する場合に必須となる和製漢文読解能力を身につけ、史料を使った歴史研究の方法について学ぶ。 | (1)日本古代中世の古文書・古記録・古典籍を読解する能力を養成することができる。 | ◎ | | | ○ |
| | | | | | (2)史料に関する基礎知識を身につけ、和製漢文に返り点を打ちながら読解し、その内容を理解することができるようになる。 | ◎ | ○ | | |
| | | | | | (3)あわせて史料の調査・整理の基本を身につけることができる。 | | | ◎ | |
| | 日本古代中世史料講読演習Ⅳ | 2 | 3 | I～Ⅲで身につけた日本古代中世の和製漢文を読解する能力を駆使して、史料を使った歴史研究を実践的に学ぶ。 | (1)日本古代中世の史料を読解し研究に活かす能力を養成することができる。 | ◎ | ○ | | ○ |
| | | | | | (2)卒業論文を作成するための史料の読解に関するアドバイスを受けることができる。 | | ○ | | |
| | | | | | (3)史料の調査・整理の基本を身につけることができる。 | | | ◎ | ◎ |
| | 日本近世近現代史史料講読演習Ⅰ | 2 | 3 | 日本近世・近現代史の史料の読解力を身につけ、史料を使った歴史研究法を学ぶ。 | (1)近世の変体仮名を解読できる。 | ◎ | | | |
| | | | | | (2)近世史・近代史の史料で使用される基本的な言い回しや用語を理解できる。 | ○ | ○ | | |
| | | | | | (3)史料に書かれた内容から、近世史・近代史の流れを理解することができる。 | | ○ | | ○ |
| | 日本近世近現代史史料講読演習Ⅱ | 2 | 3 | 日本近世・近現代史の史料の読解力を身につけ、史料を使った歴史研究法を学ぶ。 | (1)近世の変体仮名・くずし字を解読できる。 | ◎ | | | |
| | | | | (2)近世のくずし字で書かれた文章を現用の活字に直し、文意の概要を理解することができる。 | ◎ | ○ | | | |
| | | | | (3)史料に書かれた内容から、近世史の流れを批判的に理解することができる。 | ○ | ○ | | ○ | |
| | | | | (4)史料の調査・整理の基本的な技術を身につけることができる。 | | ○ | ◎ | ○ | |
| 日本近世近現代史史料講読演習Ⅲ | 2 | 3 | 日本近世・近現代史の史料の読解力を身につけ、史料を使った歴史研究法を学ぶ。 | (1)「個人文書」の特徴について理解する。 | ◎ | ○ | | ○ | |
| | | | | (2)便箋に書かれた手紙や公文書など、近現代史特有の史料の読解方法を身につける。 | ◎ | ○ | | | |
| | | | | (3)史料に書かれた内容から、日本近現代史の諸相を理解する力を身につける。 | ○ | ○ | | ◎ | |
| | | | | (4)史料の調査・整理の基本的な技術を身につけることができる。 | | ○ | ◎ | ○ | |
| 日本近世近現代史史料講読演習Ⅳ | 2 | 3 | 日本近世・近現代史の史料の読解力を身につけ、史料を使った歴史研究法を学ぶ。 | (1)日本近世・近代の古文書・古記録を読解できる。 | ◎ | | | | |
| | | | | (2)近世の日記や手紙について、形式や文意を理解することができる。 | ◎ | ◎ | | | |
| | | | | (3)近代日本の日記史料の基本的な読解方法について、理解することができる。 | ○ | ○ | | ◎ | |
| | | | | (4)史料の調査・整理の技術を身につけることができる。 | | ○ | ◎ | ◎ | |
| 世界史史料講読演習Ⅰ～Ⅲ | 各2 | 3 | 世界史関連の英文資料を読み、歴史研究に必要な英語読解能力を高める。 | (1)基礎的な英語史料が読めるようになる。 | ◎ | | | ○ | |
| | | | | (2)世界史に関する英語の基礎単語や表現を身につける。 | ○ | | | ○ | |
| | | | | (3)史資料を批判的に読む態度を身につける。 | ○ | ◎ | | | |
| 世界史史料講読演習Ⅳ | 2 | 3 | 世界史関連の英文資料を読み、歴史研究に必要な英語読解能力を高める。 | (1)英語の研究文献等をひとりで読めるようになる。 | ◎ | | | | |
| | | | | (2)歴史研究に関する英語力を高める。 | ○ | | | ○ | |
| | | | | (3)英語の研究文献を卒論で引用できる。 | | ○ | | ○ | |
| アジア史史料講読演習AⅠ～Ⅳ | 各2 | 3 | 中国史を研究する場合に必須の漢文読解能力を身につけ、史料を使った歴史研究の方法について学ぶ。 | (1)漢文史料の基礎的な読解力を身につける。 | | | | ○ | |
| | | | | (2)清朝時代の社会・政治に関する理解を深める。 | ◎ | ○ | | | |
| | | | | (3)史料の読み方・扱い方、歴史研究の方法の基礎を身につける。 | | ◎ | | | |

| 科目区分 | 授業科目名 | 単位 | 配当年次 | 授業の主題 | 授業の到達目標 | ディプロマポリシーの番号 | | | |
|------------------|----------------------|-----|---|---|---|-------------------------------|-----------------|------------------|-----------------|
| | | | | | | I 知識・ 理解 | II 思考・ 判断 | III 態度・ 行動 | IV 汎用的 技能 |
| | | | | | | ◎ DP達成のためとくに重要 ○ DP達成のため重要 | | | |
| 歴史・文化遺産コース専門科目 | アジア史史料講読演習B I・III | 各2 | 3 | 中国考古学の文献を読み解き、関係資料を搜集して、発表する能力を身に付ける。 | (1)現代中国語で書かれた文献の、速読能力を向上させる。 | | | | ○ |
| | | | | | (2)専門的な文章を、(注で引かれている文献や図版等も含めて)じっくりと読み取る能力を身につける。 | | ◎ | | |
| | アジア史史料講読演習B II・IV | 各2 | 3 | (1)現代中国語で記された文献を自力で読解する能力を身に付ける (2)中国考古学の文献を読む前提となる知識を身に付ける | (1)現代中国語で書かれた文献の、速読能力を向上させる。 | | | | ○ |
| | | | | | (2)関係情報について講義を受け、専門知識を蓄える。 | ○ | | | |
| | アジア史史料講読演習C I～IV | 各2 | 3 | アジア史の中でも特に朝鮮史の理解・研究に不可欠な朝鮮語史料の読解能力を身に付ける。 | (1)朝鮮語の読解能力を整理しつつ基本史料を読解する。 | ○ | | | |
| | | | | | (2)史料のもつ朝鮮史上の意義を理解する。 | ○ | | | |
| | | | | | (3)史料分析を通じて朝鮮史を理解する能力を身に付ける。 | ○ | ◎ | | |
| | ヨーロッパ史史料講読演習 A I～AII | 各2 | 3 | ヨーロッパ近現代史を学び研究するために必要な英語文献の読解能力を身につける。 | (1)ヨーロッパ史に関して、あるていど体系的な英語文献を理解できるようになる。 | ○ | | | ○ |
| | | | | | (2)英語文献に基づいてヨーロッパ近現代史をより深く理解できるようになる。 | ○ | ○ | | ○ |
| | | | | | (3)基本的な資料の扱い方を学ぶことができるようになる。 | | ○ | | |
| | ヨーロッパ史史料講読演習B I～IV | 各2 | 3 | ヨーロッパ史を研究する場合に必須のドイツ語読解能力を身につけ、史料を使った歴史研究の方法について学ぶ。 | (1)基礎的なドイツ語史料を自らの力で読解できる。 | | | | ○ |
| | | | | | (2)ドイツ近現代の社会・政治の概要を理解できる。 | ◎ | ○ | | |
| | | | | (3)史料を利用した歴史研究の方法の基礎を身につける。 | | ◎ | | | |
| 専門演習 I～II(考古学) | 各2 | 3～4 | 日本考古学に関する演習 | (1)考古学(文化財論を含む)の学術文献を読み、基礎知識と研究方法・研究視点がおおむね身についている。 | ○ | ◎ | | | |
| | | | | (2)自ら設定した課題について調査を行い、基礎的な学術文献や考古(文化財)資料を自分の力で収集・分析し、考察することができる。 | | ○ | | ◎ | |
| | | | | (3)考察した結果をおおむね的確に表現・発表し、他者と議論しながら自らを高めることができる。 | | | ◎ | ○ | |
| 専門演習III～IV(考古学) | 各2 | 3～4 | 日本考古学に関する演習 | (1)(卒業研究を行うために必要な)考古学(文化財論を含む)の学術文献を研究史の観点から批判的に読み、専門知識と研究方法・研究視点が十分に身についている。 | ○ | ◎ | | | |
| | | | | (2)自ら設定した課題について調査を行い、研究に必要な学術文献や考古(文化財)資料を自分の力で収集・分析し、独創性のある考察をすることができる。 | | ◎ | | ◎ | |
| | | | | (3)考察した結果を的確に表現・発表し、他者と相互に有意義な議論をしながら自らを高めることができる。 | | | ◎ | ○ | |
| 専門演習 I～IV(中国考古学) | 各2 | 3～4 | 歴史学・考古学上のテーマに基づき、卒業研究を進めるために必要な方法・視点を身に付ける。 | (1)然とした状況から、独自の判断で問題を絞り込み、資料を調査できる能力を身につける。 | | ◎ | ○ | ◎ | |
| | | | | (2)問題を客観的に整理分析でき、ルールに則った、冷静な批判と討論ができる能力を身につける。 | | ◎ | ◎ | ◎ | |
| | | | | (3)以上の成果を文章にまとめる能力を身につける。 | | ○ | ◎ | ○ | |
| 専門演習(日本古代中世史) I | 2 | 3～4 | 日本古代中世史をテーマとして、ゼミナール形式で卒業研究を行なうために必要な、問題関心を養い、方法を身につける。 | (1)日本古代中世史に関する研究文献(学術論文)を自分の力で読み解き、日本古代中世史に関する基礎的な知識を身につけることができる。 | | ◎ | | | |
| | | | | (2)日本古代中世史に関する基本史料について蒐集・読解する力を養うことができる。 | ○ | | | ◎ | |
| | | | | (3)研究文献(学術論文)や歴史資料を読解した内容について的確に表現・発表するスキルを磨くことができる。 | | | ◎ | | |
| 専門演習(日本古代中世史)II | 2 | 3～4 | 日本古代中世史をテーマとして、ゼミナール形式で卒業研究を行なうために必要な、問題関心を養い、方法を身につける。 | (1)日本古代中世史に関する研究文献(学術論文)の内容を、研究史のなかで理解し、研究展望を明確にすることができるようになる。 | | ◎ | | | |
| | | | | (2)日本古代中世史に関する基本史料について蒐集し、多角的に分析する能力を身につけることができる。 | ○ | | | ○ | |
| | | | | (3)研究文献(学術論文)や歴史資料を読解・分析した内容について、的確に表現・発表するスキルを磨くことができる。 | | | ◎ | | |

| 科目区分 | 授業科目名 | 単位 | 配当年次 | 授業の主題 | 授業の到達目標 | ディプロマポリシーの番号 | | | |
|----------------|----------------|----|------|---|--|-------------------------------|-----------------|------------------|-----------------|
| | | | | | | I 知識・ 理解 | II 思考・ 判断 | III 態度・ 行動 | IV 汎用的 技能 |
| | | | | | | ◎ DP達成のためとくに重要 ○ DP達成のため重要 | | | |
| 歴史・文化遺産コース専門科目 | 専門演習(日本古代中世史)Ⅲ | 2 | 3~4 | 日本古代中世史をテーマとして、ゼミナール形式で卒業研究を行なうために必要な、問題関心を養い、方法を身につける。 | (1)日本古代中世史に関する研究文献(学術論文)の内容を、研究史のなかで批判的に理解し、研究展望を明確にすることができる。 (2)自らが設定した課題について、歴史資料を蒐集・分析し、史料批判の上に考察する能力を身につけることができる。 (3)研究文献(学術論文)や歴史資料を考察した結果を的確に表現・発表し、他者と議論しながら内容を高めることができる。 | | ◎ | | |
| | 専門演習(日本古代中世史)Ⅳ | 2 | 3~4 | 日本古代中世史をテーマとして、ゼミナール形式で卒業研究を行なうために必要な、問題関心を養い、方法を身につける。 | (1)日本古代中世史に関する研究文献(学術論文)の内容を、研究史のなかで批判的に理解し独自の論点を提示することができる。 (2)自らの課題に関わる歴史資料について史料批判の上に考察し新しい歴史像を組み立てることができる。 (3)自身が組み立てた歴史像を説得的に表現・発表し他者との議論をふまえて学術論文を執筆することができる。 | | ◎ | | ○ |
| | 専門演習Ⅰ(日本近世史) | 2 | 3~4 | 日本近世史をテーマとして、ゼミナール形式で卒業研究を行なうために必要な方法・視点を身につける。 | (1)日本近世史に関する研究文献(学術論文)を自分の力で読み解き、日本近世史に関する基礎的な知識を身につけることができる。 (2)日本近世史に関する基本史料について蒐集・読解することができる。 (3)研究文献(学術論文)や歴史資料を読解した内容について的確に表現・発表することができる。 | ○ | ○ | | ○ |
| | 専門演習Ⅱ(日本近世史) | 2 | 3~4 | 日本近世史をテーマとして、ゼミナール形式で卒業研究を行なうために必要な方法・視点を身につける。 | (1)日本近世史に関する研究文献(学術論文)の内容を、研究史のなかで理解し、研究展望を明確にすることができる。 (2)日本近世史に関する基本史料について蒐集し、多角的に分析することができる。 (3)研究文献(学術論文)や歴史資料を読解・分析した内容について、的確に表現・発表することができる。 | ◎ | ○ | | ○ |
| | 専門演習Ⅲ(日本近世史) | 2 | 3~4 | 日本近世史をテーマとして、ゼミナール形式で卒業研究を行なうために必要な方法・視点を身につける。 | (1)日本近世史に関する研究文献(学術論文)の内容を、研究史のなかで批判的に理解し、研究展望を明確にすることができる。 (2)自らが設定した課題について、歴史資料を蒐集・分析し、史料批判の上に考察することができる。 (3)研究文献(学術論文)や歴史資料を考察した結果を的確に表現・発表し、他者と議論しながら内容を高めることができる。 | ◎ | ◎ | | ○ |
| | 専門演習Ⅳ(日本近世史) | 2 | 3~4 | 日本近世史をテーマとして、ゼミナール形式で卒業研究を行なうために必要な方法・視点を身につける。 | (1)日本近世史に関する研究文献(学術論文)の内容を、研究史のなかで批判的に理解し、独自の論点を提示することができる。 (2)自らの課題に関わる歴史資料について、史料批判の上に考察し、新しい歴史像を組み立てることができる。 (3)自身が組み立てた歴史像を説得的に表現・発表し、他者との議論をふまえて、学術論文を執筆することができる。 | ◎ | ◎ | | ◎ |
| | 専門演習Ⅰ(日本近現代史) | 2 | 3~4 | 日本近現代史をテーマとしてゼミナール形式で授業を実施し、卒業研究を行なうために必要な方法・視点を身につける。 | (1)日本近現代史に関する研究文献(学術論文)を自分の力で読み解き、日本近現代史に関する基礎的な知識を身につけることができるようになる。 (2)日本近現代史に関する基本史料について蒐集・読解する力を身につける。 (3)研究文献(学術論文)や歴史資料を読解した内容について的確に表現・発表するスキルを身につける。 | ○ | ◎ | | ◎ |
| | 専門演習Ⅱ(日本近現代史) | 2 | 3~4 | 日本近現代史をテーマとしてゼミナール形式で授業を実施し、卒業研究を行なうために必要な方法・視点を身につける。 | (1)日本近現代史に関する研究文献(学術論文)の内容を、研究史のなかで理解し、研究展望を明確にすることができるようになる。 (2)日本近現代史に関する基本史料について蒐集し、多角的に分析する能力を身につける。 (3)研究文献(学術論文)や歴史資料を読解・分析した内容について、的確に表現・発表するスキルを身につける。 | ○ | ◎ | | ◎ |
| | 専門演習Ⅲ(日本近現代史) | 2 | 3~4 | 日本近現代史をテーマとしてゼミナール形式で授業を実施し、卒業研究を行なうために必要な方法・視点を身につける。 | (1)日本近現代史に関する研究文献(学術論文)の内容を、研究史のなかで批判的に理解し、研究展望を明確にすることができるようになる。 (2)自らが設定した課題について資料を蒐集・分析し、考察することができる。 (3)研究文献(学術論文)や歴史資料を考察した結果を的確に表現・発表し、他者と議論しながら内容を深める力を身につける。 | ○ | ◎ | | ◎ |

| 科目区分 | 授業科目名 | 単位 | 配当年次 | 授業の主題 | 授業の到達目標 | ディプロマポリシーの番号 | | | |
|----------------|------------------|----|------|---|--|-------------------------------|-----------------|------------------|-----------------|
| | | | | | | I 知識・ 理解 | II 思考・ 判断 | III 態度・ 行動 | IV 汎用的 技能 |
| | | | | | | ◎ DP達成のためとくに重要 ○ DP達成のため重要 | | | |
| 歴史・文化遺産コース専門科目 | 専門演習Ⅳ(日本近現代史) | 2 | 3~4 | 日本近現代史をテーマとしてゼミナール形式で授業を実施し、卒業研究を行うために必要な方法・視点を身につける。 | (1)日本近現代史に関する研究文献の内容を、研究史のなかで批判的に理解し、独自の論点を提示することができる。 (2)自らの課題に関わる歴史資料について史料批判の上に考察し、新しい歴史像を組み立てることができる。 (3)自身が組み立てた歴史像を説得的に表現・発表し、他者との議論をふまえて、学術論文を執筆することができる。 | ○ | ◎ | | ◎ |
| | 専門演習Ⅰ～Ⅱ(アジア前近代史) | 各2 | 3~4 | 前近代を中心としたアジア史をテーマとして、ゼミナール形式で卒業研究を行うために必要な方法・視点を身につける。 | (1)卒業研究を行うために必要な歴史学の研究方法・研究視点がとおむね身についている。 (2)自ら設定した課題について調査を行い、資料(史料)を収集・分析し、考察することができる。 (3)考察した結果をおおむね的確に表現・発表し、他者と議論しながら自らを高めることができる。 | ○ | ◎ | | ◎ |
| | 専門演習Ⅲ～Ⅳ(アジア前近代史) | 各2 | 3~4 | 前近代を中心としたアジア史をテーマとして、ゼミナール形式で卒業研究を行うために必要な方法・視点を身につける。 | (1)卒業研究を行うために必要な歴史学の研究方法・研究視点が十分に身についている。 (2)自ら設定した課題について調査を行い、網羅的に資料(史料)を収集・分析し、独自の考察することができる。 (3)考察した結果を的確に表現・発表し、他者と有意義な議論をしながら自らを高めることができる。 | ○ | ◎ | | ◎ |
| | 専門演習Ⅰ～Ⅱ(アジア近現代史) | 各2 | 3~4 | 近現代のアジアを中心とした個別テーマで演習を行い、さらに卒業研究に必要な準備を行う。 | (1)卒業研究を行うために必要な歴史学の研究方法・研究視点がとおむね身についている。 (2)自ら設定した課題について調査を行い、資料(史料)を収集・分析し、考察することができる。 (3)考察した結果をおおむね的確に表現・発表し、他者と議論しながら自らを高めることができる。 | ○ | ◎ | | ◎ |
| | 専門演習Ⅲ～Ⅳ(アジア近現代史) | 各2 | 3~4 | 近現代のアジアを中心とした個別テーマで演習を行い、さらに卒業研究に必要な準備を行う。 | (1)卒業研究を行うために必要な歴史学の研究方法・研究視点が十分に身についている。 (2)自ら設定した課題について調査を行い、網羅的に資料(史料)を収集・分析し、独自の考察することができる。 (3)考察した結果を的確に表現・発表し、他者と有意義な議論をしながら自らを高めることができる。 | ○ | ◎ | | ◎ |
| | 専門演習Ⅰ～Ⅱ(ヨーロッパ史) | 各2 | 3~4 | ヨーロッパ近現代史を中心にして世界の近現代史を学ぶ。ゼミナール形式で、受講生の研究や卒業研究を作成するために必要な方法や視点を身につける。 | (1)卒業研究を行うために必要な歴史学の研究方法・研究視点がとおむね身についている。 (2)自ら設定した課題について調査を行い、資料(史料)を収集・分析し、考察することができる。 (3)考察した結果をおおむね的確に表現・発表し、他者と議論しながら自らを高めることができる。 | ○ | ◎ | | ◎ |
| | 専門演習Ⅲ～Ⅳ(ヨーロッパ史) | 各2 | 3~4 | ヨーロッパ近現代史を中心にして世界の近現代史を学ぶ。ゼミナール形式で、受講生の研究や卒業研究を作成するために必要な方法や視点を身につける。 | (1)卒業研究を行うために必要な歴史学の研究方法・研究視点が十分に身についている。 (2)自ら設定した課題について調査を行い、網羅的に資料(史料)を収集・分析し、独自の考察することができる。 (3)考察した結果を的確に表現・発表し、他者と有意義な議論をしながら自らを高めることができる。 | ○ | ◎ | | ◎ |
| | 歴史地理学Ⅰ～Ⅱ | 各2 | 3 | 地理的事象を理解するうえで不可欠な歴史的なプロセスを具体的事例から学ぶ。 | (1)古地図の意味を理解し、世界観の変化、地図発達史、歴史的景観の復原、絵図解釈論の研究などに活用することができる。 | ○ | ◎ | ◎ | ○ |
| | 情報メディアと博物館 | 2 | 3 | 博物館情報メディア論(博物館に関する科目) | (1)博物館における情報発信がもたらす「体験」の種類とそれぞれの意義について自ら考えることができる。 (2)情報メディアの革新と、博物館及び博物館資料の関係について、深く考えることができる。 (3)公共施設で活動するために十分な情報リテラシーを身につける。 | ◎ | ○ | ◎ | ○ |
| | 文化財保存と博物館 | 2 | 3 | 博物館資料保存論(博物館に関する科目) | (1)文化財を保護する際の理念を理解できる。 (2)文化財の保存に関する科学的な知識を自ら学んでいくことができる。 (3)博物館資料等を破壊・劣化から守るための方策について具体的に考えることができる。 | ◎ | ○ | ◎ | ○ |

| 科目区分 | 授業科目名 | 単位 | 配当年次 | 授業の主題 | 授業の到達目標 | ディプロマポリシーの番号 | | | |
|----------------------|----------|----|---|--|--|-------------------------------|-----------------|------------------|-----------------|
| | | | | | | I 知識・ 理解 | II 思考・ 判断 | III 態度・ 行動 | IV 汎用的 技能 |
| | | | | | | ◎ DP達成のためとくに重要 ○ DP達成のため重要 | | | |
| 文芸・思想 コース 専門科目 | 茨城の歴史と風土 | 2 | 3 | 歴史の展開した現場や実物史料から、茨城の身近な歴史を考えさせる。 | (1)水戸を中心とする茨城の歴史と文化のあり様について、基礎的な知識を身につける。 | ○ | | | |
| | | | | | (2)博物館・文書館における歴史資料の保存や活用方法について、必要な知識と技術を身につける。 | ○ | ○ | ○ | |
| | | | | | (3)地域史研究を通して、地域社会の現代的な課題を発見し、解決する力を身につける。 | | ◎ | ◎ | ○ |
| | 日本思想史概論Ⅰ | 2 | 2 | 神仏習合思想の形成と展開 | (1)前近代の思想宗教を学ぶことにより、現代文化を相対化する。 | | ○ | | |
| | | | | | (2)日本文化に対する柔軟で多様な関心を持つ。 | ◎ | | | |
| | | | | | (3)問題関心を持ち、自分でも追究できるようにする。 | | | ○ | |
| | 日本思想史概論Ⅱ | 2 | 2 | 信仰の諸相 | (1)前近代の思想宗教を学ぶことにより、現代文化を相対化する。 | | ○ | | |
| | | | | | (2)日本文化に対する柔軟で多様な関心を持つ。 | ◎ | | | |
| | | | | | (3)問題関心を持ち、自分でも追究できるようにする。 | | | ○ | |
| | 哲学概論Ⅰ | 2 | 2 | 西洋哲学の基本問題について概説する。 | (1)哲学の基礎知識を得る。 | ○ | | | |
| | | | | | (2)諸問題の間の関連を付けることができる。 | | ○ | | |
| | | | | | (3)「無用の用」ということについて考える。 | | | ◎ | |
| | 哲学概論Ⅱ | 2 | 2 | 人生の意味、意味、認識、存在、倫理について哲学的に考えることを短文の読解を通じて練習する。 | (1)哲学的文章を読み、問題について自分で考えてまとめることができる。 | ○ | ○ | | |
| | | | | | (2)紹介するどれか二つのトピックについて、自分の課題として考える。 | | ○ | | |
| | | | | | (3)二つのトピックについて、文献に基づき批評的に自分の見解を形成できる。 | | ○ | ○ | |
| 論理的思考法 | 2 | 2 | 西洋論理学「非形式論理学」の現代版トレーニング | (1)文の接続関係の理解。 | ○ | | ○ | ○ | |
| | | | | (2)論証構造理解と演繹/推測の区別。 | ○ | ◎ | ○ | ○ | |
| | | | | (3)にせの論証を見抜き、批判の視点から異論・批判を組み立てることができる。 | | ○ | | ○ | |
| 日本古典文学史Ⅰ・Ⅱ | 各2 | 2 | 日本古典文学史について理解する。 | (1)日本古典文学史に関する基礎知識を習得する。 | ◎ | | | | |
| | | | | (2)日本古典文学史を体系的に理解する。 | ◎ | | | | |
| | | | | (3)日本古典文学史とその背景となる諸事象との関連を理解する。 | | ◎ | | | |
| 日本近代文学史Ⅰ | 2 | 2 | 「近代」の訪れが生んだ新しい言語表現が近代文学として形成されていく過程を、実作品の分析・解説によって明らかにする。日本近代文学史Ⅰでは、明治から昭和期戦前にかけての文学の変遷を、小説、記録文学、実話、話芸など、広範な視座からたどっていく。 | (1)「近代」という時代を新旧文化のせめぎ合いの中から読み解くことができる。 | ○ | | ◎ | | |
| | | | | (2)時代の流れに抗うかたちの文学活動があったことを実作を通じて理解できる。 | ○ | ○ | | ○ | |
| | | | | (3)過去を学ぶことで、自分が生きる時代を問い直す意識を深める。 | | ◎ | ◎ | ○ | |
| 日本近代文学史Ⅱ | 2 | 2 | 「近代」の訪れが生んだ新しい言語表現が近代文学として形成されていく過程を、実作品の分析・解説によって明らかにする。日本近代文学史Ⅱでは、昭和期戦後からの文学の変遷を、小説、記録文学、演劇、映画など、広範な視座からたどっていく。 | (1)文学を隣接する文化と関連づけることで、厚みをもった文学史をイメージできる。 | ○ | ◎ | | | |
| | | | | (2)歴史の中で果たした役割を知って、文学の存在理由を再確認できる。 | ○ | ◎ | | ◎ | |
| | | | | (3)純文学とエンターテインメント文学の相補性を理解できる。 | ○ | ○ | | ○ | |
| 国語史概論Ⅰ・Ⅱ | 各2 | 2 | 日本語の様々な史的変遷の実例を見ていくことにより、語義・語法・語形・表記等の変化がいかにして調査され記述されていくのかを学ぶ。 | (1)国語史研究にはどのような実例があるのかという知識を身につける。 | ◎ | | | | |
| | | | | (2)実際の学術論文に触れ、内容を把握するとともに、論述のスタイルを身につける。 | ◎ | | | | |
| | | | | (3)先行研究において、どこまでが解明されていて、どのようなことが解明されていないのかについて判断する能力を身につける。 | | ◎ | | ○ | |

| 科目区分 | 授業科目名 | 単位 | 配当年次 | 授業の主題 | 授業の到達目標 | ディプロマポリシーの番号 | | | |
|--------------------------|--------|----|---|--|--|-------------------------------|-----------------|------------------|-----------------|
| | | | | | | I 知識・ 理解 | II 思考・ 判断 | III 態度・ 行動 | IV 汎用的 技能 |
| | | | | | | ◎ DP達成のためとくに重要 ○ DP達成のため重要 | | | |
| 文芸・思想コース専門科目 | 国語学概論Ⅰ | 2 | 2 | 国語学の各分野について紹介し、その学問領域について俯瞰する。前半は学校文法について、後半は日本語のアクセントおよびその歴史、それらを土台にした方言研究について紹介する。 | (1)学校文法の目的と特徴との間にはどのような関係があるのかについて理解する。 | ◎ | | | |
| | | | | | (2)日本語の音声的特徴について理解する。 | ◎ | | | |
| | | | | | (3)方言学の概略について理解する。 | ◎ | | | |
| | 国語学概論Ⅱ | 2 | 2 | 日本語と漢字・漢語との間わりについて説明し、これまで日本で用いられてきた漢字字体や漢字音、様々な漢語などがどのような変遷を経て現在の状況に到ったのかについて紹介する。 | (1)漢字の三要素である形・音・義の概念や、字形・字体・書体についてなど、漢字に関する基礎的知識を身につける。 | ◎ | | | |
| | | | | | (2)旧字体が読めるようになる。 | ◎ | | | |
| | | | | | (3)日本で用いられている様々な漢語の成り立ちについて、概略を把握する。 | ◎ | | | |
| | 中国文学史Ⅰ | 2 | 2 | 民国期、日中戦争期、人民文学そして文革後、現在までの代表的な作品を講読し、それを通して、中国近現代文学を学ぶ。 | (1)中国文学史の全体像をつかみ、各時代・各ジャンルの代表作や代表的文学者について知識を得る。 | ◎ | | | |
| | | | | | (2)文学作品を講読する力を習得する。 | ◎ | | | |
| | | | | | (3)近代・現代文学研究の方法を学び、作品の書かれた時代背景との関連や、作家とその生涯などの問題を考察できるようになる。 | | ◎ | | |
| | 中国文学史Ⅱ | 2 | 2 | 中国古代の神話伝説から明清文学まで、時代ごとに概説し、作品を講読する。 | (1)中国文学史の全体像をつかみ、各時代、各ジャンルの代表作、代表的文学者について学ぶ。 | ◎ | | | |
| | | | | | (2)中国文学作品を講読する力を身につける。 | ◎ | | | |
| | | | | | (3)文学研究、文化研究へと関心が広がり、深く学んで考察することができるようになる。 | | ◎ | | |
| (3)同時代の日本文学・日本思想との関連を学ぶ。 | | | | | ◎ | | | | |
| 中国文化概論Ⅰ・Ⅱ | 各2 | 2 | 中国思想に関わる諸文献を時代の特性に注視しながら解説する。 | (1)中国思想の特徴を文献に基づいて説明できる。 | ◎ | | | ○ | |
| | | | | (2)中国思想がどのような変遷を遂げていったのかを歴史的視点により考察することができる。 | | ◎ | | | |
| | | | | (3)中国思想が東アジア諸国に如何に受容されていったのかを理解できる。 | | | ○ | | |
| 中国科学概論Ⅰ・Ⅱ | 各2 | 2 | 中国科学の一大分野である医学を、時代ごとのトピックの問題に注目しながら概論する。とくに中国文化史と不可分の関係にあることを、発展・変遷の様相、および日本との比較を通じて解説する。 | (1)中国伝統の科学技術と思想が中国文化と不可分の関係にあることを、中国医学の歴史を通して理解できる。 | ◎ | ○ | | ○ | |
| | | | | (2)中国医学の発展史と日本における受容史の知識を説明できる。 | ○ | ◎ | ○ | ○ | |
| | | | | (3)文化と科学技術・文明の関連を理解し、中国と日本との関係を研究する意義を考察できる。 | ○ | ◎ | ◎ | ○ | |
| ドイツ文学史Ⅰ | 2 | 2 | ドイツ文学の成立期である西暦800年頃から現代に至るまでのドイツ文学の歴史について学ぶ。 | (1)文学作品を時間軸に沿って整理できる。 | ◎ | | | | |
| | | | | (2)個々の作品を時代背景の中においてより深く読める。 | ◎ | | | | |
| | | | | (3)個々の作品を時代背景の中においてより深く読める。 | | | ○ | | |
| ドイツ文学史Ⅱ | 2 | 2 | ドイツ文学史に関連する特定の分野あるいはテーマに沿って学ぶ。 | (1)ドイツ文学の特定の分野を時間軸に沿ってその特徴とともに整理できる。 | ◎ | | | | |
| | | | | (2)時代背景を踏まえて特定のテーマを掘り下げて読むことができる。 | ◎ | | | | |
| | | | | (3)日本文学との異同に視野を広げることができる。 | | | ○ | | |
| ドイツ文化概論Ⅰ | 2 | 2 | ドイツ語圏の文化、社会の特徴をできるだけ広く概観する。その上で、わたしたちがドイツ文化から学ぶべきものは何かということ、みずから問いかける。 | (1)ドイツ語圏の文化、社会の特徴を概略的に理解し、説明することができる。 | ○ | ○ | | | |
| | | | | (2)ドイツ語圏の文化、社会の特徴を、日本の場合と比較してみることができる。 | | | ○ | | |
| | | | | (3)異なる国や民族の文化、社会について積極的に学ぶ姿勢を身につけることができる。 | ○ | | ○ | | |

| 科目区分 | 授業科目名 | 単位 | 配当年次 | 授業の主題 | 授業の到達目標 | ディプロマポリシーの番号 | | | |
|--------------|-------------|----|---|---|---|-------------------------------|-----------------|------------------|-----------------|
| | | | | | | I 知識・ 理解 | II 思考・ 判断 | III 態度・ 行動 | IV 汎用的 技能 |
| | | | | | | ◎ DP達成のためとくに重要 ○ DP達成のため重要 | | | |
| 文芸・思想コース専門科目 | ドイツ文化概論Ⅱ | 2 | 2 | ドイツ語圏の文化、社会の特徴をできるだけ広く概観する。その上で、わたしたちがドイツ文化から学ぶべきものは何かということ、みずからにしっかり問いかける。 | (1)ドイツ語圏の文化、社会の特徴を概略的に理解し、くわしく説明することができる。 | ○ | ○ | | |
| | | | | | (2)ドイツ語圏の文化、社会の特徴を、日本の場合と比較し、考察することができる。 | | ○ | | |
| | | | | | (3)異なる国や民族の文化、社会について積極的に学ぶ姿勢を身につけ、実践することができる。 | ○ | | ○ | |
| | フランス文芸史Ⅰ・Ⅱ | 各2 | 2 | 中世から20世紀までのフランスを代表する文学作品の特徴を学ぶ。 | (1)フランスの文学作品を時間軸に沿って整理できる。 | ◎ | | | |
| | | | | | (2)個々の作品を、その時代背景を考えながら、深く読める。 | ◎ | | | |
| | | | | | (3)日本の文学作品との異同に視野を広げることができる。 | | | ○ | |
| | フランス文化概論Ⅰ・Ⅱ | 各2 | 2 | 幾つかのテーマを設けてフランスの文化事情を取り上げ、文化の特徴や時代背景などさまざまな観点から講義を行う。 | (1)特定のテーマや分野についての意義が理解できる。 | ◎ | | | |
| | | | | | (2)文化事象の特徴をしっかりと説明できる。 | ○ | | | |
| | | | | | (3)講義内容を踏まえ、関連するテーマに沿ってレポートを作成できる。 | | ○ | | |
| | フランス映画論 | 2 | 2 | フランス映画の代表作を取り上げて、作品の特徴や時代背景などさまざまな観点から講義を行う。 | (1)特定のテーマや分野、監督・作品についての意義が理解できる。 | ◎ | | | |
| | | | | | (2)作品の内容をしっかりと説明できる。 | ○ | | | |
| | | | | | (3)講義内容を踏まえ、関連するテーマに沿ってレポートを作成できる。 | | ○ | | |
| イギリス文学史Ⅰ・Ⅱ | 各2 | 2 | イギリスの文学の歴史を学ぶ。 | (1)各時代の作家・作品の特質を理解する。 | ◎ | ○ | | | |
| | | | | (2)時代背景を理解する。 | ◎ | ○ | | | |
| | | | | (3)文化・思潮の流れを把握する。 | ◎ | ○ | | | |
| イギリス文化概論Ⅰ・Ⅱ | 各2 | 2 | イギリス文化の基礎的知識と概念を学ぶ。 | (1)文化を形成する基礎的な事項の知識を身につける。 | ◎ | ○ | | | |
| | | | | (2)文化と社会の関係を理解する。 | ◎ | ○ | | | |
| | | | | (3)文化の多様性と相関性を探求する。 | | ○ | ◎ | | |
| アメリカ文学史Ⅰ・Ⅱ | 各2 | 2 | 基礎的な知識・概念を整理しながら、アメリカ文学の流れと特質を理解する。 | (1)アメリカ文学の基礎的な用語を理解できる。 | ◎ | | | | |
| | | | | (2)アメリカ文学の基礎的な流れと特質を理解できる。 | ◎ | | | | |
| | | | | (3)アメリカの歴史と文化について理解できる。 | ○ | | | | |
| アメリカ文化概論Ⅰ | 2 | 2 | アメリカ大衆文化を批判的に分析する。 | (1)アメリカ大衆文化の政治的意味を理解できる。 | ○ | ◎ | ◎ | ○ | |
| | | | | (2)社会、文化的文脈を理解できる。 | ○ | ◎ | ○ | ○ | |
| | | | | (3)様々なテキスト分析の方法を身につける。 | ○ | ○ | ○ | ◎ | |
| アメリカ文化概論Ⅱ | 2 | 2 | アメリカ文化・文学の思想的背景を学ぶ。 | (1)アメリカ合衆国の理念を理解する。 | ○ | ◎ | ○ | ◎ | |
| | | | | (2)アメリカ文化・文学の思想的背景を読解できる。 | ○ | ◎ | ○ | ◎ | |
| | | | | (3)思想的背景を理解し、テキスト分析の方法を身につける。 | ○ | ◎ | ○ | ◎ | |
| 西洋美術史Ⅰ・Ⅱ | 各2 | 2 | 西洋美術の歴史を、主要な美術作品によってたどり、作品と時代の関係、様式展開、作品記述の方法を学ぶ。 | (1)西洋の主要美術作品(作者、制作年代)を覚える。 | ◎ | | | | |
| | | | | (2)美術史学の基礎的な方法論を習得する。 | | ○ | | | |
| | | | | (3)美術作品を観察し、解説する力を身につける。 | | | | ○ | |

| 科目区分 | 授業科目名 | 単位 | 配当年次 | 授業の主題 | 授業の到達目標 | ディプロマポリシーの番号 | | | |
|-------------------------------|----------------|----|---|--|---|-------------------------------|-----------------|------------------|-----------------|
| | | | | | | I 知識・ 理解 | II 思考・ 判断 | III 態度・ 行動 | IV 汎用的 技能 |
| | | | | | | ◎ DP達成のためとくに重要 ○ DP達成のため重要 | | | |
| 文芸・ 思想 コース 専門科目 | 日本思想史講読演習Ⅰ～Ⅳ | 各2 | 3 | 中世の説話文学作品を読む | (1)日本中世の仏教・文学についての知識を身につける。 | ○ | | | |
| | | | | | (2)資料の探索・調査方法の習得。 | | ◎ | | |
| | | | | | (3)自らテーマを立てて、研究する。 | | ◎ | | |
| | 古典哲学・思想講読演習Ⅰ～Ⅳ | 各2 | 3 | 古典哲学を理解する上で重要なテキストを読み、読解力と哲学的理解力及び表現力を身に付ける。 | (1) 古典哲学の基本テキストを読んで著者の哲学的な考え方を理解する。 | ○ | | | |
| | | | | | (2) テキストを手がかりに、著者のメッセージの批判的検討を行うことができる。 | | ○ | | |
| | | | | | (3) テキストの哲学的主題に関して根拠に基づいて自分の見解を立論できる。 | | ◎ | ○ | |
| | 現代哲学・思想講読演習Ⅰ～Ⅳ | 各2 | 3 | 現代哲学の重要文献を読み、理解し、論点をめぐる哲学的議論の仕方を学ぶ | (1)代表的現代哲学文献を分析的に読み、理解する。 | ○ | | | |
| | | | | | (2)文献において提出された哲学問題に関する議論に加わり、関連業績を学習する。 | ○ | ○ | ○ | |
| | | | | | (3)文献の本質的論点に関わる自分の見解をまとめることができる。 | | ◎ | | |
| | 日本古典文学講読演習Ⅰ～Ⅳ | 各2 | 3 | 日本古典文学の作品について自ら調べて考察する。他者の意見を批判的に吟味する。 | (1)日本古典文学の作品について自ら調べ精密に考察出来る。 | | ◎ | | |
| (2)自らの考えを資料に基づき、説得力をもって発表できる。 | | | | | | | | ◎ | |
| (3)先行研究や他者の意見を批判的に吟味出来る。 | | | | | | ○ | | | |
| 日本近代文学講読演習Ⅰ～Ⅳ | 各2 | 3 | 日本近代文学研究の方法・スタンスを身につけるための演習を行う。受講生各自が担当箇所について調査し、成果を発表し、他の受講生との質疑応答を行うことで、読解力、思索力、表現力、コミュニケーション能力を高める。 | (1)近代日本人の生活、風俗を知り、時代性と関連づけて文学作品を鑑賞できる。 | ○ | ◎ | | | |
| | | | | (2)小説の構造にかくされた「仕掛け」を発見し、それを手がかりにして作品を深く読解できる。 | ○ | ◎ | ○ | ○ | |
| | | | | (3)近代文学研究の基礎を先行研究に学び、同時に自ら立論するための方法を身につけることができる。 | ○ | ◎ | ○ | ○ | |
| 国語学講読演習Ⅰ～Ⅳ | 各2 | 3 | 国語史研究に利用し得る資料を影印本等により読み進めることにより、一次資料を読解する能力や、日本語を分析する能力、研究テーマを見つける能力等を身につけさせる。 | (1)辞書等を用いて一次資料を自力で読解する能力を身につける。 | | ◎ | ○ | | |
| | | | | (2)資料の中から研究のテーマになりそうなものを見つけ、そのテーマについて自力で調査・解明する能力を身につける。 | | | ○ | ◎ | |
| | | | | (3)調査した内容をわかりやすく他者に伝えられるような発表の技術を身につけるとともに、他者の発表に対して適切に意見・質問ができるようになる。 | | | ○ | ◎ | |
| 中国文学講読演習Ⅰ・Ⅲ | 各2 | 3 | 中国語原文で小説を読み、中国現代文学の研究手法、翻訳の方法を学ぶ。 | (1)中国語の翻訳技術を学び、翻訳の能力を高めることができる。 | ◎ | | | | |
| | | | | (2)文学研究の方法論を学び、作品の精読をとおして、テキストの分析方法・文学批評のやりかたを習得できる。 | ◎ | ○ | | | |
| | | | | (3)中国文学史における実験小説の位置づけ、中国大陸の文学と香港・台湾文学の関係について理解できる。 | | ◎ | | | |
| 中国文学講読演習Ⅱ・Ⅳ | 各2 | 3 | 中国語原文で小説を読み、中国現代文学の研究手法、翻訳の方法を学ぶ。 | (1)中国語の翻訳技術を学び、翻訳の能力を高めることができる。 | ◎ | | | | |
| | | | | (2)文学研究の方法論を学び、作品の精読をとおして、テキストの分析方法・文学批評のやりかたを習得できる。 | ◎ | ○ | | | |
| | | | | (3)中国文学史における実験小説の位置づけ、中国大陸の文学と香港・台湾文学の関係について理解できる。 | | ◎ | | | |
| 中国文化論講読演習Ⅰ～Ⅳ | 各2 | 3 | 中国の漢文文献を精読することによって、中国文化・歴史などについて理解を深め、古典文献の読解力を確かなものにする。 | (1)中国思想の古典文献について自ら調査し精密に読解できる。 | ◎ | | | ○ | |
| | | | | (2)資料に基づいて、精読した成果を他者に分かりやすく発表できる。 | | ○ | | ◎ | |
| | | | | (3)文献の持つ学術価値を中国思想史の脈絡の中で理解することができる。 | ○ | ◎ | | | |
| 中国科学史講読演習Ⅰ・Ⅲ | 各2 | 3 | 平安時代の王侯貴族用に唐以前の文献から編纂された『医心方』から、巻29の食養論部を国宝の平安写本で読む。その所引文献に遡及して可能な限り原文を搜索し、両者を校勘しながら食養論の変化を立体的に把握、さらに引用の取捨から中国食文化の日本的受容傾向も考察する。 | (1)食養の思想と方法を古典籍の記載から説明できる。 | ◎ | ○ | ○ | ○ | |
| | | | | (2)中国中世の異体字・俗字の知識および校勘学の方法を修得し、唐以前の原文を正確に読解することができる。 | ○ | ◎ | | ○ | |
| | | | | (3)引用の取捨から中国食文化の日本的受容傾向も考察できる。 | ○ | ◎ | ○ | ○ | |

| 科目区分 | 授業科目名 | 単位 | 配当年次 | 授業の主題 | 授業の到達目標 | ディプロマポリシーの番号 | | | |
|--------------------------------------|--------------|----|---|--|--|-------------------------------|-----------------|------------------|-----------------|
| | | | | | | I 知識・ 理解 | II 思考・ 判断 | III 態度・ 行動 | IV 汎用的 技能 |
| | | | | | | ◎ DP達成のためとくに重要 ○ DP達成のため重要 | | | |
| 文芸・ 思想 コース 専門科目 | 中国科学史講読演習Ⅱ・Ⅳ | 各2 | 3 | 中国本草書の原典より明中期までの記述を分類・編纂した『本草綱目』の人物を講読し、中国歴代の身体観と人体に関する知恵を学び、中国古典籍の読解力も養う。 | (1)中国本草書の具体的内容を理解し、その知的体系を説明できる。 | ○ | ◎ | ○ | ○ |
| | | | | | (2)文字学・名物学・博物学・文献学・工具書等の知識を習得して漢文の意味を理解し、正確に訓読できる。 | ○ | ◎ | | ○ |
| | | | | | (3)中国人の有用天然物への視点と情報の集積システムを、歴史的に考察できる。 | ◎ | ○ | ○ | ○ |
| | ドイツ文学講読演習Ⅰ | 2 | 3 | 中級レベル以上のドイツ語のテキストを用いてドイツ語圏の文学、文化、歴史などについて理解を深め、ドイツ語の読解力を確かなものにする。 | (1)初等レベルを越えた文法を修得する。 | ◎ | | | |
| | | | | | (2)比較的複雑なドイツ語の文章を辞事典などを手がかりに読むことができる。 | | ○ | | |
| | | | | | (3)ドイツ語の文章を社会や歴史を含めた脈絡の中で読み取ることができる。 | ○ | | | |
| | ドイツ文学講読演習Ⅱ | 2 | 3 | 中級レベル以上のドイツ語のテキストを用いてドイツ語圏の文学、文化、歴史などについて理解を深め、ドイツ語の読解力を確かなものにする。 | (1)初等レベルを越えた文法を修得する。 | ◎ | | | |
| | | | | | (2)比較的複雑なドイツ語の文章を辞事典などを手がかりに読むことができる。 | | ○ | | |
| | | | | | (3)ドイツ語の文章を社会や歴史を含めた脈絡の中で読み取ることができる。 | ○ | | | |
| | ドイツ文学講読演習Ⅲ | 2 | 3 | 中級レベル以上のドイツ語のテキストを用いてドイツ語圏の文学、文化、歴史などについて理解を深め、ドイツ語の読解力を確かなものにする。 | (1)初等レベルを越えた文法を修得する。 | ◎ | | | |
| | | | | | (2)比較的複雑なドイツ語の文章を辞事典などを手がかりに読むことができる。 | | ○ | | |
| | | | | | (3)ドイツ語の文章を社会や歴史を含めた脈絡の中で読み取ることができる。 | ○ | | | |
| | ドイツ文学講読演習Ⅳ | 2 | 3 | 中級レベル以上のドイツ語のテキストを用いてドイツ語圏の文学、文化、歴史などについて理解を深め、ドイツ語の読解力を確かなものにする。 | (1)初等レベルを越えた文法を修得する。 | ◎ | | | |
| | | | | | (2)比較的複雑なドイツ語の文章を辞事典などを手がかりに読むことができる。 | | ○ | | |
| (3)ドイツ語の文章を社会や歴史を含めた脈絡の中で読み取ることができる。 | | | | | ○ | | | | |
| ドイツ文化論講読演習Ⅰ | 2 | 3 | ドイツ語圏の文化に関するテキストをドイツ語原文で読み、ドイツ語圏の文化の一端に直接深く触れる。 | (1)ドイツ語圏の文化に関するテキストの内容を理解し、説明することができる。 | ○ | | | | |
| | | | | (2)ドイツ語圏の文化の一端を日本のものと比較することができる。 | | ○ | | | |
| | | | | (3)辞書を用いてドイツ語で書かれた文章を自力で読み、内容を理解することができる。 | ○ | | | ○ | |
| | | | | (4)ドイツ語検定試験3級合格程度の実力を備えることができる。 | | | | ○ | |
| ドイツ文化論講読演習Ⅱ | 2 | 3 | ドイツ語圏の文化に関するテキストをドイツ語原文で読み、ドイツ語圏の文化の一端に直接深く触れる。 | (1)ドイツ語圏の文化に関するテキストの内容を理解し、説明することができる。 | ○ | | | | |
| | | | | (2)ドイツ語圏の文化の一端を日本のものと比較することができる。 | | ○ | | | |
| | | | | (3)辞書を用いてドイツ語で書かれた文章を自力で読み、内容を理解することができる。 | ○ | | | ○ | |
| | | | | (4)ドイツ語検定試験3級合格程度の実力を備えることができる。 | | | | ○ | |
| ドイツ文化論講読演習Ⅲ | 2 | 3 | ドイツ語圏の文化に関するテキストをドイツ語原文で読み、ドイツ語圏の文化の一端に直接深く触れる。 | (1)ドイツ語圏の文化に関するテキストの内容を理解し、説明することができる。 | ○ | | | | |
| | | | | (2)ドイツ語圏の文化の一端を日本のものと比較することができる。 | | ○ | | | |
| | | | | (3)辞書を用いてドイツ語で書かれた文章を自力で読み、内容を理解することができる。 | ○ | | | ○ | |
| | | | | (4)ドイツ語検定試験3級合格程度の実力を備えることができる。 | | | | ○ | |
| ドイツ文化論講読演習Ⅳ | 2 | 3 | ドイツ語圏の文化に関するテキストをドイツ語原文で読み、ドイツ語圏の文化の一端に直接深く触れる。 | (1)ドイツ語圏の文化に関するテキストの内容を理解し、説明することができる。 | ○ | | | | |
| | | | | (2)ドイツ語圏の文化の一端を日本のものと比較することができる。 | | ○ | | | |
| | | | | (3)辞書を用いてドイツ語で書かれた文章を自力で読み、内容を理解することができる。 | ○ | | | ○ | |
| | | | | (4)ドイツ語検定試験3級合格程度の実力を備えることができる。 | | | | ○ | |

| 科目区分 | 授業科目名 | 単位 | 配当年次 | 授業の主題 | 授業の到達目標 | ディプロマポリシーの番号 | | | |
|--------------------------|---------------|----|--|---|--|-------------------------------|-----------------|------------------|-----------------|
| | | | | | | I 知識・ 理解 | II 思考・ 判断 | III 態度・ 行動 | IV 汎用的 技能 |
| | | | | | | ◎ DP達成のためとくに重要 ○ DP達成のため重要 | | | |
| 文芸・ 思想 コース 専門科目 | フランス文学講読演習Ⅰ～Ⅳ | 各2 | 3 | 仏語検定3級から2級レベルのフランス語のテキストを用いて、フランス語圏の文学、文化、歴史などについて理解を深め、フランス語の読解力を確かなものにする。 | (1)仏語検定3級レベルの文法を修得する。 | ◎ | | | |
| | | | | | (2)比較的複雑なフランス語の文章を読むことができる。 | | ○ | | |
| | | | | | (3)フランス語の文章を、社会状況や時代背景を念頭に置きながら読み取ることができる。 | ○ | | | |
| | フランス文化論講読演習 | 2 | 3 | フランスの美術史学研究書をフランス語(または英文)で講読する。 | (1)仏文(または英文)で書かれた美術作品情報を理解する。 | ○ | | | |
| | | | | | (2)美術固有の仏文(または英文)用語を理解する。 | | | | ○ |
| | | | | | (3)仏文(または英文)で美術作品の解説ができる。 | | | ○ | ○ |
| | イギリス文学講読演習Ⅰ～Ⅳ | 各2 | 3 | イギリス文学を研究するうえで必要な英文読解力を涵養し、併せて文学研究の方法について学ぶ。 | (1)基礎的な英文を自分の力で読解できる。 | ◎ | ○ | | |
| | | | | | (2)イギリス文学の作品を理解できる。 | ◎ | ○ | | |
| | | | | | (3)英文テキストの読解を通してイギリス文学の研究方法を身につける。 | | ◎ | ○ | |
| | アメリカ文学講読演習Ⅰ～Ⅳ | 各2 | 3 | アメリカ文学を研究する際に必要な英文の読解力を養成し、併せて文学研究の方法について学ぶ。 | (1)基礎的な英文を自分の力で読解できる。 | | | | ◎ |
| | | | | | (2)アメリカ文学の作品を理解できる。 | | ◎ | | |
| | | | | | (3)英文テキストを通してアメリカ文学の研究方法を身につける。 | | ◎ | | |
| アメリカ文化論講読演習Ⅰ・Ⅲ | 各2 | 3 | アメリカ社会、文化的文脈とテキストの関連を解説する方法を学ぶ。 | (1)アメリカ大衆文化を鑑賞できる。 | ○ | | ○ | | |
| | | | | (2)アメリカ社会、歴史的背景を理解できる。 | ○ | ○ | ◎ | | |
| | | | | (3)様々なテキスト分析の方法を身につける。 | ○ | ○ | ○ | ◎ | |
| アメリカ文化論講読演習Ⅱ・Ⅳ | 各2 | 3 | アメリカ大衆文化における間テキスト文学の読解方法を学ぶ。 | (1)アメリカ大衆文化を鑑賞できる。 | ○ | | ○ | | |
| | | | | (2)間テキストを発見できる。 | ○ | ◎ | ○ | ○ | |
| | | | | (3)様々なテキスト分析の方法を身につける。 | ○ | ○ | ○ | ◎ | |
| 美術史講読演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ | 各2 | 3 | 英文の美術作品概説、および、美術史学研究書を講読する。合わせて、日本美術を英語で説明する力も養う。 | (1)英文で書かれた美術作品情報を理解する。 | ○ | | | | |
| | | | | (2)美術固有の英文用語を理解する。 | | | | ○ | |
| | | | | (3)英文で美術作品の解説ができる。 | | | ○ | ○ | |
| 日本思想Ⅰ・Ⅱ | 各2 | 3 | 日本前近代の宗教と思想についての問題を追究する。 | (1)日本前近代の宗教・思想についての深い知識を身につける。 | ◎ | | | | |
| | | | | (2)過去について知ることによって現代文化を相対的に考える契機とする。 | ○ | ○ | | | |
| | | | | (3)独自の関心を持って、研究ができるようにする。 | | ◎ | | | |
| 古典哲学・思想Ⅰ・Ⅱ | 各2 | 3 | 哲学の一般的理解に基づき、西洋古典に属する哲学とその流れ、後代への影響、現代的意義について理解する。 | (1)哲学的トピックに関する西洋古代哲学の発想の基本を理解する。 | ◎ | | | | |
| | | | | (2)古代哲学の発展をトピックに即して説明できる。 | ○ | | | | |
| | | | | (3)当該トピックの哲学的考察が現代において持つ意義を理解する。 | | ○ | | | |
| 現代哲学・思想Ⅰ・Ⅱ | 各2 | 3 | 哲学の一般的理解に基づき、現代哲学の主要トピックに関して行われている議論を理解する。 | (1)現代哲学における哲学問題の扱いを理解する。 | ○ | | | | |
| | | | | (2)代表的哲学者の主張をその論拠から理解した上でその論に対する自分のおおよその態度を考慮することができる。 | | ○ | | | |
| | | | | (3)哲学問題に関する既存の主要な回答パターンを見たと問題に関する考察を行うことができる。 | | ○ | ◎ | | |

| 科目区分 | 授業科目名 | 単位 | 配当年次 | 授業の主題 | 授業の到達目標 | ディプロマポリシーの番号 | | | |
|--|-----------|----|---|---|--|-------------------------------|-----------------|------------------|-----------------|
| | | | | | | I 知識・ 理解 | II 思考・ 判断 | III 態度・ 行動 | IV 汎用的 技能 |
| | | | | | | ◎ DP達成のためとくに重要 ○ DP達成のため重要 | | | |
| 文芸・思想コース専門科目 | 日本古典文学Ⅰ・Ⅱ | 各2 | 3 | 日本古典文学について理解する。 | (1)日本古典文学の作品について具体的に理解出来る。 | ◎ | | | |
| | | | | | (2)自らの考えを資料に基づき、説得力をもって文章化出来る。 | | ◎ | | |
| | | | | | (3)先行研究や他者の意見を批判的に吟味出来る。 | | | | ◎ |
| | 日本近代文学Ⅰ・Ⅱ | 各2 | 3 | 近現代文学における芸術性と大衆性について、広く実作品の紹介を通じて分析していく。 | (1)文学の捉え方に関して広い視野を持つことができる。 | ◎ | ◎ | | |
| | | | | | (2)歴史のなかで文学、文化が果たした役割を正當に評価することができる。 | ◎ | ◎ | | ○ |
| | | | | | (3)文学、文化が現代および未来の日本社会において果たす役割について自己見解を持つことができる | ◎ | ◎ | | ○ |
| | 国語学Ⅰ | 2 | 3 | 国語史を学ぶ上で知っておかなければならない知識や、国語史研究を行なうために知っておかねばならない重要な資料の基礎的知識について概説する。本講義では、上代から中古にかけての国語史およびその資料について述べる。 | (1)国語史のおおまかな時代区分を把握し、国語史研究の基礎的な考え方を理解する。 | ◎ | | | |
| | | | | | (2)上代から中古にかけての代表的な国語史資料および各資料の特徴について把握し、説明できる。 | ◎ | | | |
| | | | | | (3)各資料の表記から導き出される音韻体系と文法体系、およびその変遷について理解し、説明できる。 | ◎ | | | |
| | 国語学Ⅱ | 2 | 3 | 国語史を学ぶ上で知っておかなければならない知識や、国語史研究を行なうために知っておかねばならない重要な資料の基礎的知識について概説する。本講義では、中世から近世にかけての国語史およびその資料について述べる。 | (1)中世から近世にかけての代表的な国語史資料および各資料の特徴について把握し、説明できる。 | ◎ | | | |
| (2)各資料の表記から導き出される音韻体系と文法体系、およびその変遷について理解し、説明できる。 | | | | | ◎ | | | | |
| (3)資料の中に見出される「口語性」ということについて、その価値と問題点の両面を理解する。 | | | | | ◎ | | | | |
| 中国文学Ⅰ | 2 | 3 | テキストの精読、分析を行い、中国文学研究の十分な力を身につけるとともに、研究発表や論文の執筆の力を高める。 | (1)テキストを精読し、分析する力を身につける | ◎ | ○ | | | |
| | | | | (2)レジュメを用いた発表とそれについて議論するための考察力、表現力を高める | | ◎ | | ○ | |
| 中国文学Ⅱ | 2 | 3 | テキストの精読、分析を行い、中国文学研究の十分な力を身につけるとともに、研究発表や論文の執筆の力を高める。 | (1)テキストを精読し、分析する力を身につける | ◎ | ○ | | | |
| | | | | (2)レジュメを用いた発表とそれについて議論するための考察力、表現力を高める | | ◎ | | ○ | |
| 中国文化論Ⅰ・Ⅱ | 各2 | 3 | 種々の中国思想またはその周辺の文献を読み解くことを通じて、文献に内在する中国文化の特質を理解する。 | (1)中国文化に関わる文献の歴史的意義が理解できる。 | ◎ | | | | |
| | | | | (2)文献の内容を理解しそれを他者に説明できる。 | | | | ◎ | |
| | | | | (3)講義内容を踏まえて関連するテーマに沿って発表を行い、さらにレポートを作成できる。 | | | | ◎ | |
| 中国科学史Ⅰ・Ⅱ | 各2 | 3 | 薬物学であった中国本草学は、のち有用天然物学や博物学の様相を示し、近代以降は天然物学に分化していった。こうした本草学が中国文化と不可分の関係にあり、また連綿と日本に受容されてきたことに注目しながら、その発展・変遷の諸相を解説する。 | (1)中国伝統の科学技術と思想が中国文化と不可分の関係にあることを、中国本草学の歴史を通して理解できる。 | ◎ | ○ | | ○ | |
| | | | | (2)中国本草の発展史と日本における受容史の概略を説明できる。 | ○ | ◎ | ○ | ○ | |
| | | | | (3)文化と科学技術・文明の関連を理解し、中国と日本との関係を研究する意義を考察できる。 | ○ | ◎ | ◎ | ○ | |
| ドイツ文学Ⅰ | 2 | 3 | ドイツ文学の特定分野、テーマ、掘り下げて作品を文化や時代背景、伝記などさまざまな観点から講義を行う。 | (1)特定のテーマや分野、作家・作品についての意義が理解できる。 | ◎ | | | | |
| | | | | (2)内容をしっかり説明できる。 | ○ | | | | |
| | | | | (3)講義内容を踏まえて関連するテーマに沿ってレポートを作成できる。 | | ○ | | | |
| ドイツ文学Ⅱ | 2 | 3 | ドイツ文学の特定分野、テーマ、掘り下げて作品を文化や時代背景、伝記などさまざまな観点から講義を行う。 | (1)特定のテーマや分野、作家・作品についての意義が理解できる。 | ◎ | | | | |
| | | | | (2)内容をしっかり説明できる。 | ○ | | | | |
| | | | | (3)講義内容を踏まえて関連するテーマに沿ってレポートを作成できる。 | | ○ | | | |

| 科目区分 | 授業科目名 | 単位 | 配当年次 | 授業の主題 | 授業の到達目標 | ディプロマポリシーの番号 | | | |
|----------------------|---------------|-----|---|---|---|-------------------------------|-----------------|------------------|-----------------|
| | | | | | | I 知識・ 理解 | II 思考・ 判断 | III 態度・ 行動 | IV 汎用的 技能 |
| | | | | | | ◎ DP達成のためとくに重要 ○ DP達成のため重要 | | | |
| 文芸・思想 コース 専門科目 | ドイツ文化論 I | 2 | 3 | ドイツ語圏の文化、文芸に関する一連の講義をつつじて、ある特定の時代ないし地域におけるドイツ語圏の文化、文芸のエッセンスに触れる。 | (1)ドイツ語圏の文化、文芸のなかの特定の作品、著作について、その主題と内容を理解することができる。 | ○ | ○ | | |
| | | | | | (2)ドイツ語圏の文化、文芸のなかの特定の作品、著作について、時代や思潮の流れのなかに位置づけることができ、日本その他の文化、文芸と比較することができる。 | ○ | ○ | | |
| | ドイツ文化論 II | 2 | 3 | ドイツ語圏の文化、文芸に関する一連の講義をつつじて、ある特定の時代ないし地域におけるドイツ語圏の文化、文芸のエッセンスに触れる。 | (1)ドイツ語圏の文化、文芸のなかの特定の作品、著作について、その主題と内容を理解することができる。 | ○ | ○ | | |
| | | | | | (2)ドイツ語圏の文化、文芸のなかの特定の作品、著作について、時代や思潮の流れのなかに位置づけることができ、日本その他の文化、文芸と比較することができる。 | ○ | ○ | | |
| | フランス文学 I ~ II | 各2 | 3 | フランス文学の代表作を取り上げて、作品の特徴や時代背景などさまざまな観点から講義を行う。 | (1)特定のテーマや分野、作家・作品についての意義が理解できる。 | ◎ | | | |
| | | | | | (2)作品の内容をしっかりと説明できる。 | ○ | | | |
| | | | | | (3)講義内容を踏まえ、関連するテーマに沿ってレポートを作成できる。 | | ○ | | |
| | フランス文化論 | 2 | 3 | フランスの美術作品を取り上げ、多様な角度から、美術史的・文化的・社会的などを読み取る方法を学ぶ。 | (1)フランスの主要美術作品を知る。 | ◎ | | | |
| | | | | | (2)作品の歴史的・文化史の意味を知る。 | ○ | | | |
| | | | | | (3)美術作品を観察し、解説する力を身につける。 | | | | ○ |
| イギリス文学 I・II | 各2 | 3 | イギリス文学研究の最新の成果を学ぶ。併せて、英語で議論する力を養う。 | (1)最新の研究成果に触れる。 | ◎ | ○ | | | |
| | | | | (2)英語研究論文の読解力を身につける。 | ◎ | | | ○ | |
| | | | | (3)英語で自分の意見を発信することができる。 | | ○ | ○ | ◎ | |
| アメリカ文化論 I・II | 各2 | 3 | アメリカ大衆文化を多角的に分析する。 | (1)アメリカ大衆文化を鑑賞できる。 | ○ | ○ | ○ | | |
| | | | | (2)社会的文化的文脈を理解できる。 | ◎ | ○ | ○ | | |
| | | | | (3)様々なテキスト分析の方法を身につける。 | ○ | ○ | ◎ | ◎ | |
| 美術作品論 I ~ III | 各2 | 3 | 世界各地の美術作品を取り上げ、多様な角度から、美術史的・文化的・社会的などを読み取る方法を学ぶ。 | (1)世界各地の主要美術作品を知る。 | ◎ | | | | |
| | | | | (2)作品の歴史的・文化史の意味を知る。 | ◎ | | | | |
| | | | | (3)美術作品を観察し、解説する力を身につける。 | | | | ○ | |
| 美術史学方法論 I ~ III | 各2 | 3 | 世界各地の美術作品を取り上げ、美術史学に固有の方法論によって、作品の様式と主題内容を読解する方法を学ぶ。 | (1)美術作品の主題内容(図像学)を理解する。 | ○ | | | | |
| | | | | (2)美術作品の様式を理解する。 | ○ | | | | |
| | | | | (3)図像学と様式分析によって、美術作品の分析力をつける。 | | | | ○ | |
| 専門演習 I ~ IV | 各2 | 3~4 | 文芸、思想に関する著作・作品(図像、映像等を含む)を精読・分析し、報告と討論とを重ねながら、特定の専門分野における論点を見出し、考察を深める。 | (1)文芸、思想に関する著作・作品(図像、映像等を含む)を読み込み、必要な資料を収集し、十分に消化して、自分の見解をまとめることができる。 | ◎ | ◎ | ◎ | ○ | |
| | | | | (2)報告や討論を重ねることで自分の考えを見直し、あらたな展開につなげることができる。 | ◎ | ○ | ◎ | ◎ | |
| | | | | (3)文芸、思想に関する作品・著作のなかに、特定の専門分野における論点を見出し、考察を深めることができる。 | ◎ | ○ | ○ | ◎ | |

| 科目区分 | 授業科目名 | 単位 | 配当年次 | 授業の主題 | 授業の到達目標 | ディプロマポリシーの番号 | | | |
|----------------------------|---------|----|--|---|--|-------------------------------|-----------------|------------------|-----------------|
| | | | | | | I 知識・ 理解 | II 思考・ 判断 | III 態度・ 行動 | IV 汎用的 技能 |
| | | | | | | ◎ DP達成のためとくに重要 ○ DP達成のため重要 | | | |
| 言語コミュニケーション コース 専門科目 | 言語学概論 | 2 | 2 | 言語学の基本概念と各論・周辺科学の紹介を通して学問分野の体系性を概観させ、高校までの受身的「学習」を脱して主体的で自律的な「研究」へと導く。 | (1)「言語学」の最終目標が何かを会得する。 | ◎ | | | |
| | | | | | (2)言語学が経験科学であることを理解する。 | ◎ | | | |
| | | | | | (3)「言語とは何か?」を探るため、古来より重ねられてきた様々な努力を概観する。 | | | ◎ | |
| | | | | | (4)言語学の基本概念に触れ、周辺領域を概観して学問の体系性・普遍性を体感する。 | ◎ | ○ | | |
| | | | | | (5)言語学が「人間とは何か?」を明らかにしようとする営為の中で、どのように位置づけられているかを概観する。 | ◎ | | | |
| | 実践音声学 | 2 | 2 | 世界の言語が使う言語音の諸相に触れ、その音響学的特質や発音・発声の生理学的メカニズムを解明することを通して、母語以外の基本的言語音の習得のための実践的訓練の場を提供する。 | (1)言語音を記述するためのパラメータの実態を把握する。 | ◎ | ◎ | ◎ | |
| | | | | | (2)言語音の基本は母語以外でも発音できるようになる。 | ◎ | | ◎ | ◎ |
| | | | | | (3)国際音標文字を自由に操れるようになる。 | ◎ | | ◎ | ◎ |
| | 言語音の構造 | 2 | 2 | 言語の音韻構造について理解を深め自分で分析できる思考力を養う。 | (1)言語の音韻構造と音声構造の違いが理解できる。 | ◎ | ◎ | ○ | ○ |
| | | | | | (2)交替形から基底表示を抽出できる。 | ◎ | ◎ | ○ | ○ |
| | | | | | (3)音韻形と語構造、統語構造、意味構造、談話構造の相互関連が理解できる。 | ◎ | ◎ | ○ | ○ |
| | 語の形態と構造 | 2 | 2 | 英語や日本語の語がどのように成り立っているかをみていく。 | (1)ことばには構造があるということを英語や日本語などの例から認識できる。 | ◎ | | | |
| (2)高校までに習った文法とは違う見方ができる。 | | | | | | ◎ | | | |
| (3)言語間の共通点と相違点を認識できる。 | | | | | | ◎ | | ○ | |
| 文の構造 | 2 | 2 | 英語を中心に文構造の分析方法の基礎を導入する。人間の話す言語であれば持っている普遍的特徴を認識する。 | (1)文の基本的構造を理解する。 | ◎ | | | | |
| | | | | (2)学校文法とは違う文法を知ることにより、英文法に対し新たな見地が開ける。 | ○ | ◎ | | | |
| | | | | (3)文の分析を通じて科学的思考を養う。 | | ◎ | | ○ | |
| ことばの意味と認知 | 2 | 2 | ことばの仕組みがそれを扱う人間の認知の仕組みに土台を置いているということとを、認知言語学のさまざまな理論と実例分析を通じて学ぶ。 | (1)ことばの意味を成立させる人間の知覚と認知システムについての知見を得る。 | ◎ | | | | |
| | | | | (2)言葉の表面に見えるものの裏に複雑な認知の働きがあることを知る。 | ◎ | ◎ | | | |
| | | | | (3)言語も認知も独自の体系性を有していることを学ぶ。 | | ◎ | ◎ | ○ | |
| ことばとコミュニケーション | 2 | 2 | 日本語の会話における誤解釈データの観察をもとに、日本語の発話解釈はどのようなプロセスからなるのかを考察する。 | (1)誤解釈データを観察し、聞き手が発話を解釈するときに行っている認知作業を推察し、記述することができる。 | ◎ | | | | |
| | | | | (2)聞き手がやっている認知作業を何らか視点から分析できる。 | | ◎ | | | |
| | | | | (3)日本語の発話の解釈プロセスの一部をパワーポイントを使用しわかりやすく説明することができる。 | | | | ◎ | |
| 認知言語学入門 | 2 | 2 | 言語システムと認知システムの密接な関係が言葉の文法構造にどう反映されているかを事例分析を通じて学ぶ。 | (1)ことばの文法や意味と構造の元になっている人間の知覚や認知の仕組みについての諸理論についての知見を得る。 | ◎ | | | | |
| | | | | (2)言葉の表面に見えるもの(語彙や文法構造)の背景に複雑な認知の仕組みがあることを知る。 | ◎ | ◎ | ○ | | |
| | | | | (3)言語構造も認知構造も独自の体系性を有しており、相互に密接に関連していることを学ぶ。 | | ◎ | | ○ | |
| 歴史言語学入門 | 2 | 2 | 言語の歴史変化とその原因について複眼的な視点から考察できる思考力を養う。 | (1)言語が変化することであることを理解する。 | ◎ | ◎ | ○ | ○ | |
| | | | | (2)言語変化のさまざまな原因について理解する。 | ◎ | ◎ | ○ | ○ | |
| | | | | (3)言語変化と関連する社会的、文化的要因にまで目を向け、言語変化を総体的に捉える能力を養う。 | ◎ | ◎ | ○ | ○ | |

| 科目区分 | 授業科目名 | 単位 | 配当年次 | 授業の主題 | 授業の到達目標 | ディプロマポリシーの番号 | | | |
|--------------------|-------------|----|---|---|---|------------------------------|-----------------|------------------|-----------------|
| | | | | | | I 知識・ 理解 | II 思考・ 判断 | III 態度・ 行動 | IV 汎用的 技能 |
| | | | | | | ◎ DP達成のため特に重要 ○ DP達成のため重要 | | | |
| 言語コミュニケーションコース専門科目 | 対照言語学入門 | 2 | 2 | 複数の言語を比較して、その類似と相違をもとに、言語の多様性を普遍性を発見する。違いがある場合はどの原因も探る。 | (1)言語分析の手順がわかる | ○ | ◎ | | |
| | | | | | (2)言語データの比較ができる。 | ○ | ◎ | | |
| | | | | | (3)課題を設定し、解決できる。 | | ◎ | | ○ |
| | 言語分析演習 | 2 | 2 | 言語分析の基礎となる言語データの扱い方を、現実の言語データの分析の演習を行いながら、体得する。毎回一つか二つの最小対立について複数の視点から、掘り下げた考察を重ねてゆく。 | (1)混沌とした現実から、受講者が自分の力で、目的に合った言語データ収集と一般化を導き出せる。 | | ◎ | | ○ |
| | | | | | (2)複数の仮説を比較してメリット、デメリットを判断できる。 | | ◎ | | ○ |
| | | | | | (3)仮説の論証する手順がわかる。 | | ◎ | | ○ |
| | 言語学フィールドワーク | 2 | 2 | あまりよく知られていない言語の記述に取り組み、言語学の問題点を抉り出すだけの行動力を養うトレーニングの場を提供する。 | (1)当該言語の持つ音韻構造の概略を把握する。 | ◎ | ○ | ◎ | ◎ |
| | | | | | (2)正書法のあらましをマスターする。 | ◎ | ○ | ◎ | ◎ |
| | | | | | (3)インフォーマントとの合目的な接し方を体得する。 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ |
| | | | | | (3)データ収集法と文法構造に関する分析力を養成する。 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ |
| 言語研究の理論と実践 | 2 | 2 | 現代言語学が扱う言語の様々なアスペクトを紹介しつつ、現代言語学の中核を形成する構造主義の基本概念を駆使して実際の言語データの分析を行い、言語研究のための基盤構築を図る。 | (1)現代言語学の基盤を形成する「構造主義言語学」の基本諸概念を把握する。 | ◎ | | | | |
| | | | | (2)こうした諸概念を活用して現実の言語データの科学的分析方法を体得する。 | | ◎ | | | |
| | | | | (3)現代言語学の諸分野の概要に触れ、どのような理論が構築されてきたかを概観する。 | | | ◎ | | |
| 形態統語論 | 2 | 3 | 形態論と統語論の境界線について、主に日本語、英語、そしてオーストロネシア諸語を対象に、現象と分析方法を検討していく。 | (1)形態論と統語論の独立性と相関性がわかる。 | ◎ | | | | |
| | | | | (2)特定の現象が言語理論に提起する問題点を認識できる。 | ○ | ◎ | | | |
| | | | | (3)いくつかの分析を比較検討できる。 | | ◎ | | ○ | |
| | | | | (4)先行研究の利点と問題点がわかり、可能なら独自の見解を持てる。 | | ◎ | | | |
| 構文解析 | 2 | 3 | ヒトが文をどのように理解しているのかを、文理解に関する先行研究を基に、考察する。 | (1)文理解に関する学術論文を読み、著者の主張をまとめることができる。 | ◎ | | | | |
| | | | | (2)英語と日本語の曖昧文を観察し、その特徴をまとめることができる。 | | ◎ | | | |
| | | | | (3)これまでに提唱されている文理解の方路を日本語の曖昧文を使用して検証することができる。 | | ◎ | | | |
| | | | | (4)日本語の特定の構造的曖昧文の理解の仕方について、仮説を立て、その仮説を実証するための調査を行うことができる。 | | ◎ | | | |
| | | | | (5)日本語の特定の構造的曖昧文の理解の仕方に関する小論文を作成し、その要旨を分かりやすく口頭で説明することができる。 | | | | ◎ | |
| 発話解釈メカニズム | 2 | 3 | 発話解釈理論を正確に深く理解し、日本語のデータをもとに批判的に検証する。 | (1)関連性理論に基づく発話解釈理論を正確に理解する | ◎ | | | | |
| | | | | (2)日本語の発話データをもとに既存の理論で説明できない部分や矛盾点を指摘することができる。 | | ◎ | | | |
| | | | | (3)(2)に関して自らの解決方法を提案し、説得的に説明することができる。 | | | | ◎ | |
| 文法におけるインターフェイス | 2 | 3 | 言語現象が、統語構造、意味構造、音韻構造、談話構造の調和の上に成立していることを、開講年度ごとに焦点をあてるテーマを変えて、事例に基づき講義する。 | (1)生成文法のモジュール文法観を理解する。 | ◎ | ◎ | ○ | ○ | |
| | | | | (2)言語現象が、統語構造、意味構造、音韻構造など複数の構造の調和の上に成立していることを理解する。 | ◎ | ◎ | ○ | ○ | |
| | | | | (3)さまざまな言語現象について複眼的な視点から観察し、特定の現象について先行研究を渉猟し独自の見解を提示できる。 | ◎ | ◎ | ○ | ○ | |
| レトリックと認知 | 2 | 3 | 文法を逸脱し、硬いコードからはみ出すことで人は現実の新たな認識に伴った新たな言葉を見出す。レトリックはそこから生まれる。直喩、隠喩、換喩、提喩、さらに誇張法、矛盾語法、暗示、反語などなど、私たちの言語生活に満ちているレトリックと認知の仕組みについて学ぶ。 | (1)直喩、隠喩、換喩、提喩を筆とした多様な種類のレトリック表現について知ることが出来る。 | ◎ | ◎ | ○ | ○ | |
| | | | | (2)レトリックという色鮮やかな言語の姿に接し分析することで、言葉と認識の関連について学ぶことが出来る。 | ◎ | ◎ | ○ | ○ | |
| | | | | (3)さまざまなレトリック現象について認知との関連で観察し、特定の現象について先行研究を渉猟し独自の見解を提示できる。 | ◎ | ◎ | ○ | ◎ | |

| 科目区分 | 授業科目名 | 単位 | 配当年次 | 授業の主題 | 授業の到達目標 | ディプロマポリシーの番号 | | | |
|-----------------------|-------------|-----|---|---|--|-------------------------------|-----------------|------------------|-----------------|
| | | | | | | I 知識・ 理解 | II 思考・ 判断 | III 態度・ 行動 | IV 汎用的 技能 |
| | | | | | | ◎ DP達成のためとくに重要 ○ DP達成のため重要 | | | |
| 言語コミュニケーションコース専門科目 | 言語の種類と普遍性 | 2 | 3 | 世界の言語は、系統的には無関係に構造や機能のし方において極めてよく似た現象を示すが、そうした言語の「タイプ」の持つ「普遍性」の実態に迫る足掛かりを築く。 | (1)「言語のタイプ」という基本概念の概要を把握する。 | ○ | ◎ | | ○ |
| | | | | | (2)言語類型論的研究の概要に触れる。 | ◎ | ○ | | ○ |
| | | | | | (3)言語のタイプをベースとした“ユニバーサル”の概要を把握し、「言語のタイプ」が如何にして言語現象の普遍性をコントロールするかを解明するための基盤を構築する。 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ |
| | 言語の構造とその多様性 | 2 | 3 | メジャーな言語では見られない様々な言語現象に焦点を当てて言語の仕組みと働きが多様性を体感することを通し、研究対象と学術的認識を相対化できる観察眼と問題対処能力を養う。 | (1)世界の言語が示す構造の諸相に触れ、研究対象に対する視野を広げる。 | ◎ | ○ | ◎ | ○ |
| | | | | | (2)世界の言語が示す構造の諸相に対する理論化の可能性に触れる。 | ◎ | ○ | ○ | ○ |
| | | | | | (3)言語の諸相に触れることを通して言語の“記号性”を体感し、言語研究への興味を掻き立てる。 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ |
| | 言語学史 | 2 | 3 | 人間が言語をどのように捉えてきたかの軌跡について概観し、現実の言語研究が理論的にどのように位置付けられるかの理論的基盤を構築することで、自らの取り組みに指針を与える。 | (1)人間が言語をどのように捉えてきたかを概観できる。 | ◎ | | | |
| | | | | | (2)構造主義言語学の基本的概念とこれを支える言語観の中核を把握できる。 | ◎ | | | |
| | | | | | (3)構造主義言語学以降の言語理論の展開を概観できる。 | | ◎ | | |
| | | | | | (4)個別の代表的言語研究の理論的位置付けを把握できる。 | | ◎ | | |
| 言語学合同演習 | 2 | 3 | 様々な言語現象や言語理論を対象とする徹底した議論を通し、思考の論理性を基盤としたディベート力・情報発信能力等の行動力を養成する。 | (1)素朴な疑問から学術的に有意義なテーマ設定ができる。 | | ◎ | | | |
| | | | | (2)自ら選定したテーマに関連した先行研究について概観できる。 | ◎ | | | | |
| | | | | (3)テーマに即した実質的なデータ収集のためのノウハウを把握する。 | | | ◎ | | |
| 専門演習 I～IV(認知言語学) | 各2 | 3～4 | 英語の文献を読みながら、正確な認知言語学(特に認知意味論)に関する最新の成果について知見を得る。 | (1)卒業研究を行うために必要な文献読解能力を身につける。 | ○ | ◎ | | | |
| | | | | (2)自ら設定した課題について例を収集・分析し、考察することができる。 | ○ | | | | |
| | | | | (3)考察した結果を的確に表現・発表し、他者と議論しながら自らを高めることができる。 | | | ◎ | ◎ | |
| 専門演習 I～IV(言語の諸相) | 各2 | 3～4 | 様々な言語現象や言語理論を対象とする徹底した議論を通し、思考の論理性を基盤としたディベート力・情報発信能力等の行動力を養成する。 | (1)言語の諸相に触れ、言語現象や言語理論の持つ“おもしろさ”を学術的に体感する。 | ○ | | ◎ | ◎ | |
| | | | | (2)学術的ディベートを通じ、知的興味を共有することの“楽しさ”を体得する。 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | |
| | | | | (3)言語研究を通じて「人間とは何か?」を探るための基盤を構築する。 | ○ | | ◎ | ◎ | |
| | | | | (4)学術的ディベートの際の論理性を磨き、論文執筆に於ける説得力の向上を図る。 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | |
| 専門演習 I～IV(発話解釈のメカニズム) | 各2 | 3～4 | 学術論文を正確に読み理解し、発話解釈メカニズムに関する知識を深め、かつ言語データをもとに、これまでの研究を批判的に検証する能力を養う。 | (1)言語学及び心理言語学の学術論文を読み余点をまとめ、分かりやすく発表することができる。 | ○ | ◎ | | | |
| | | | | (2)これまでに行われた先行研究を批判的に検証することができる。 | | | ◎ | ◎ | |
| | | | | (3)探求可能な研究課題を見つけ、(4)その課題を解明するために必要な文献を読み、内容を検証し、分かりやすくまとめることができる。 | | | ◎ | ◎ | |
| 専門演習 I～IV(英文法論) | 各2 | 3～4 | 古英語から現代英語までの言語現象について英語で書かれた最新の学術論文を渉猟し、英語で独自の見解を含む論文を執筆できる。 | (1)卒業研究を行うために必要な英語学の方法、研究視点を身につける。 | ◎ | ◎ | ○ | ◎ | |
| | | | | (2)みずから設定した課題について、英語学研究の最新の流れと相対化でき、文献渉猟を基礎に、自分の視点から提案の提示ができる。 | ◎ | ◎ | ○ | ◎ | |
| | | | | (3)研究結果を英語で適格に表現・発表し、毎学期英語でレポートを執筆し、最終的に60枚～100枚の卒業論文を英語で執筆できる。 | ◎ | ◎ | ○ | ◎ | |
| 専門演習 I～IV(日英比較文法) | 各2 | 3～4 | 英語の文献を読みながら、日本語と英語の文法の共通点と相違点を探る。 | (1)卒業研究を行うために必要な文献読解能力を身につける。 | | ◎ | | | |
| | | | | (2)自ら設定した課題について例を収集・分析し、考察することができる。 | | | | ◎ | |
| | | | | (3)考察した結果を的確に表現・発表し、他者と議論しながら自らを高めることができる。 | | | ◎ | | |

| 科目区分 | 授業科目名 | 単位 | 配当年次 | 授業の主題 | 授業の到達目標 | ディプロマポリシーの番号 | | | |
|-----------------------------|------------------|----|--|---|---|-------------------------------|-----------------|------------------|-----------------|
| | | | | | | I 知識・ 理解 | II 思考・ 判断 | III 態度・ 行動 | IV 汎用的 技能 |
| | | | | | | ◎ DP達成のためとくに重要 ○ DP達成のため重要 | | | |
| 異文化コミュニケーション コース 専門科目 | 異文化コミュニケーション論概論 | 2 | 2 | 異文化コミュニケーションの入門講義であり、教員全員によるオムニバス形式の授業形態で、地球の各地域でのケーススタディを軸として、異なった社会経済システム・文化と言語理解の実際をより深く理解することを目的とする。 | (1)地球上の異なる人々や文化に対する知識を広げ、理解を深める。 | ◎ | ○ | | |
| | | | | | (2)異文化コミュニケーションの基礎的知識と技能を向上させる。 | ◎ | | | |
| | | | | | (3)異文化の視点から日本文化を理解する視点と方法を習得する。 | ◎ | | | |
| | 異文化コミュニケーション実践演習 | 2 | 2 | 外国人留学生をはじめとした文化的背景を異にする人々と積極的に交流していこうとする姿勢を身につけることをめざす。さらに国際交流・国際協力のボランティア活動や留学生のチューターなどを含む学内外の国際交流・国際協力活動に積極的に参加できるようにすることをめざす。 | (1)異文化に対する基本的な知識を実践的に身につける。 | ◎ | | | |
| | | | | | (2)異文化の人々と積極的に交流できる適応力を身につける。 | | | ○ | ◎ |
| | | | | | (3)国際交流や国際協力の学内外の多様な活動に対する基本的な知識を実践的に身につける。 | ○ | | | |
| | | | | | (4)国際交流や国際協力の活動に積極的に参加できる適応力を身につける。 | | | ○ | ◎ |
| | 異文化コミュニケーション文献講読 | 2 | 2 | 異文化コミュニケーションに関する基礎知識、さらに、量的研究および質的研究の特徴を理解した上で文献を批判的に読み込み、発信する力を身につけることを目的とする。多文化共生、アイデンティティ、ステレオタイプ、留学、言語・非言語コミュニケーションといった異文化コミュニケーションに関する様々な分野の文献を扱う。 | (1)異文化コミュニケーションに関する多様な文献に触れることにより、基礎的な知識を身につける。 | ◎ | | | |
| | | | | | (2)量的研究、質的研究の特徴を理解することができる。 | ◎ | ○ | | |
| | | | | | (3)批判的思考を働かせて、文献を読み込み、さらにそれらを発信することができる。 | | ◎ | | ○ |
| | | | | (4)研究論文の構成パターンおよび使用言語を習得することができる。 | ◎ | | | | |
| 英語圏の文化と社会 | 2 | 2 | Students study about the history and culture of various English speaking countries in English. Students are given the opportunity to develop their English language skills while learning about English speaking countries around the world. | (1) Students are introduced to the history and culture of various English speaking countries in English. | ○ | ◎ | | ◎ | |
| | | | | (2) Students discuss some of the social issues impacting English speaking societies. | ○ | ◎ | ○ | ◎ | |
| | | | | (3) Students conduct research and present information about English speaking countries in English. | ○ | | | ◎ | |
| 欧州の文化と社会 | 2 | 2 | 欧州、特に加盟国数が27、公用語数が23のEU(欧州連合)の言語的・文化的な多様性の本質を探る。 | (1)EUに関する英語の基本的文献を精読することにより、英語で書かれた文献の読解力を高めることができる。 | ◎ | | | ◎ | |
| | | | | (2)それによって、EUに関する文化的・社会的な基本的知識を得ることが出来る。 | ◎ | ○ | | | |
| | | | | (3)またそれに基づき、EUの言語的・文化的多様性の本質を探ることが出来る。 | | ◎ | ◎ | ○ | |
| 中国語圏の文化と社会 | 2 | 2 | 現代中国社会文化の諸現象、海外華人社会文化の諸現象を考察するとともに、中国社会及び中国人の著しい変化などを認識し、中国現代社会文化に触れ、その理解を深める。 | (1)現代中国社会と文化に触れ、現代中国の激変状況を把握する。 | ◎ | ○ | | | |
| | | | | (2)世界各国にいる華人の文化と所在国の文化との融合を理解する。 | | | | ○ | |
| 東アジアの文化と社会 | 2 | 2 | 韓国・朝鮮の文化と社会に関する事例分析を通じて東アジアを見通せる視点を学ぶ。 | (1)韓国・朝鮮の文化と社会について自己の認識を整理する。 | ○ | ◎ | | | |
| | | | | (2)韓国・朝鮮の文化と社会における歴史的背景への理解を深める。 | | ○ | | | |
| | | | | (3)韓国・朝鮮の事例分析を通じて広く東アジアを見通せる視点を身につける。 | | ○ | | ◎ | |
| 多文化の中の日本語 | 2 | 2 | 多文化が進む地域社会における外国人と日本人とのコミュニケーションの諸問題を異文化コミュニケーションの視点から考える。 | (1)日本社会の多文化化によって増加しつつある異文化接触とそれによって生じる諸問題について理解を深める。 | ◎ | | | | |
| | | | | (2)地域社会における外国人の生活および考えに関心を持ち、インタビュー調査を通してそれらを理解し、多文化共生の糸口を発見することができる。 | | | ○ | ◎ | |
| | | | | (3)日本語による異文化コミュニケーション能力を高める。 | ○ | | ◎ | | |
| 豊かなアジア・貧しいアジア | 2 | 2 | アジアの貧困の構造的に解明するリベラル・アーツ型の講義 | (1)貧困問題の実際を実例を通して理解する | ○ | | | | |
| | | | | (2)アジア諸地域の貧困問題に対する正確な知識を得る | ○ | | | | |
| | | | | (3)貧困とは何かを批判的に検証する | | | | ◎ | |
| 日本・アジア比較文化論 | 2 | 2 | 漢字圏地域のことばと日常生活文化を比較対照し、類似性や差異について分析・考察する。 | (1)日本を含む漢字圏地域のことばや日常生活文化について、具体的な事例で観察・比較できる。 | ◎ | ○ | | | |
| | | | | (2)漢字圏のことばや生活文化の違いと共通点について理解できる。 | ◎ | | | | |
| | | | | (3)漢字圏のことばや生活文化の違いや共通点が生じた要因を分析・考察できる。 | ◎ | ○ | | | |

| 科目区分 | 授業科目名 | 単位 | 配当年次 | 授業の主題 | 授業の到達目標 | ディプロマポリシーの番号 | | | |
|-----------------------------|---|----|------|---|---|-------------------------------|-----------------|------------------|-----------------|
| | | | | | | I 知識・ 理解 | II 思考・ 判断 | III 態度・ 行動 | IV 汎用的 技能 |
| | | | | | | ◎ DP達成のためとくに重要 ○ DP達成のため重要 | | | |
| 異文化コミュニケーション コース 専門科目 | 言語紛争論 | 2 | 2 | 言語と国家の関係を概観し、公用語を巡る問題と共に、地域少数言語や移民少数言語にもスポットを当て、言語紛争の本質に迫る。 | (1)言語と国家に関する英語の基本的文献を精読することにより、英語で書かれた文献の読解力を高めることができる。 (2)それを通じて、言語紛争に至る個々の背景を理解する能力を身につける。 (3)それにより、言語と国家の関係のみならず、少数言語の問題にも目を向けることによって、多角的な観点から問題を考察する能力を身につけることができる。 | ◎ | | | ◎ |
| | 社会の変遷とコミュニケーション | 2 | 2 | 今の中国では、社会の変遷に伴い、様々な社会的問題を抱えている。それらの問題を認識し、中日間コミュニケーションが正しく取れることを目指す。 | (1)中国社会に現存する問題を正しく認識できる。 (2)問題の要因、その解決のために取った措置等の分析により、現代中国のイメージをとらえることができる。 (3)中国社会、文化の激変を理解した上で、現代中国人とのコミュニケーションの取り方を知る。 | ◎ | | | ◎ |
| | 地域社会と異文化コミュニケーション | 2 | 2 | 行政および関連機関(役所、国際交流協会等)、市民団体(NGO、NPO等)、学校、商業施設、個人(地域住民)が、どのように多文化共生と関わり、どのような諸問題を抱えているのかを理解することにより、地域社会における多文化共生のために必要なこと、さらに、それらの実現のために自分たちができることは何なのかを探究する。 | (1)地域社会における多文化共生の背景、現状および自分たちとのつながりを理解することができる。 (2)行政機関、市民団体、学校、商業施設、地域住民を多文化共生社会の観点から調査することにより、そこで生じている諸問題を明らかにすることができる。 (3)調査により明らかになった諸問題の解決に向けて、具体的かつ実行可能な企画・立案を行うことができる。 | ◎ | ○ | ◎ | ◎ |
| | 国際語としての日本語入門 | 2 | 2 | 世界中の日本語・学習言語としての日本語の基礎知識を身につけるとともに簡単な言語分析の方法を習得する。 | (1)世界の中の日本語の位置づけを理解できる。 (2)学習言語(第二言語)として日本語を観察し、その概要を理解できる。 (3)日本語の音声・文法・意味について簡単な分析ができる。 | ◎ | | | ◎ |
| | English for Intercultural Communication | 2 | 2 | Students will improve their academic writing, discussion and presentations skills through an exploration of contemporary Canadian cultures. | (1) Students can learn about the different types of essays, how to format an academic essay and do academic writing. (2) Students can research Canadian cultural topics of interest to them and can write academic essays on those topics. (3) Students can give PowerPoint presentations on their academic essay topics. | | ○ | | ◎ |
| | 韓国・朝鮮における日本文化論 | 2 | 3 | 韓国・朝鮮との交流をしてゆく上で必要な交流相手の日本認識について理解を深める。 | (1)韓国・朝鮮における日本認識の現象を理解する。 (2)韓国・朝鮮における日本認識の形成過程を歴史的に理解する。 (3)交流して行く上で、日本が交流相手にどのように理解されているかを知っておくことの重要性を学ぶ。 | ○ | ◎ | | ◎ |
| | 国際協力論 | 2 | 2 | 途上国が抱える開発問題について多面的に分析し、開発に向けた課題や取り組みを考える。また、途上国の経済社会開発支援に向けた国際協力の現状を概観し、効果的な協力のあり方について議論する。 | (1)途上国の開発問題の現状とその要因について理解を深める。 (2)国際協力の仕組みと実際の取り組み、国際協力をめぐる最近の動きについて知識を得る。 (3)国際社会の問題について関心を持ち、途上国の開発や国際協力のあり方について能動的に考え、意見を言うようになる。 | ◎ | | | ○ |
| | 開発とガバナンス | 2 | 2 | ガバナンスの概念や議論の背景について概観のうえ、途上国のガバナンスの諸問題、ガバナンスと開発成果の関係、ガバナンス支援における留意点などについて考える。また、紛争終結国をはじめ、ガバナンスに大きな課題を抱えた脆弱国家における開発や国際協力のあり方について、議論する。 | (1)ガバナンスの概念と開発におけるガバナンスの重要性について理解する。 (2)途上国におけるガバナンスの諸問題について認識を深める。 (3)国際社会の問題について関心を持ち、途上国の開発や国際協力のあり方について能動的に考え、意見を言うようになる。 | ◎ | | ◎ | ○ |
| | 国際開発援助論 | 2 | 2 | 開発援助の理論的枠組みと現状、およびその問題点を批判的に検証する。 | (1)開発援助の理論と実際を正確に理解し、知識として身につける。 (2)援助は本当に必要かを批判的に考えられるようにする。 (3)低開発国の現状をその構造的背景から理論的に理解できる。 | ◎ | | ○ | |
| | Cross-cultural Communication | 2 | 2 | Students study various cultural differences and similarities in gaining a better understanding of various cultures around the world. | (1) Students are introduced to various cultural concepts such as nonverbal communication and folkways. (2) Students become aware of social issues in various countries related to cultural concepts in English. (3) Students express their opinions and share ideas related to the topic in English. | ○ | | | ◎ |

| 科目区分 | 授業科目名 | 単位 | 配当年次 | 授業の主題 | 授業の到達目標 | ディプロマポリシーの番号 | | | |
|---------------------|---------------|----|------|---|--|-------------------------------|-----------------|------------------|-----------------|
| | | | | | | I 知識・ 理解 | II 思考・ 判断 | III 態度・ 行動 | IV 汎用的 技能 |
| | | | | | | ◎ DP達成のためとくに重要 ○ DP達成のため重要 | | | |
| 異文化コミュニケーションコース専門科目 | 異文化コミュニケーション論 | 2 | 2 | 異文化コミュニケーションに関する基本的理論を学び、身近な文化に関する諸問題を様々な視点から考察・解釈できるようにすることを目的とする。さらに、異文化接触時の自らの感情や行動を冷静に捉え、自他を尊重しつつ、協調的に問題解決できるようになることを目指す。 | (1)異文化コミュニケーションに関する基本的理論を自らの具体的経験および現実社会の諸問題と結びつけて理解することができる。 (2)身近な文化に関する諸問題を多方面から解釈できる。 (3)他者の立場を尊重しつつ、自らの考えを伝えることができる。 | ◎ | ○ | | |
| | 国際交流論 | 2 | 2 | 国際交流に関する基本的な理論を学び、身につけるとともに、国際交流に関する諸問題解決に必要な取り組みを理解できるようにすることを目的とする。そして日常的に見聞する国際交流に関する諸事例に関心をもち、自ら問題解決の方向性を出せるようになることを目指す。 | (1)国際交流に関する基本的な理論を身につける。 (2)日常的に見聞する国際交流に関する事例を総合的に理解できる。 (3)身近な国際交流事例の分析結果を的確に説明できる。 | ◎ | ◎ | | ○ |
| | 現代アジア文化論 | 2 | 3 | アジア文化、特に現代中国文化を中心に、現代中国を理解し、中国人とのコミュニケーションのとり方を身に付けることを目的とする。 | (1)中国文化の発生、発展、変遷の歴史を認識し、その軌跡を理解する。 (2)中国文化の輸出とアジア諸国文化との関係を理解する。 (3)中華思想を中心とした中国文化の性格について認識を深める。 (4)中国文化の包容性ならびに世界文化との関係を認識する。 | ◎ | ◎ | | ○ |
| | 地域の言語と移民の言語 | 2 | 3 | EUを例にして、地域少数言語と移民少数言語の実体を解明し、EU諸国およびEU全体としての取り扱いを、少数言語に関する憲章や言語権に関する問題にも言及しつつ社会言語学的観点から分析する。 | (1)ヨーロッパにおける少数言語に関する英語の文献を精読することにより、英語で書かれた文献を自らの力で読解することが出来る。 (2)ヨーロッパにおける地域少数言語と地域少数言語の問題の背景を解明することにより、問題の本質に探ることが出来る。 (3)ヨーロッパ以外の少数言語に関する問題を分析する能力を身につけることが出来る。 | ◎ | ◎ | | ◎ |
| | 国際語としての日本語 | 2 | 3 | 種々の日本語表現の観察や表現の実践をとおして、国際化時代に求められる「やさしい日本語」の実践能力を育成する。 | (1)第二言語としての日本語学習・教育の状況を理解できる。 (2)種々の日本語表現を、第三者の視点から客観的・分析的に観察・考察することができる。 (3)主にグループワークによって国際化時代に求められる「やさしい日本語」実践能力を身につける。 | ◎ | ◎ | | ◎ |
| | 誤用から見たことばと文化 | 2 | 3 | 日本語学習者の誤用を例に、外国語習得における誤用について、分類・分析するとともに、誤用の要因を考察する。 | (1)外国語(主に漢字圏の言語)との比較を通じて、日本語の体系や特徴を再発見・再認識する。 (2)文化的あるいは社会的な背景を考慮に入れて誤用をとらえることができる。 (3)第二言語(外国語)習得の過程で現れる誤用の実態を体系的にとらえ、分析することができる。 | ○ | ◎ | | ○ |
| | 日本語コミュニケーション論 | 2 | 3 | 日本文化・日本人とは何かについて考えていくことを目的とする。これまで定説とされてきた日本文化論・日本人論およびそれらに対する批判を踏まえた上で、自分にとって日本文化・日本人とはどのようなものであるか、どうしてそのように捉えるようになったのかについて考えていく。また、どのような人に、どのような日本文化・日本事情を、どのように伝えていけばよいのかについて検討していく。 | (1)定説とされている日本文化論・日本人論およびそれらに対する批判を理解することができる。 (2)日本文化・日本人を自分はどう捉えようとしているのかを、自分なりの根拠を提示し説明することができる。 (3)どのような人に、どのような日本文化・日本事情を、どのように伝えていけばよいのかを考え、具体的かつ実行可能な企画・立案を行うことができる。 | ◎ | ○ | | ○ |
| | アジアにおける文化認識 | 2 | 3 | 韓国・朝鮮にとどまらず東アジア全体の文化交流現象に対する理解を深める。 | (1)アジアにおける文化交流現象を理解する。 (2)アジアにおける文化交流現象の歴史的背景を理解する。 (3)実証的・批判的態度を身につける。 | ○ | ◎ | | ◎ |
| | 国際機構論 | 2 | 3 | 国際機構の概要を俯瞰し批判的に検証する。 | (1)国際機構の全体図を把握し、成り立ちや目的に関して知識を深める。 (2)それぞれの国際機関の活動を把握して知識を深める。 (3)納税者として、国際機関の諸活動を批判的に検証する方法論を身につける。 | ◎ | | | ○ |

| 科目区分 | 授業科目名 | 単位 | 配当年次 | 授業の主題 | 授業の到達目標 | ディプロマポリシーの番号 | | | |
|--|--|----|--|---|---|-------------------------------|-----------------|------------------|-----------------|
| | | | | | | I 知識・ 理解 | II 思考・ 判断 | III 態度・ 行動 | IV 汎用的 技能 |
| | | | | | | ◎ DP達成のためとくに重要 ○ DP達成のため重要 | | | |
| 異文化コミュニケーション専攻 | 国際協力と市民参加 | 2 | 3 | 政府機関の活動の補完や国際協力への市民参加の観点から重視されているNGOについて、その役割、多様な分野の活動、活動の特徴、抱える課題などについて考える。また、近年、国際協力分野の新たな動きとして注目されつつある企業の社会貢献やソーシャル・ビジネスについて議論する。 | (1)市民の国際協力参加の様々な形について知る。 | ◎ | | | |
| | | | | | (2)NGOの各種活動、活動の特徴、課題等について理解を深める。 | ◎ | | | |
| | | | | | (3)途上国開発における民間企業の役割や貢献について理解を深める。 | ◎ | | | |
| | | | | | (4)市民による社会活動や社会貢献に関心を持ち、そのあり方や自らの関わり方について能動的に考え、意見を言えるようになる。 | | ◎ | ○ | ○ |
| | International Development and Japan's Cooperation (IDJC) | 2 | 3 | This course aims to help students deepen their understanding on issues and challenges in international development and Japan's cooperation by critically assessing major controversies and debates about development models and aid approaches, effectiveness of aid, a new aid architecture and so on. | (1)To obtain a critical grasp of diverse development models and factors influencing development results, | ◎ | | | |
| | | | | | (2)To have a good understanding of achievements and existing challenges of development aid, especially that of Japan | ◎ | | | |
| | | | | | (3)To improve their ability to critically analyze issues in international development/cooperation and demonstrate their ideas | | ◎ | ○ | ○ |
| | Media English | 2 | 3 | Students use various types of media to improve their English skills (especially through the news). | (1) Students watch news programs to improve their English skills. | ○ | | ○ | ◎ |
| | | | | | (2) Students discuss social problems related to news programs and share their ideas in English. | ○ | ◎ | ○ | ○ |
| | | | | | (3) Students conduct media research collaboratively and report their findings. | | ◎ | ○ | ◎ |
| 日中交渉論 | 2 | 3 | 日中間における様々な問題、トラブル等の現象を分析し、より客観的、正確に両国関係を理解し、21世紀に相応しい日中関係の構築を考える。 | (1)現代日本人の中国感、中国人の日本観を理解する。 | ◎ | | | | |
| | | | | (2)靖国神社参拝問題、教科書問題、在日中国人の犯罪問題、歴史認識問題、戦後処理問題などの日中間に現存する諸問題を認識する。 | | ◎ | | | |
| 多言語社会と言語政策 | 2 | 3 | EUの多言語政策を概観した後、多言語国家として代表的な国を幾つか取り上げ、そのような多言語状態に至った背景を探ると共に、それらの国における言語政策の実態に触れる。 | (1)EUにおける多言語政策に関する英語の文献を精読することにより、英語で書かれた文献を自らの力で読解することが出来る。 | ◎ | | | ◎ | |
| | | | | (2)多言語国家としての代表的国家を取り上げて、自ら必要な文献を検索することにより、そのような多言語状態に至る背景を考察する能力を身につける事が出来る。 | ◎ | ○ | | | |
| | | | | (3)これらの考察を通じて、多言語国家における多様な言語政策の実態を自ら分析することが出来る。 | | ◎ | ◎ | ○ | |
| 東南アジアのイスラーム | 2 | 3 | イスラームの伝播の過程と背景を検証し、現代東南アジアイスラームを理解する | (1) 東南アジアに伝播したイスラームの成立と発展を正確に理解する。 | ○ | | | | |
| | | | | (2)何故、イスラームが好戦的とみなされているのか歴史的構造を理解する。 | | ○ | | | |
| | | | | (3) 東南アジア諸国のイスラームの現状の正確な知識を得る。 | | | ○ | | |
| Cultural Learning through Video | 2 | 3 | Students will focus on video and print media advertising techniques and analyze various video commercials in English speaking countries, specifically from Canada and America. | (1) Students can develop a better understanding of western English speaking cultures using video commercials. | ◎ | | | | |
| | | | | (2) Students can explore Canadian and American video commercials and can better understand western English speaking cultures. | ◎ | | | | |
| | | | | (3) Students can research and analyze video content, and can think critically about those videos. | | ◎ | | | |
| | | | | (4) Students can present PowerPoint presentations and can express their opinions and ideas on those topics. | | | ○ | ○ | |
| Canadian Studies | 2 | 3 | Students will gain a better understanding of Canadian history, politics, education, arts, family and its multi-cultural society. | (1) Students can develop a better understanding of Canadian culture and identity. | ◎ | | | | |
| | | | | (2) Students can explore Canadian culture such as family, education, politics and can better understand Canadian society. | ◎ | | | | |
| | | | | (3) Students can research topics of interest to them and can present information and think critically on those topics. | | ◎ | | | |
| | | | | (4) Students can present information while expressing their opinions and ideas on those topics. | | | ○ | ○ | |
| American Ways: Exploring American Life | 2 | 3 | Students will study the unique beliefs, attitudes and customs of Americans and gain a better understanding of their history, politics, education, family and social practices. | (1) Students can understand better who Americans are and why they think and behave the way they do. | ◎ | | | | |
| | | | | (2) Students can explore American culture such as family, education, politics and can better understand American society. | ◎ | | | | |
| | | | | (3) Students can research topics of interest to them, assemble information and present it while expressing their opinions and ideas on those topics. | | ◎ | ○ | ○ | |

| 科目区分 | 授業科目名 | 単位 | 配当年次 | 授業の主題 | 授業の到達目標 | ディプロマポリシーの番号 | | | |
|--------------------------------|--------------------------------|----|---|---|--|-------------------------------|-----------------|------------------|-----------------|
| | | | | | | I 知識・ 理解 | II 思考・ 判断 | III 態度・ 行動 | IV 汎用的 技能 |
| | | | | | | ◎ DP達成のためとくに重要 ○ DP達成のため重要 | | | |
| 異文化コミュニケーションコース 専門科目 | ESIC I～IV | 各2 | 3 | Students study the geography, history, culture, customs, and famous places of various countries around the world. Cultural concepts related to identity such as culture shock, gender, and values are discussed. Students are given the opportunity to develop their English language skills by discussing class topics through pair and group work as well as by giving presentations. | (1) Students study about the history and famous places of countries around the world in English | ○ | | | ◎ |
| | | | | | (2) Students gain an appreciation of different cultures as well as thinking about cultural identity and social issues. | ○ | ◎ | ○ | ○ |
| | | | | | (3) Students share ideas and give opinions related to the topic in English. | | | ○ | ◎ |
| | | | | | (4) Students give presentations in English. | | | | ◎ |
| | 専門演習Ⅰ・Ⅱ | 各2 | 3 | 異文化コミュニケーションコース内における種々の専門分野をテーマとして、演習形式で卒業研究を行なうために必要な基礎的能力である知識、論理的思考力、各種研究方法等を文献の輪読、プレゼンテーション、ディスカッション等を通して身につける。あわせて、先行研究をもとに各自が関心を持っていることについてテーマを設定して、主体的に研究に取り組むことができる基礎的な能力を育成する。 | (1)専門分野における基礎知識や方法論がわかる | ◎ | ○ | | |
| | | | | | (2)専門分野における先行研究を批判的に読むことができる | | ◎ | | |
| | | | | | (3)発表や討論等をおして参加者相互に高め合うことができる | | | ◎ | ◎ |
| | 専門演習Ⅲ・Ⅳ | 各2 | 4 | 異文化コミュニケーション・異文化理解、国際協力・国際交流、外国語教育等に関する各自のテーマについて適切な方法で研究を行いながら、参加者相互に高め合う。関連する先行研究の精読、問題点の指摘、国内外の文献や独自調査等による資料収集、各種資料の分析と考察を行うとともに、それらについてのレジュメの作成、プレゼンテーション、ディスカッション等を行うことにより、卒業研究に取り組むことができる能力を養う。 | (1)専門分野における先行研究を批判的に読み、自身の研究に応用することができる | ◎ | ○ | | |
| | | | | | (2)各自の研究テーマについて適切な方法で研究できる | ○ | ◎ | | |
| | | | | | (3)発表や討論等をおして参加者相互に高め合うことができる | | | ◎ | ◎ |
| | 専門演習Ⅰ・Ⅱ (Language Learning) | 各2 | 3 | 異文化コミュニケーションコース内における種々の専門分野をテーマとして、演習形式で卒業研究を行なうために必要な基礎的能力である知識、論理的思考力、各種研究方法等を文献の輪読、プレゼンテーション、ディスカッション等を通して身につける。あわせて、先行研究をもとに各自が関心を持っていることについてテーマを設定して、主体的に研究に取り組むことができる基礎的な能力を育成する。 | (1)専門分野における基礎知識や方法論がわかる | ◎ | ○ | | |
| | | | | | (2)専門分野における先行研究を批判的に読むことができる | | ◎ | | |
| (3)発表や討論等をおして参加者相互に高め合うことができる | | | | | | | ◎ | ◎ | |
| (4)専門分野の研究に必要な英語能力を身につける | | | | | | | | ◎ | |
| 専門演習Ⅲ・Ⅳ (Language Learning) | 各2 | 4 | 異文化コミュニケーション・異文化理解、国際協力・国際交流、外国語教育等に関する各自のテーマについて適切な方法で研究を行いながら、参加者相互に高め合う。関連する先行研究の精読、問題点の指摘、国内外の文献や独自調査等による資料収集、各種資料の分析と考察を行うとともに、それらについてのレジュメの作成、プレゼンテーション、ディスカッション等を行うことにより、卒業研究に取り組むことができる能力を養う。 | (1)専門分野における先行研究を批判的に読み、自身の研究に応用することができる | ◎ | ○ | | | |
| | | | | (2)各自の研究テーマについて適切な方法で研究できる | ○ | ◎ | | | |
| | | | | (3)発表や討論等をおして参加者相互に高め合うことができる | | | ◎ | ◎ | |
| | | | | (4)専門分野の研究に必要な高度な英語能力を身につける | | | | ◎ | |
| メディア文化コース 専門科目 | 文化研究入門 | 2 | 2 | 文化研究の基礎理論と調査方法を学ぶ。 | (1)文化という漠然とした概念を論理的・客観的に理解できる。 | ◎ | ○ | | |
| | | | | | (2)身近な文化経験を分析的にとらえる態度を身につける。 | ○ | ◎ | | |
| | | | | | (3)アンケート調査や資料の量的・質的調査の基本を身につける。 | ○ | ○ | | |
| | ジャーナリズム論 | 2 | 2 | 社会の中でジャーナリズムの果たすべき役割などを探求する | (1)メディアの役割について基礎的な知識を得る | ◎ | | | |
| | | | | | (2)ジャーナリズムの現状と役割を理解する | ◎ | ○ | | |
| | | | | | (3)ジャーナリズムの社会に対する影響を理解する | | | | ◎ |
| | 電子プレゼンテーション論 | 2 | 2 | 説得力のある電子プレゼンテーションをおこなうための理論と実践 | (1)口頭発表の注意点を理解し実施できる | | | | ◎ |
| | | | | | (2)情報の図的表現・論理的表現の手法を理解し実施できる | | | | ◎ |
| | | | | | (3)スライドのシーケンス設計ができる | | | | ◎ |
| | | | | | (4)説得の多声性を理解し、アイデア生成に活かすことができる | | | ○ | ○ |

| 科目区分 | 授業科目名 | 単位 | 配当年次 | 授業の主題 | 授業の到達目標 | ディプロマポリシーの番号 | | | |
|--|-------------|----|--|---|--|-------------------------------|-----------------|------------------|-----------------|
| | | | | | | I 知識・ 理解 | II 思考・ 判断 | III 態度・ 行動 | IV 汎用的 技能 |
| | | | | | | ◎ DP達成のためとくに重要 ○ DP達成のため重要 | | | |
| メディア文化コース専門科目 | 情報活用論 | 2 | 2 | 社会に流通する様々な種類の情報(文字、数値、画像、映像等)を専門分野や日常生活で活用するための知識・方法を身につけることを目的とする。特に、情報処理技術を利用した情報収集・処理(集計、整理、知識発見)、データベース活用等の演習を交えながら、実践的に理解を深める。 | (1)情報活用に関する基本知識・方法が理解できる | ◎ | | | |
| | | | | | (2)コンピュータを利用した情報収集・処理ができる | | | ○ | |
| | | | | | (3)データベースを活用できる | | | | ◎ |
| | メディア文化論演習 | 2 | 2 | メディア文化の諸分野を学ぶ上で必要な基本知識・方法を、文献講読演習を通じて理解する。 | (1)メディア文化の諸分野の基本知識・方法を理解できる | ◎ | | | |
| | | | | | (2)文献を批判的に読解し、自分の意見を交えながら説明できる | | ◎ | | ○ |
| | メディア史 I | 2 | 2 | マスメディアとメディア文化の日本史を学ぶ。 | (1)日本メディア史の基本的な知識を身につけ、かつそれを体系的に理解できる。 | ◎ | ○ | | |
| | | | | | (2)歴史比較を通じて現代のメディア文化を客観的に理解できる。 | ○ | ◎ | | |
| | | | | | (3)歴史資料(とくに画像・映像資料)を読み解く基本的な作法を身につける。 | ○ | ○ | | |
| | メディア・リテラシー論 | 2 | 2 | メディアを読み解く力と共に、インターネットにおいて自分が発信するメッセージの影響を想定する(メディア・リテラシー)の意義と重要性を理解し、実践できる。 | (1)メディア・リテラシーの重要性を理解できる。 | ◎ | ○ | ○ | |
| | | | | | (2)メディアが構成されていることを理解し、分析できる。 | | | ◎ | ◎ |
| (3)多様なメディアに対してその分析を応用できる。 | | | | | ◎ | ○ | ○ | ◎ | |
| (4)インターネット上で自分が発信するメッセージの影響を想定し、実践できる。 | | | | | | | ◎ | ◎ | |
| 情報メディア論 | 2 | 2 | 情報メディアの工学的基礎と社会に与える影響 | (1)情報理論、コンピュータ原理の基礎知識を習得する | ◎ | | | | |
| | | | | (2)情報メディアの現状を理解する | ◎ | | | | |
| | | | | (3)情報メディアが社会に与える影響について理解する | | ○ | | | |
| ネットワーク論 | 2 | 2 | メディアの観点からネットを考察することを中心テーマに、インターネットの歴史的背景・用語・仕組み・社会への影響力、情報デザイン・発信について講義と演習により学ぶ。特にユニバーサルな情報共有、コミュニケーション、知のネット化、メディアとネット等の観点から、高度情報化社会の諸問題を議論したい。また、Web制作演習を通じて、Webサイトの企画・設計・編集・分析の手法を学ぶ。 | (1)インターネットの基本用語や仕組みが説明できる | ◎ | | | | |
| | | | | (2)メディアの観点からネットが社会に与える影響力について説明できる | | ◎ | | | |
| | | | | (3)Webサイトの企画・設計・編集・分析の過程を説明できる | ○ | | | ○ | |
| | | | | (4)簡単なWebコンテンツを制作できる | | | ○ | ◎ | |
| ポピュラー文化論 I | 2 | 2 | マンガ・アニメ・映画等、視覚文化に関する研究の基礎を学ぶ。 | (1)ポピュラー文化論の基礎的な概念と方法を理解できる | ◎ | | | | |
| | | | | (2)身近な文化経験を分析的に捉える態度を身につける | | ◎ | | | |
| | | | | (3)メディア資料の量的・質的分析の基本を身につける | ○ | ○ | | | |
| 広告コミュニケーション論 | 2 | 2 | 広告の基礎理論および作品分析を学ぶ。 | (1)広告コミュニケーションの基本的構図を論理的に理解できる。 | ◎ | ○ | | | |
| | | | | (2)マスメディアのテキストを分析的に見る態度を身につける。 | ○ | ◎ | | | |
| | | | | (3)映像・画像資料を読み解く基本的な作法を身につける。 | ○ | ○ | | | |
| 若者文化史 | 2 | 2 | 戦後日本の若者文化の歴史を概観する | (1)戦後日本の若者文化および若者文化研究の歴史を理解する | ◎ | | | | |
| | | | | (2)過去の若者文化を知ることにより、現代の若者文化を相対化する視点を身につける | | ◎ | | | |
| メディアとことば I | 2 | 2 | メディア多の媒体の一つである言語に焦点をあて、メディアにおける言語の実態とその効果について、事例にもとづき講義する。 | (1)メディアにおける言語の役割について理解する。 | ◎ | ◎ | ◎ | ○ | |
| | | | | (2)メディアにおける言語の使用実態について理解する。 | ◎ | ◎ | ◎ | ○ | |
| | | | | (3)メディアにおける言語の効力について事例に即し複眼的な視点から分析的に観察し、特定の事象について自分なりの視点からレポートが執筆できる。 | ◎ | ◎ | ◎ | ○ | |

| 科目区分 | 授業科目名 | 単位 | 配当年次 | 授業の主題 | 授業の到達目標 | ディプロマポリシーの番号 | | | |
|-----------------------|---------|----|--|--|--|-------------------------------|-----------------|------------------|-----------------|
| | | | | | | I 知識・ 理解 | II 思考・ 判断 | III 態度・ 行動 | IV 汎用的 技能 |
| | | | | | | ◎ DP達成のためとくに重要 ○ DP達成のため重要 | | | |
| メディア文化 コース 専門科目 | 映像制作論 | 2 | 3 | 映像作品制作の実践(「企画」「撮影」「構成」「編集」)を通じ、自分のメッセージを伝えることを学ぶ。 | (1)映像作品の演出手法の特質を他のメディアと比較して理解することができる。 | ◎ | ○ | | |
| | | | | | (2)作品制作の中から、企画、取材、プレゼンテーションの能力を身につける。 | | | ◎ | ◎ |
| | | | | | (3)演出意図を持って撮影し、それを構成、編集、仕上げを行い、映像作品を制作できる。 | | | | ◎ |
| | | | | | (4)映像制作の実践を通じ、視聴センスを高める。 | | | ○ | ◎ |
| | 外国メディア論 | 2 | 3 | 欧米を中心とする海外のメディアの現状を知り、日本のメディアの立ち位置を体得する | (1)外国メディアの現状を知る | ◎ | | | |
| | | | | | (2)特性を踏まえて各国のメディアの特性を理解する | ◎ | ○ | | |
| | | | | | (3)海外の報道の特性を論評し、表現できる | | | ◎ | ◎ |
| | 電子出版論 | 2 | 3 | 電子出版・デジタルコンテンツに関する基本知識・社会への影響力及び編集技術を、講義と課題制作を通じて学ぶ。特に、コンピュータの操作のみでなく、電子出版・デジタルコンテンツで扱う情報の本質を、デジタルの特性を生かして効果的に表現・伝達するスキルを磨くことに重点を置く。また、デジタルコンテンツの著作権に関する内容も扱う。 | (1)電子出版・デジタルコンテンツの要素技術を理解できる | ○ | | | |
| | | | | | (2)電子出版・デジタルコンテンツに関する著作権を説明できる | | ○ | ○ | |
| | | | | | (3)多様なメディアの特性を生かし、効果的に情報を表現・編集・伝達する技術・手法を説明できる | | | | ◎ |
| (4)簡単なデジタルコンテンツを制作できる | | | | | | | | ◎ | |
| ヒューマン・インタフェース論 | 2 | 3 | ユーザインタフェースのデザイン理論 | (1)認知工学の理論と手法を理解する | ◎ | | | | |
| | | | | (2)インタフェースに関する組織的・社会的側面を理解する | ◎ | | | | |
| | | | | (3)インタフェース設計・評価に上記の知見や手法を活かせる | | ○ | | | |
| パーソナル・メディア論 | 2 | 3 | 携帯電話などのパーソナルメディアに対する研究方法および研究動向の概説 | (1)パーソナルメディアの現状に関する社会科学的な視点を身につける | ◎ | ○ | | | |
| | | | | (2)パーソナルメディアに対するこれまでの研究動向を理解する | ◎ | | | | |
| | | | | (3)現在および今後のメディア環境について、先入観にとらわれることなく考察できる | | ◎ | ○ | | |
| メディア環境分析 | 2 | 3 | メディアと社会、およびメディアと人間との関係に関してグループワークを行い、レポートを作成して発表する | (1)メディアと人間・社会の関係に対する社会科学的な視点とその方法論を、課題に自ら取り組むことにより理解する | ○ | ◎ | | | |
| | | | | (2)グループワークを通じて、他者と協力しつつ課題に取り組み、結論を導き出すことができる | | ○ | ◎ | ○ | |
| | | | | (3)課題への取り組みの結果をレポートという形で他者に表現できる | | | ○ | ◎ | |
| メディアとことばⅡ | 2 | 3 | 社会や生活の変化を踏まえて、メディアの特徴とことば(表現)の関係を具体的に把握・考察する。 | (1)社会変化、特に新しいメディアの発達とことばとの関係について、先行研究によって知る。 | ◎ | | | | |
| | | | | (2)各種メディアの中のことば(表現)について、社会言語学の方法によって具体的に観察・分析・考察できる。 | ◎ | ○ | | | |
| | | | | (3)メディアの変化・発達が私達のことばに与えた影響、メディアの特性とことばの関係についてわかる。 | | ◎ | | | |
| メディア史Ⅱ | 2 | 3 | 戦争におけるメディアの役割(プロパガンダ)について詳しく考察する。 | (1)日本メディア史の特定のテーマについてまとまった知識を身につけ、かつそれを体系的に理解できる。 | ◎ | ○ | | | |
| | | | | (2)メディアと社会との関係について歴史的視点から理解できる。 | ○ | ◎ | | | |
| | | | | (3)歴史資料(とくに図像・映像資料)の特性とその意義について理解できる。 | ○ | ○ | | | |
| 現代若者文化論 | 2 | 3 | 現代日本の若者および若者文化に関する研究動向と現状分析の概要 | (1)若者文化に対する社会科学的な視点と研究方法を理解できる | ◎ | | | | |
| | | | | (2)現代の若者文化について、現代社会との関連から反省的に把握し、考察できる | | ◎ | | ○ | |

| 科目区分 | 授業科目名 | 単位 | 配当年次 | 授業の主題 | 授業の到達目標 | ディプロマポリシーの番号 | | | |
|------------------------------------|-----------|----|--|---|-----------------------------------|-------------------------------|-----------------|------------------|-----------------|
| | | | | | | I 知識・ 理解 | II 思考・ 判断 | III 態度・ 行動 | IV 汎用的 技能 |
| | | | | | | ◎ DP達成のためとくに重要 ○ DP達成のため重要 | | | |
| メディア文化コース専門科目 | 放送メディア論 | 2 | 3 | テレビを中心とする放送メディアについて、放送の影響と歴史的、社会的観点から考察する。 | (1)放送メディアの特性と影響・効果について基礎的な知識を得る。 | ◎ | ○ | | |
| | | | | | (2)放送メディアの歴史について知る。 | ◎ | ◎ | | |
| | | | | | (3)放送メディアの将来について考察できる。 | ○ | ○ | ◎ | |
| | | | | | (4)放送メディアにおけるジャーナリズムとその影響について考える。 | ○ | ◎ | ◎ | |
| | 政治とメディア | 2 | 3 | 番犬論、議題設定など様々な役割を課されたメディアと政治の在り方を理解する | (1)政治権力に対するメディアの基礎的な役割を知る | ◎ | | | |
| | | | | | (2)政治権力に対するジャーナリズムの役割と在り方を説明できる | ◎ | ○ | | |
| | | | | | (3)政治権力に対するメディアの影響などについて適切な論評ができる | | | ○ | |
| | 学習環境デザイン論 | 2 | 3 | テクノロジーを利用した学習支援の理論と実践 | (1)行動主義から状況論に至るまでの学習理論の概要を理解する | ◎ | | | |
| | | | | | (2)コンピュータ利用教育の歴史と課題について理解する | ◎ | | | |
| | | | | | (3)学習環境デザインの実践において上記の知見を活かせる | | ○ | | |
| | プログラミング論 | 2 | 3 | プログラミングの歴史的背景・用語・アルゴリズム・開発工程などの基本知識を学び、実際に簡易プログラムを作成することにより理解を深めることが目的である。プログラム作成には、初心者にも手軽に扱うことが可能であり、かつブラウザ上で動作させてプログラムの動きが確認し易いJavaScriptを用いる。 | (1)プログラミングの用語や基本知識が理解できる | ◎ | | | |
| | | | | | (2)プログラム開発工程を説明できる | ○ | ○ | | |
| | | | | | (3)JavaScriptによる簡単なプログラムを作成できる | | | ○ | ◎ |
| | ポピュラー文化論Ⅱ | 2 | 3 | マンガ・アニメ・映画等、視覚文化に関する研究の事例を詳しく考察する。 | (1)ポピュラー文化論を具体的な事例に適用できる。 | ◎ | | | |
| (2)ポピュラー文化の諸問題について根拠ある思考ができる。 | | | | | | ◎ | | | |
| (3)ポピュラー文化論の最新の言説を知り、読みこなす力を身につける。 | | | | | ○ | ○ | | | |
| 視覚表現論 | 2 | 3 | マンガ・アニメ・映画等の視覚文化の特定の事例について、理論・歴史・国際比較等の観点から多角的に考察する。 | (1)視覚表現研究の最新の事例を知り、その内容を理解できる。 | ◎ | | | | |
| | | | | (2)視覚表現に関する問題と方法を発見できる | | ◎ | | | |
| | | | | (3)映像・図像資料を読み解く方法を身につける。 | ○ | ○ | | | |
| 広報論 | 2 | 3 | 企業や行政等の広報・PR活動に関する理論を学び、事例を研究する。 | (1)広報・PRの理論と事例を知り、その内容を理解できる。 | ◎ | | | | |
| | | | | (2)広報・PRについて正確な知識に基づいた評価・分析ができる。 | | ○ | ○ | ◎ | |
| | | | | (3)広報・PRの理論と技術を基に、自ら企画し、情報発信することができる。 | | ○ | ◎ | ◎ | |
| 情報メディアと博物館 | 2 | 3 | 博物館情報メディア論(博物館に関する科目) | (1)博物館における情報発信がもたらす「体験」の種類とそれぞれの意義について自ら考えることができる。 | ◎ | ◎ | | | |
| | | | | (2)情報メディアの革新と、博物館及び博物館資料の関係について、深く考えることができる。 | | ○ | ◎ | | |
| | | | | (3)公共施設で活動するために十分な情報リテラシーを身につける。 | | | ◎ | ○ | |
| 専門演習Ⅰ・Ⅲ (ニュースと社会) | 各2 | 3 | ニュースを読み解き、社会の現象を説明できる基礎的な能力を涵養、卒論研究を行うための視点や文章力を体得 | (1)メディアの役割を理解できる | ◎ | | | | |
| | | | | (2)社会の中でのニュース全般についてその意味などを論評できる | ◎ | ○ | | | |
| | | | | (3)政治経済社会の事象についてジャーナリズムを踏まえて、論理的に論評、表現できる | | | | ◎ | |
| 専門演習Ⅱ・Ⅳ (ニュースと社会) | 各2 | 3 | 卒論研究を完成する | (1)卒業研究に向けてメディアに関連する問題点を知る | ◎ | ○ | | | |
| | | | | (2)卒業研究に向けた先行研究、調査などの手法を身につける | ◎ | | | | |
| | | | | (3)卒業研究に向けて調査力、文章力、プレゼンテーション力を体得する | | | | ◎ | |

| 科目区分 | 授業科目名 | 単位 | 配当年次 | 授業の主題 | 授業の到達目標 | ディプロマポリシーの番号 | | | |
|-----------------------|----------------|----|---------------------------|--|--|-------------------------------|-----------------|------------------|-----------------|
| | | | | | | I 知識・ 理解 | II 思考・ 判断 | III 態度・ 行動 | IV 汎用的 技能 |
| | | | | | | ◎ DP達成のためとくに重要 ○ DP達成のため重要 | | | |
| メディア文化 コース 専門科目 | 専門演習Ⅰ(メディアと社会) | 2 | 3 | メディア文化について、ジャーナリズム、エンターテインメント、メディア・リテラシー、メディアに発信する広報のフェーズからメディアの役割と影響、歴史的視点から将来について考え、卒業研究においてそれを実践する。 | (1)社会学に関する基礎的な知識と方法論を身につける | | ◎ | | ◎ |
| | | | | | (2)放送メディアの役割と影響を理解できる。 | ◎ | ○ | | |
| | | | | | (3)討論や発表を通じて、自己の意見を主張し伝える技術と他者の意見を聴く力を身につける。 | | ◎ | ◎ | ◎ |
| | | | | | (3)4年生の卒業研究の経過報告から、研究のスキルを修得する | | | ◎ | ◎ |
| | 専門演習Ⅱ(メディアと社会) | 2 | 3 | メディア文化について、ジャーナリズム、エンターテインメント、メディア・リテラシー、メディアに発信する広報のフェーズからメディアの役割と影響、歴史的視点から将来について考え、卒業研究においてそれを実践する。 | (1)社会学に関する基礎的な知識と方法論を身につける | | ◎ | | ◎ |
| | | | | | (2)放送メディアの役割と影響を理解できる。 | ◎ | ○ | | |
| | | | | | (3)討論や発表を通じて、自己の意見を主張し伝える技術と他者の意見を聴く力を身につける。 | | ◎ | ◎ | ◎ |
| | | | | | (4)4年生の卒業研究の経過報告から、研究のスキルを修得する | | | ◎ | ◎ |
| | 専門演習Ⅲ(メディアと社会) | 2 | 4 | 卒業研究の経過報告と指導 | (1)自らの関心に基づき、メディア文化に関する研究の計画を立案できる | ○ | | ○ | ◎ |
| | | | | | (2)卒業研究に必要な資料やデータを調べ、適切な調査計画を立て実施することができる。 | | ○ | ○ | ◎ |
| | | | | | (3)卒業論文をまとめる思考、研究、論文を書く力を身に付ける。 | | ○ | ○ | ◎ |
| | | | | | (4)研究経過の報告を適切に行い、議論することができる | | ○ | ○ | ◎ |
| 専門演習Ⅳ(メディアと社会) | 2 | 4 | 卒業研究の完成にむけての指導 | (1)メディア文化に関する問題点を理解し、研究を完成させる | | ○ | ○ | ◎ | |
| | | | | (2)研究成果を適切に報告し、それを基に議論できる | | ○ | ○ | ◎ | |
| | | | | (3)卒業論文の完成に向け、適切に文章化できる | | ○ | ○ | ◎ | |
| 専門演習Ⅰ(現代文化の社会学) | 2 | 3 | 現代文化の社会学のための基礎的な視点とスキルの修得 | (1)社会学に関する基礎的な知識と方法論を身につける | ◎ | ◎ | | | |
| | | | | (2)レポート発表や議論の高度な技術を身につける | | | ◎ | ○ | |
| | | | | (3)4年生の卒業研究の経過報告に立ち会うことで、研究のスキルを修得する | | ○ | ◎ | ○ | |
| 専門演習Ⅱ(現代文化の社会学) | 2 | 3 | 現代文化の社会学に関する視点とスキルの修得 | (1)現代文化に対する社会学的な視点と方法論をさらに洗練させる | ◎ | | | | |
| | | | | (2)自分自身の関心に基づいて適切な資料やデータを検索できる | | ◎ | | ◎ | |
| | | | | (3)レポート発表や議論の技術をさらに発展させる | | | ◎ | ○ | |
| | | | | (4)4年生の卒業研究の経過報告に立ち会うことで、研究のスキルを修得する | | ○ | ◎ | | |
| 専門演習Ⅲ(現代文化の社会学) | 2 | 4 | 卒業研究の経過報告と指導 | (1)自らの関心に基づき、現代文化に関する研究の計画を立案できる | | ◎ | ○ | ◎ | |
| | | | | (2)卒業研究に必要な資料やデータを適切に検索できる | ○ | ◎ | | ○ | |
| | | | | (3)研究経過の報告を適切に行い、議論することができる | | | ◎ | ◎ | |
| 専門演習Ⅳ(現代文化の社会学) | 2 | 4 | 卒業研究の完成にむけての指導 | (1)現代文化に関する自らの研究を完成させる | ○ | ◎ | | | |
| | | | | (2)研究経過を適切に報告し、議論することができる | ○ | | ◎ | ◎ | |
| | | | | (3)研究の成果を適切に文章化することができる | | ◎ | | ◎ | |

| 科目区分 | 授業科目名 | 単位 | 配当年次 | 授業の主題 | 授業の到達目標 | ディプロマポリシーの番号 | | | |
|---------------|------------------------------|----|------|---|---|-------------------------------|-----------------|------------------|-----------------|
| | | | | | | I 知識・ 理解 | II 思考・ 判断 | III 態度・ 行動 | IV 汎用的 技能 |
| | | | | | | ◎ DP達成のためとくに重要 ○ DP達成のため重要 | | | |
| メディア文化コース専門科目 | 専門演習Ⅰ・Ⅲ (情報メディアと学習支援) | 各2 | 3 | 卒業研究に向けた基礎知識とスキルの修得 | (1)情報メディア研究の基本的手法を身につける | ◎ | | | |
| | | | | | (2)文献の収集、整理、批判的読み解きの基礎を身につける | ◎ | | | |
| | | | | | (3)議論、発表のスキルを身につける | | | | ◎ |
| | 専門演習Ⅱ・Ⅳ (情報メディアと学習支援) | 各2 | 4 | 卒業研究の完成 | (1)情報メディア研究の手法を応用し、研究のデザインができる | ◎ | | | |
| | | | | | (2)先行研究、調査・実験結果を総合的に考察し自分なりに知見を導くことができる | | ◎ | | |
| | | | | | (3)研究内容を論理的な文章で表現できる | | | | ◎ |
| | 専門演習Ⅰ・Ⅱ (情報技術と知的活動支援) | 各2 | 3 | コンピュータを中心とした情報処理技術(ネットワーク、マルチメディアなど)を知的活動(教育・学習・創造など)の支援に積極的に活用するための方法に関する考究を主たるテーマとし、文献・資料調査をもとに発表および討論・議論することにより考察を深める。 | (1)専門分野に必要な情報・文献を収集・分析できる | ○ | | | ◎ |
| | | | | | (2)研究内容を口頭発表および議論できる | | | ◎ | ○ |
| | | | | | (3)研究内容を論理的に文章(レジュメ)にまとめることができる | | ○ | | ◎ |
| | 専門演習Ⅲ・Ⅳ (情報技術と知的活動支援) | 各2 | 4 | コンピュータを中心とした情報処理技術(ネットワーク、マルチメディアなど)を知的活動(教育・学習・創造など)の支援に積極的に活用するための方法に関する考究を主たるテーマとし、文献・資料調査をもとに発表および討論・議論することにより考察を深める。 | (1)専門分野に必要な情報・文献を収集・分析できる | ○ | | | ◎ |
| | | | | | (2)研究内容を口頭発表および議論できる | | | ◎ | ○ |
| | | | | | (3)研究内容を論理的に文章(論文)にまとめることができる | | ○ | | ◎ |
| | 専門演習Ⅰ～Ⅳ (メディアとポピュラーカルチャー) | 各2 | 3～4 | メディア文化に関する実証的調査の方法をグループ学習し、卒業研究において個々がそれを実践する。 | (1)グループワークを通じて、他者と協力して課題解決する力を身につける。 | | ○ | ◎ | |
| | | | | | (2)討論や発表を通じて、自己の意見を的確に主張し他者の意見に耳を傾け理解する力を身につける。 | | ○ | ◎ | |
| | | | | | (3)卒業研究の執筆を通じて、資料を収集・分析し自己の意見を論理的かつ説得的に表現する力を身につける。 | | ◎ | | ○ |
| 学部共通科目 | 地域連携論Ⅰ | 2 | 2 | 働く意義・学ぶ意味を地域社会、学生、教員と一緒に考える。 | (1)社会における企業の役割を理解する。 | ○ | ◎ | | |
| | | | | | (2)企業・社会とのコミュニケーションの中で、自らの問題意識を深めることができる。 | | ○ | ◎ | ◎ |
| | | | | | (3)自分の将来について主体的に考え行動する。 | | | ◎ | ○ |
| | 地域連携論Ⅱ | 2 | 2 | 働く意義・学ぶ意味を地域社会、学生、教員と一緒に考える。 | (1)社会とはどんなところかを大まかに理解する。 | ○ | | | |
| | | | | | (2)大学の勉強がいかに役立つかを理解する。 | | ○ | | |
| | | | | | (3)自分の将来について主体的に考え行動する。 | | | ◎ | ○ |
| | プロジェクト実習A(スタッフ編) | 2 | 2 | 学生自身が企画・運営する各種催事にスタッフとして参加 | (1)一つのプロジェクトの企画・準備・実施・成果記録のプロセスを、複数の学生での協働によって達成する。 | | | ◎ | ◎ |
| | | | | | (2)協働を通じて他を知り、自らの個性・能力を認識する。 | ○ | | | ○ |
| | | | | (3)自分と社会の接点を意識し、自分たちの学習が最終的には社会に帰属することを理解する。 | ○ | ○ | | | |
| | プロジェクト実習B(スタッフ編) | 2 | 2 | 学生自身が企画・運営する各種催事にスタッフとして参加 | (1)一つのプロジェクトの企画・準備・実施・成果記録のプロセスを、複数の学生での協働によって達成する。 | | | ◎ | ◎ |
| | | | | (2)協働を通じて他を知り、自らの個性・能力を認識する。 | ○ | | | ○ | |
| | | | | (3)自分と社会の接点を意識し、自分たちの学習が最終的には社会に帰属することを理解する。 | ○ | ○ | | | |

| 科目区分 | 授業科目名 | 単位 | 配当年次 | 授業の主題 | 授業の到達目標 | ディプロマポリシーの番号 | | | |
|---|------------------|----|----------------------------|--|--|-------------------------------|-----------------|------------------|-----------------|
| | | | | | | I 知識・ 理解 | II 思考・ 判断 | III 態度・ 行動 | IV 汎用的 技能 |
| | | | | | | ◎ DP達成のためとくに重要 ○ DP達成のため重要 | | | |
| 学部共通科目 | プロジェクト実習C(スタッフ編) | 2 | 2 | 学生自身が企画・運営する各種催事にスタッフとして参加 | (1)一つのプロジェクトの企画・準備・実施・成果記録のプロセスを、複数の学生での協働によって達成する。 | | | ◎ | ◎ |
| | | | | | (2)協働を通じて他を知り、自らの個性・能力を認識する。 | ○ | | | ○ |
| | | | | | (3)自分と社会の接点を意識し、自分たちの学習が最終的には社会に帰属することを理解する。 | ○ | ○ | | |
| | プロジェクト実習D(スタッフ編) | 2 | 2 | 学生自身が企画・運営する各種催事にスタッフとして参加 | (1)一つのプロジェクトの企画・準備・実施・成果記録のプロセスを、複数の学生での協働によって達成する。 | | | ◎ | ◎ |
| | | | | | (2)協働を通じて他を知り、自らの個性・能力を認識する。 | ○ | | | ○ |
| | | | | | (3)自分と社会の接点を意識し、自分たちの学習が最終的には社会に帰属することを理解する。 | ○ | ○ | | |
| | プロジェクト実習A(リーダー編) | 2 | 3 | 学生自身が企画・運営する各種催事にリーダーとして参加 | (1)一つのプロジェクトの企画・準備・実施・成果記録のプロセスを、リーダーとして複数の学生と協働することにより達成する。 | | | ◎ | ◎ |
| | | | | | (2)協働を通じて他を知り、自らの個性・能力を認識する。 | ○ | | | ○ |
| | | | | | (3)自分と社会との接点を意識し、自分たちの学習が最終的には社会に帰属することを理解する。 | ○ | ○ | | |
| | プロジェクト実習B(リーダー編) | 2 | 3 | 学生自身が企画・運営する各種催事にリーダーとして参加 | (1)一つのプロジェクトの企画・準備・実施・成果記録のプロセスを、リーダーとして複数の学生と協働することにより達成する。 | | | ◎ | ◎ |
| (2)協働を通じて他を知り、自らの個性・能力を認識する。 | | | | | ○ | | | ○ | |
| (3)自分と社会との接点を意識し、自分たちの学習が最終的には社会に帰属することを理解する。 | | | | | ○ | ○ | | | |
| プロジェクト実習C(リーダー編) | 2 | 3 | 学生自身が企画・運営する各種催事にリーダーとして参加 | (1)一つのプロジェクトの企画・準備・実施・成果記録のプロセスを、リーダーとして複数の学生と協働することにより達成する。 | | | ◎ | ◎ | |
| | | | | (2)協働を通じて他を知り、自らの個性・能力を認識する。 | ○ | | | ○ | |
| | | | | (3)自分と社会との接点を意識し、自分たちの学習が最終的には社会に帰属することを理解する。 | ○ | ○ | | | |
| プロジェクト実習D(リーダー編) | 2 | 3 | 学生自身が企画・運営する各種催事にリーダーとして参加 | (1)一つのプロジェクトの企画・準備・実施・成果記録のプロセスを、リーダーとして複数の学生と協働することにより達成する。 | | | ◎ | ◎ | |
| | | | | (2)協働を通じて他を知り、自らの個性・能力を認識する。 | ○ | | | ○ | |
| | | | | (3)自分と社会との接点を意識し、自分たちの学習が最終的には社会に帰属することを理解する。 | ○ | ○ | | | |
| プロジェクト実習A(メンター編) | 2 | 4 | 学生自身が企画・運営する各種催事にメンターとして参加 | (1)一つのプロジェクトの企画・準備・実施・成果記録のプロセス全体をメンターとして大所高所から目配りしつつ、複数の学生と協働することにより達成する。 | | | ◎ | ◎ | |
| | | | | (2)自らの個性・能力を認識し、メンターという立場から経験の浅い学生達の個性・能力を理解しつつ、協働を進める。 | ○ | | | ○ | |
| | | | | (3)自分と社会との接点を理解し、メンターという立場から経験の浅い学生達が自分たちの学習が最終的に社会に帰属することを理解できるようリードする。 | | ○ | ◎ | ◎ | |
| プロジェクト実習B(メンター編) | 2 | 4 | 学生自身が企画・運営する各種催事にメンターとして参加 | (1)一つのプロジェクトの企画・準備・実施・成果記録のプロセス全体をメンターとして大所高所から目配りしつつ、複数の学生と協働することにより達成する。 | | | ◎ | ◎ | |
| | | | | (2)自らの個性・能力を認識し、メンターという立場から経験の浅い学生達の個性・能力を理解しつつ、協働を進める。 | | | ◎ | ◎ | |
| | | | | (3)自分と社会との接点を理解し、メンターという立場から経験の浅い学生達が自分たちの学習が最終的に社会に帰属することを理解できるようリードする。 | | ○ | ◎ | ◎ | |
| プロジェクト実習C(メンター編) | 2 | 4 | 学生自身が企画・運営する各種催事にメンターとして参加 | (1)一つのプロジェクトの企画・準備・実施・成果記録のプロセス全体をメンターとして大所高所から目配りしつつ、複数の学生と協働することにより達成する。 | | | ◎ | ◎ | |
| | | | | (2)自らの個性・能力を認識し、メンターという立場から経験の浅い学生達の個性・能力を理解しつつ、協働を進める。 | | | ◎ | ◎ | |
| | | | | (3)自分と社会との接点を理解し、メンターという立場から経験の浅い学生達が自分たちの学習が最終的に社会に帰属することを理解できるようリードする。 | | ○ | ◎ | ◎ | |

| 科目区分 | 授業科目名 | 単位 | 配当年次 | 授業の主題 | 授業の到達目標 | ディプロマポリシーの番号 | | | |
|---|------------------|----|---|---|--|-------------------------------|-----------------|------------------|-----------------|
| | | | | | | I 知識・ 理解 | II 思考・ 判断 | III 態度・ 行動 | IV 汎用的 技能 |
| | | | | | | ◎ DP達成のためとくに重要 ○ DP達成のため重要 | | | |
| 学部 共通 科目 | プロジェクト実習D(メンター編) | 2 | 4 | 学生自身が企画・運営する各種催事にメンターとして参加 | (1)一つのプロジェクトの企画・準備・実施・成果記録のプロセス全体をメンターとして大所高所から目配りしつつ、複数の学生と協働することにより達成する。 | | | ◎ | ◎ |
| | | | | | (2)自らの個性・能力を認識し、メンターという立場から経験の浅い学生達の個性・能力を理解しつつ、協働を進める。 | | | ◎ | ◎ |
| | | | | | (3)自分と社会との接点を理解し、メンターという立場から経験の浅い学生達が自分たちの学習が最終的に社会に帰属することを理解できるようリードする。 | | ○ | ◎ | ◎ |
| | 実践連携科目A | 2 | 3 | しっかりした知識に基づくキャリア構想構築の支援 | (1)社会人・職業人としての基礎知識をブラッシュアップする。 | ○ | | | |
| | | | | | (2)進路選択に役立つ基礎技能を獲得する。 | | | | ◎ |
| | 実践連携科目B | 2 | 3 | しっかりした知識に基づくキャリア構想構築の支援 | (1)社会人・職業人としての基礎知識をブラッシュアップする。 | ○ | | | |
| | | | | | (2)進路選択に役立つ基礎技能を獲得する。 | | | | ◎ |
| | インターンシップA | 2 | 2 | 実施期間が2週間(実質10日前後)のインターンシップ | (1)企業や公的機関において現実的課題についての認識と課題解決の能力を習得する。 | | | ○ | ○ |
| | | | | | (2)実務の中で用いられる知識や技術の一端に触れることによって、自己の研究に役立てる。 | | | ○ | ○ |
| | | | | | (3)自らの職業適性や将来の職業選択について考える機会を提供する。 | | | ○ | ○ |
| | インターンシップB | 1 | 2 | 実施期間が1週間(実質5日前後)のインターンシップ | (1)企業や公的機関において現実的課題についての認識と課題解決の能力を習得する | | | ○ | ○ |
| | | | | | (2)実務の中で用いられる知識や技術に十分触れることによって、自己の研究を一層深化させる。 | | | ○ | ○ |
| | | | | | (3)自らの職業適性や将来の職業選択について具体的に考える機会を提供する。 | | | ○ | ○ |
| | 観光学入門 | 2 | 2 | 観光学の基礎知識を取得し、基本概念を学ぶ。 | (1)観光の視点から内外の社会事情を学ぶことにより、現代社会が直面している諸問題を知る。 | ◎ | | | |
| (2)観光事例の学習を通して、観光学の研究方法の基礎を身につける。 | | | | | ○ | ◎ | | | |
| (3)現代社会の諸問題について考察を行い、その解決法を模索し、論理的な文章で表現することができる。 | | | | | | ◎ | ○ | ○ | |
| 地域課題特論ⅠA | 2 | 2 | 行政や企業などの講師による講義を通じて、地域にどのような課題が生じているかを考える。 | (1)地域において行政や企業などのセクターがどのように機能しているかを理解する。 | ◎ | ◎ | ○ | | |
| | | | | (2)行政や企業などのセクターから見て、地域にどのような課題が生じているかを理解する。 | ◎ | ◎ | ○ | | |
| 地域課題特論ⅠB | 2 | 2 | 行政や企業などの講師による講義を通じて、地域にどのような課題が生じているかを考える。 | (1)地域において行政や企業などのセクターがどのように機能しているかを理解する。 | ◎ | ◎ | ○ | | |
| | | | | (2)行政や企業などのセクターから見て、地域にどのような課題が生じているかを理解する。 | ◎ | ◎ | ○ | | |
| 地域課題特論ⅡA | 2 | 3 | 地域の様々な職業的背景を持つ専門家とともに、地域にどのような課題が生じているかを考える。 | (1)地域において様々な職業の専門家がどのように活動しているかを理解する。 | ◎ | ◎ | ○ | | |
| | | | | (2)地域の様々な職業的背景を持つ専門家から見て、地域にどのような課題が生じているかを理解する。 | ◎ | ◎ | ○ | | |
| 地域課題特論ⅡB | 2 | 3 | 地域の様々な職業的背景を持つ専門家とともに、地域にどのような課題が生じているかを考える。 | (1)地域において様々な職業の専門家がどのように活動しているかを理解する。 | ◎ | ◎ | ○ | | |
| | | | | (2)地域の様々な職業的背景を持つ専門家から見て、地域にどのような課題が生じているかを理解する。 | ◎ | ◎ | ○ | | |
| 地域課題演習 | 2 | 3 | 地域の課題について、地域の指導的な専門家とともに討論し、自分の問題関心を深めていく。 | (1)地域の様々な課題を、地域の専門家との討論を通じて、自分の専門的見と関連づけながら発見できる。 | ◎ | ◎ | ◎ | ○ | |
| | | | | (2)地域の様々な課題に対する解決策を、地域の専門家との討論を通じて、自分の専門的知見と関連づけながら論理的に議論できる。 | ◎ | ◎ | ◎ | ○ | |
| 地域課題研究 | 2 | 4 | 地域の特定の課題について、自分の問題関心と専門的な知見を生かしながら、チームを組んで総合的・実践的に研究していく。 | (1)自分と他の受講生の異なる専門的知見を総合しながら、地域の特定の課題を発見し、それに対する解決策を提示できる。 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | |
| | | | | (2)チームによる調査を実践できる。 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | |
| | | | | (3)調査結果や課題と解決策の目的・手段関係をプレゼンテーションできる。 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | |

| 科目区分 | 授業科目名 | 単位 | 配当年次 | 授業の主題 | 授業の到達目標 | ディプロマポリシーの番号 | | | |
|---------------------------|---------|----|----------|---|----------------------------------|-------------------------------|-----------------|------------------|-----------------|
| | | | | | | I 知識・ 理解 | II 思考・ 判断 | III 態度・ 行動 | IV 汎用的 技能 |
| | | | | | | ◎ DP達成のためとくに重要 ○ DP達成のため重要 | | | |
| 学部 共通 科目 | 情報リテラシー | 2 | 2 | 情報処理の自動化について学び、コンピュータの活用能力、及び問題解決に活用でき得る能力を身につける。 | (1)表計算ソフト関数を習得する。 | ○ | | | ◎ |
| | | | | | (2)情報処理の自動化について基礎的に理解する。 | ○ | | | ◎ |
| | | | | | (3)プログラミング作成の技能を習得する。 | ○ | | | ◎ |
| | 英作文 I | 2 | 2 | 英語の文書作成の基礎訓練 | (1)英語の文法事項を正しく使いこなして文章が書ける。 | | | | ◎ |
| | | | | | (2)パラグラフの構成に注意して文章を作成できる。 | | | | ◎ |
| | | | | | (3)パラグラフ間の関係に注目して文章を作成できる。 | | | | ◎ |
| | | | | | (4)最終的に5枚前後のエッセイを英語で書くことができる | ○ | ○ | | ◎ |
| | 英作文 II | 2 | 2 | 英語の文書作成の基礎訓練 | (1)英語の文法事項を正しく使いこなして文章が書ける。 | | | | ◎ |
| | | | | | (2)パラグラフの構成に注意して文章を作成できる。 | | | | ◎ |
| | | | | | (3)パラグラフ間の関係に注目して文章を作成できる。 | | | | ◎ |
| | | | | | (4)最終的に5枚前後のエッセイを英語で書くことができる | ○ | ○ | | ◎ |
| | 英作文 III | 2 | 2 | 英語の文書作成の基礎訓練 | (1)英語の文法事項を正しく使いこなして文章が書ける。 | | | | ◎ |
| | | | | | (2)パラグラフの構成に注意して文章を作成できる。 | | | | ◎ |
| | | | | | (3)パラグラフ間の関係に注目して文章を作成できる。 | | | | ◎ |
| | | | | | (4)最終的に5枚前後のエッセイを英語で書くことができる | ○ | ○ | | ◎ |
| | 英作文 IV | 2 | 2 | 英語の文書作成の基礎訓練 | (1)英語の文法事項を正しく使いこなして文章が書ける。 | | | | ◎ |
| | | | | | (2)パラグラフの構成に注意して文章を作成できる。 | | | | ◎ |
| | | | | | (3)パラグラフ間の関係に注目して文章を作成できる。 | | | | ◎ |
| | | | | | (4)最終的に5枚前後のエッセイを英語で書くことができる | ○ | ○ | | ◎ |
| | 英会話 I | 2 | 2 | 英会話の基礎訓練 | (1)英語の文法事項を正しく使いこなして英語を話すことができる。 | | | | ◎ |
| | | | | | (2)まとまった内容の話を英語で話すことができる。 | | | | ◎ |
| | | | | | (3)英語の母音、子音、抑揚が正しくできる。 | | | | ◎ |
| | | | | | (4)最終的に5～10分のスピーチをできる。 | ○ | ○ | | ◎ |
| | 英会話 II | 2 | 2 | 英会話の基礎訓練 | (1)英語の文法事項を正しく使いこなして英語を話すことができる。 | | | | ◎ |
| (2)まとまった内容の話を英語で話すことができる。 | | | | | | | | ◎ | |
| (3)英語の母音、子音、抑揚が正しくできる。 | | | | | | | | ◎ | |
| (4)最終的に5～10分のスピーチをできる。 | | | | | ○ | ○ | | ◎ | |
| 英会話 III | 2 | 2 | 英会話の基礎訓練 | (1)英語の文法事項を正しく使いこなして英語を話すことができる。 | | | | ◎ | |
| | | | | (2)まとまった内容の話を英語で話すことができる。 | | | | ◎ | |
| | | | | (3)英語の母音、子音、抑揚が正しくできる。 | | | | ◎ | |
| | | | | (4)最終的に5～10分のスピーチをできる。 | ○ | ○ | | ◎ | |
| 英会話 IV | 2 | 2 | 英会話の基礎訓練 | (1)英語の文法事項を正しく使いこなして英語を話すことができる。 | | | | ◎ | |
| | | | | (2)まとまった内容の話を英語で話すことができる。 | | | | ◎ | |
| | | | | (3)英語の母音、子音、抑揚が正しくできる。 | | | | ◎ | |
| | | | | (4)最終的に5～10分のスピーチをできる。 | ○ | ○ | | ◎ | |

| 科目区分 | 授業科目名 | 単位 | 配当年次 | 授業の主題 | 授業の到達目標 | ディプロマポリシーの番号 | | | |
|---|----------------------|----|-------------------------------|---|---|-------------------------------|-----------------|------------------|-----------------|
| | | | | | | I 知識・ 理解 | II 思考・ 判断 | III 態度・ 行動 | IV 汎用的 技能 |
| | | | | | | ◎ DP達成のためとくに重要 ○ DP達成のため重要 | | | |
| 学部 共通 科目 | Advanced Reading I | 2 | 2 | 英語で書かれた一次資料の読み方の訓練 | (1)英語の文章の内容をパラグラフを基礎単位として読み取ることができる。 | ◎ | ◎ | ○ | ◎ |
| | | | | | (2)英語の文章全体の構造を基礎として、文章全体の内容を要約することができる。 | ◎ | ◎ | ○ | ◎ |
| | Advanced Reading II | 2 | 2 | 英語で書かれた一次資料の読み方の訓練 | (1)英語の文章の内容をパラグラフを基礎単位として読み取ることができる。 | ◎ | ◎ | ○ | ◎ |
| | | | | | (2)英語の文章全体の構造を基礎として、文章全体の内容を要約することができる。 | ◎ | ◎ | ○ | ◎ |
| | Advanced Reading III | 2 | 3 | 英語で書かれた一次資料の読み方の訓練 | (1)英語の文章の内容をパラグラフ単位で読み取ることができる。 | ◎ | ◎ | ○ | ◎ |
| | | | | | (2)英語の文章全体の構造を基礎として、文章全体の内容を要約することができる | ◎ | ◎ | ○ | ◎ |
| | Advanced Writing I | 2 | 2 | 英語で論文を書くための訓練 | (1)パラグラフ構造を基礎にして、英語でまとまった文章をかくことができる。 | ◎ | ◎ | ○ | ◎ |
| | | | | | (2)文脈に応じて英語の構文を適切に使用することができる。 | | | ○ | ◎ |
| | | | | | (3)英語の文法事項を使いこなし、英語でOKな表現かダメな表現かを自分で予測しながら文章を作成できる。 | | | | ◎ |
| | Advanced Writing II | 2 | 3 | 英語で論文を書くための訓練 | (1)パラグラフ構造を基礎にして、英語でまとまった文章をかくことができる。 | ◎ | ◎ | ○ | ◎ |
| | | | | | (2)文脈に応じて英語の構文を適切に使用することができる。 | | | ○ | ◎ |
| | | | | | (3)英語の文法事項を使いこなし、英語でOKな表現かダメな表現かを自分で予測しながら文章を作成できる。 | | | | ◎ |
| | Advanced Speaking | 2 | 3 | 英語で発表を行う実践的訓練 | (1)適切な分節音の発音で発話ができる。 | | | ○ | ◎ |
| | | | | | (2)文脈に応じて適切な抑揚をつけて英語が発音できる。 | | | ○ | ◎ |
| (3)(1)と(2)を前提として、学問的な内容について、まとまった話を英語で話ることができる。 | | | | | ◎ | ◎ | ○ | ◎ | |
| Advanced Presentation | 2 | 3 | 英語で発表を行う実践的訓練 | (1)適切な分節音の発音で発話ができる。 | | | ○ | ◎ | |
| | | | | (2)文脈に応じて適切な抑揚をつけて英語が発音できる。 | | | ○ | ◎ | |
| | | | | (3)(1)と(2)を前提として、学問的な内容について、まとまった話を英語で話ることができる。 | ◎ | ◎ | ○ | ◎ | |
| Language and Culture in Japan A | 2 | 3 | 日本の言語、文学、文化、歴史、地理などについての英語の講義 | (1)英語で行われる専門的な授業を理解できる。 | ◎ | ◎ | ◎ | ○ | |
| | | | | (2)日本の言語、文学、文化、歴史、地理などについて英語を通して理解できる。 | ◎ | ◎ | ◎ | ○ | |
| Language and Culture in Japan B | 2 | 3 | 日本の言語、文学、文化、歴史、地理などについての英語の講義 | (1)英語で行われる専門的な授業を理解できる。 | ◎ | ◎ | ◎ | ○ | |
| | | | | (2)日本の言語、文学、文化、歴史、地理などについて英語を通して理解できる。 | ◎ | ◎ | ◎ | ○ | |
| Language and Culture in Japan C | 2 | 3 | 日本の言語、文学、文化、歴史、地理などについての英語の講義 | (1)英語で行われる専門的な授業を理解できる。 | ◎ | ◎ | ◎ | ○ | |
| | | | | (2)日本の言語、文学、文化、歴史、地理などについて英語を通して理解できる。 | ◎ | ◎ | ◎ | ○ | |
| Language and Culture in Japan D | 2 | 3 | 日本の言語、文学、文化、歴史、地理などについての英語の講義 | (1)英語で行われる専門的な授業を理解できる。 | ◎ | ◎ | ◎ | ○ | |
| | | | | (2)日本の言語、文学、文化、歴史、地理などについて英語を通して理解できる。 | ◎ | ◎ | ◎ | ○ | |
| Language and Culture in Japan E | 2 | 3 | 日本の言語、文学、文化、歴史、地理などについての英語の講義 | (1)英語で行われる専門的な授業を理解できる。 | ◎ | ◎ | ◎ | ○ | |
| | | | | (2)日本の言語、文学、文化、歴史、地理などについて英語を通して理解できる。 | ◎ | ◎ | ◎ | ○ | |

| 科目区分 | 授業科目名 | 単位 | 配当年次 | 授業の主題 | 授業の到達目標 | ディプロマポリシーの番号 | | | |
|------------------------------------|---------------------------------|----|---------------|------------------------------------|--|-------------------------------|-----------------|------------------|-----------------|
| | | | | | | I 知識・ 理解 | II 思考・ 判断 | III 態度・ 行動 | IV 汎用的 技能 |
| | | | | | | ◎ DP達成のためとくに重要 ○ DP達成のため重要 | | | |
| 学部 共通 科目 | Language and Culture in Japan F | 2 | 3 | 日本の言語、文学、文化、歴史、地理などについての英語の講義 | (1)英語で行われる専門的な授業を理解できる。 | ◎ | ◎ | ◎ | ○ |
| | | | | | (2)日本の言語、文学、文化、歴史、地理などについて英語を通して理解できる。 | ◎ | ◎ | ◎ | ○ |
| | Language and Culture in Japan G | 2 | 3 | 日本の言語、文学、文化、歴史、地理などについての英語の講義 | (1)英語で行われる専門的な授業を理解できる。 | ◎ | ◎ | ◎ | ○ |
| | | | | | (2)日本の言語、文学、文化、歴史、地理などについて英語を通して理解できる。 | ◎ | ◎ | ◎ | ○ |
| | Language and Culture in Japan H | 2 | 3 | 日本の言語、文学、文化、歴史、地理などについての英語の講義 | (1)英語で行われる専門的な授業を理解できる。 | ◎ | ◎ | ◎ | ○ |
| | | | | | (2)日本の言語、文学、文化、歴史、地理などについて英語を通して理解できる。 | ◎ | ◎ | ◎ | ○ |
| | 英語学概論 | 2 | 2 | 現代英語の仕組み、歴史、位置づけについての講義 | (1)現代英語の言語学的位置づけを理解できる。 | ◎ | ◎ | ○ | |
| | | | | | (2)現代英語の発音、文構造、構文と意味のずれ、などの仕組みについて理解できる。 | ◎ | ◎ | ○ | |
| | | | | | (3)英語の文法現象について、自分で考え、具体的事象についてレポートにまとめられる。 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ |
| | 英文法概説 | 2 | 2 | 現代英語の文法についての包括的な講義 | (1)現代英語の文構造の仕組みについて、普遍性と特殊性にわけて理解できる。 | ◎ | ◎ | ○ | |
| | | | | | (2)現代英語の文構造と意味の対応関係について理解できる。 | ◎ | ◎ | ○ | |
| | | | | | (3)現代英語の文法現象について、自分で考え、具体的事象についてレポートにまとめられる。 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ |
| | ドイツ語演習 I | 2 | 2 | ドイツ語の読解力を養成する | (1)やさしいドイツ語の文章を辞書を用いて読むことができる。 | ○ | | | |
| | | | | | (2)テキストの内容について具体的に説明することができる。 | | | | ○ |
| (3)ドイツ語検定試験3級合格を狙える実力を身につけることができる。 | | | | | | | | ○ | |
| ドイツ語演習 II | 2 | 2 | ドイツ語の読解力を養成する | (1)やさしいドイツ語の文章を辞書を用いて確実に読むことができる。 | ○ | | | | |
| | | | | (2)テキストの内容について具体的に説明することができる。 | | | | ○ | |
| | | | | (3)ドイツ語検定試験3級合格程度の実力を身につけることができる。 | | | | ○ | |
| ドイツ語演習 III | 2 | 3 | ドイツ語の読解力を養成する | (1)やさしいドイツ語の文章を辞書を用いて十分に読むことができる。 | ○ | | | | |
| | | | | (2)テキストの内容について具体的に説明することができる。 | | | | ○ | |
| | | | | (3)ドイツ語検定試験3級合格程度の実力を身につけることができる。 | | | | ○ | |
| ドイツ語作文 I | 2 | 2 | ドイツ語の作文力を養成する | (1)やさしいドイツ語の文章を作文することができる。 | ○ | | | | |
| | | | | (2)教材の狙いについて具体的に理解・説明することができる。 | | | | ○ | |
| | | | | (3)ドイツ語検定試験3級合格を狙える実力を身につけることができる。 | | | | ○ | |
| ドイツ語作文 II | 2 | 3 | ドイツ語の作文力を養成する | (1)やさしいドイツ語の文章を確実に作文することができる。 | ○ | | | | |
| | | | | (2)教材の狙いについて具体的に理解・説明することができる。 | | | | ○ | |
| | | | | (3)ドイツ語検定試験3級合格程度の実力を身につけることができる。 | | | | ○ | |
| ドイツ語作文 III | 2 | 3 | ドイツ語の作文力を養成する | (1)やさしいドイツ語の文章を十分に作文することができる。 | ○ | | | | |
| | | | | (2)教材の狙いについて具体的に理解・説明することができる。 | | | | ○ | |
| | | | | (3)ドイツ語検定試験3級合格程度の実力を身につけることができる。 | | | | ○ | |
| ドイツ語会話 I | 2 | 2 | ドイツ語の会話力を養成する | (1)やさしいドイツ語の会話をおこなうことができる。 | ○ | | | | |
| | | | | (2)教材の狙いについて具体的に理解・説明することができる。 | | | | ○ | |
| | | | | (3)ドイツ語検定試験3級合格を狙える実力を身につけることができる。 | | | | ○ | |

| 科目区分 | 授業科目名 | 単位 | 配当年次 | 授業の主題 | 授業の到達目標 | ディプロマポリシーの番号 | | | |
|----------------|----------|----|--------------------|--|------------------------------------|-------------------------------|-----------------|------------------|-----------------|
| | | | | | | I 知識・ 理解 | II 思考・ 判断 | III 態度・ 行動 | IV 汎用的 技能 |
| | | | | | | ◎ DP達成のためとくに重要 ○ DP達成のため重要 | | | |
| 学部 共通 科目 | ドイツ語会話Ⅱ | 2 | 3 | ドイツ語の会話力を養成する | (1)やさしいドイツ語の会話を確実にこなうことができる。 | ○ | | | |
| | | | | | (2)教材の狙いについて具体的に理解・説明することができる。 | | | | ○ |
| | | | | | (3)ドイツ語検定試験3級合格程度の実力を身につけることができる。 | | | | ○ |
| | ドイツ語会話Ⅲ | 2 | 3 | ドイツ語の会話力を養成する | (1)やさしいドイツ語の会話を十分におこなうことができる。 | ○ | | | |
| | | | | | (2)教材の狙いについて具体的に理解・説明することができる。 | | | | ○ |
| | | | | | (3)ドイツ語検定試験3級合格程度の実力を身につけることができる。 | | | | ○ |
| | フランス語演習Ⅰ | 2 | 2 | フランス語の読解力を養成する | (1)やさしいフランス語の文章を自力で読むことができる。 | ○ | | | |
| | | | | | (2)テキストの内容について具体的に説明することができる。 | | | | ○ |
| | | | | | (3)フランス語検定試験3級合格程度の実力を身につけることができる。 | | | | ○ |
| | フランス語演習Ⅱ | 2 | 2 | フランス語の読解力を養成する | (1)やさしいフランス語の文章を自力で確実に読むことができる。 | ○ | | | |
| | | | | | (2)テキストの内容について具体的に説明することができる。 | | | | ○ |
| | | | | | (3)フランス語検定試験3級合格程度の実力を身につけることができる。 | | | | ○ |
| フランス語作文Ⅰ | 2 | 2 | フランス語の作文力を養成する | (1)やさしいフランス語の文章を自力で作文することができる。 | ○ | | | | |
| | | | | (2)教材の狙いについて具体的に理解・説明することができる。 | | | | ○ | |
| | | | | (3)フランス語検定試験3級合格程度の実力を身につけることができる。 | | | | ○ | |
| フランス語作文Ⅱ | 2 | 3 | フランス語の作文力を養成する | (1)やさしいフランス語の文章を自力で確実に作文することができる。 | ○ | | | | |
| | | | | (2)教材の狙いについて具体的に理解・説明することができる。 | | | | ○ | |
| | | | | (3)フランス語検定試験3級合格程度の実力を身につけることができる。 | | | | ○ | |
| フランス語作文Ⅲ | 2 | 3 | フランス語の会話力を養成する | (1)やさしいフランス語の文章を自力で十二分に作文することができる。 | ○ | | | | |
| | | | | (2)教材の狙いについて具体的に理解・説明することができる。 | | | | ○ | |
| | | | | (3)フランス語検定試験3級合格以上の実力を身につけることができる。 | | | | ○ | |
| フランス語会話Ⅰ | 2 | 2 | フランス語の会話力を養成する | (1)やさしいフランス語の会話を自力でおこなうことができる。 | ○ | | | | |
| | | | | (2)会話の内容について、ある程度まで具体的に理解・説明することができる。 | | | | ○ | |
| | | | | (3)フランス語検定試験3級合格程度の実力を身につけることができる。 | | | | ○ | |
| フランス語会話Ⅱ | 2 | 3 | フランス語の会話力を養成する | (1)やさしいフランス語の会話を自力で確実にこなうことができる。 | ○ | | | | |
| | | | | (2)会話の内容について具体的に理解・説明することができる。 | | | | ○ | |
| | | | | (3)フランス語検定試験3級合格程度の実力を身につけることができる。 | | | | ○ | |
| フランス語会話Ⅲ | 2 | 3 | フランス語の会話力を養成する | (1)やさしいフランス語の会話を自力で十二分におこなうことができる。 | ○ | | | | |
| | | | | (2)会話の内容について具体的に理解・説明することができる。 | | | | ○ | |
| | | | | (3)フランス語検定試験3級合格以上の実力を身につけることができる。 | | | | ○ | |
| 中国語演習Ⅰ | 2 | 2 | 会話を中心に中国語運用能力を養成する | (1)中国語の初中級文法を修得できる。 | ○ | | | | |
| | | | | (2)中国語の日常会話を無理なくこなせることができる。 | ○ | | | | |
| | | | | (3)中国語検定試験4級はもちろん3級合格を狙える実力を身につけることができる。 | ○ | | | | |

| 科目区分 | 授業科目名 | 単位 | 配当年次 | 授業の主題 | 授業の到達目標 | ディプロマポリシーの番号 | | | |
|----------------|----------|----|------------|-----------------------------|--|-------------------------------|-----------------|------------------|-----------------|
| | | | | | | I 知識・ 理解 | II 思考・ 判断 | III 態度・ 行動 | IV 汎用的 技能 |
| | | | | | | ◎ DP達成のためとくに重要 ○ DP達成のため重要 | | | |
| 学部 共通 科目 | 中国語演習Ⅱ | 2 | 2 | 会話を中心に中国語運用能力を養成する | (1)中国語の初中級文法を修得できる。 | ○ | | | |
| | | | | | (2)中国語の日常会話を無理なくこなせることができる。 | ○ | | | |
| | | | | | (3)中国語検定試験4級はもちろん3級合格を狙える実力を身につけることができる。 | ○ | | | |
| | ギリシア語Ⅰ | 2 | 2 | 古典ギリシア語の初等文法 | (1)ギリシア語の綴りをみて発音でき、文を読むことができる。 | ◎ | | | |
| | | | | | (2)基本的な動詞・名詞・形容詞の基礎的变化を修得している。 | ○ | | | |
| | | | | | (3)ギリシア語の簡単な文の意味が分かる。 | ○ | | | ○ |
| | ギリシア語Ⅱ | 2 | 2 | 古典ギリシア語の初等文法(続) | (1)ギリシア語動詞・名詞の変化のパターンをひとつとおり学んでいる。 | ○ | | | |
| | | | | | (2)簡単な複文について意味が理解できる。 | ◎ | | | |
| | | | | | (3)様相表現、条件文を理解し、辞書があれば古典の文章を読むことができる。 | ○ | | | ○ |
| | エスペラント語Ⅰ | 2 | 2 | エスペラント語の基礎 | (1)エスペラント語の読み書きの基礎を修得する。 | ◎ | | | |
| | | | | | (2)エスペラント語の創案された背景を理解する。 | | ○ | | |
| | | | | | (3)エスペラント語の現代的意義について自分の意見を持つ。 | | | ○ | ○ |
| エスペラント語Ⅱ | 2 | 2 | エスペラント語の応用 | (1)エスペラント語の読み書きの応用を修得する。 | ◎ | | | | |
| | | | | (2)エスペラント語での基本的な会話能力を身につける。 | ○ | | | | |
| | | | | (3)エスペラント語を活用していくための展望を持つ。 | | ○ | ◎ | ◎ | |